

美濃国方県郡木田村 山田家文書目録

岐阜大学 地域科学部 地域資料・情報センター

岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵史料目録 (2)

## 美濃国方県郡木田村 山田家文書目録

岐阜大学 地域科学部 地域資料・情報センター

岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵史料目録 (2)

## 美濃国方県郡木田村 山田家文書目録



## 目録の刊行にあたって

岐阜大学地域科学部 地域資料・情報センター

運営委員（地域科学部准教授） 朴 澤 直 秀

岐阜大学地域科学部地域資料・情報センターでは、地域に関する資料・情報を収集するとともに、そのデータを広く発信して、学内外の利用に供すべく、鋭意事業を進めている。

その一環として、学内に所在する貴重な地域資料の情報整理・発信を行っている。岐阜大学教育学部郷土博物館には、1万点をこえる規模の美濃国大野郡高屋村（現本巣市）の古田家文書を筆頭に、3万点に及ぶ近世・近代文書がある。これらの多くは長良川水系流域を中心とした地域の村々の庄屋家の文書であり、当該地域の近世・近代を知る上でたいへん貴重かつ内容豊富な史料である。

これらの史料については既に粗々の整理がなされ、岐阜大学教養部教授であった日置弥三郎氏の監修のもと、『岐阜大学教育学部庶民史料目録』(1)～(3) (1967年～1968年)として目録が刊行されている。しかしながら、人員・経費の不足のもとで行われた事情もあり、それらの目録は現在からみると不備が多い。また、史料自体の保存状況も良好ではなく、早急の手当が必要である。よって、これらの貴重な史料をより広汎な利用に供し、かつ喫緊の課題である劣化防止の措置を講ずべく、2005年度より、再整理と新規の目録作成とを行ってきた。

これまで、2006年度には、『岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵史料目録』(1)として『美濃国方県郡河渡村村木家文書目録』を、また2008年度には『岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵史料目録別冊』(1)として『岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵村絵図』を刊行した。

本年度は、幸いにして平成21（2009）年度岐阜大学活性化経費（地域連携：一般）として、「岐阜大学所蔵地域史料の再整理と情報発信」が採択された。本目録の刊行は、同事業の一環として行われるものである。同事業は、地域科学部と教育学部との共同事業（申請者：朴澤直秀、共同事業者：伊東久之〈教育学部教授〉、中尾喜代美〈地域資料・情報センター教務補佐員〉）であり、遂行にあたっては教育学部より多大なご協力を賜った。本目録の作成実務は、既刊の目録・図録等に引き続き中尾喜代美が担当した。

本目録で取り上げる山田家文書は、現在の岐阜市西部で、旧長良古川・伊自良川・板屋川の合流地点に所在する木田村の、良質な村文書である。また先に刊行した、木田村の南方に位置する河渡村の村木家文書の目録、さらには村木家文書自体を併せてご参照いただくことにより、当該地域と地域内の近世村落との特質を多岐にわたり読み取っていただくことができるかと思う。そして、郷土博物館収蔵のものに限らず、さらなる史料の調査・整理が進められることにより、県域・周辺地域の歴史を、さらに立体的に把握することが可能になるであろう。かかる意味においても、学内外の、史料や記録資料の調査・整理・保存、及び活用のための恒久的基盤を整備することの必要性が痛感されるのである。





# 目 次

目録の刊行にあたって

目 次

凡 例

解 題 .....	1
木田村山田家文書について	
現状記録	
木田村関連史料	
木田村について	
頭分制と木田村	
木田村の組	
山田家について	
概 要	
参考文献	

目 録

い	「土 地」 .....	16
ろ	「貢 租」 .....	20
は	「村 政」 .....	46
に	「村 経 済」 .....	54
ほ	「戸 口」 .....	68
へ	「治 水 土 木」 .....	84
と	「災 害 ・ 救 恤」 .....	96
ち	「交 通」 .....	102
り	「社 寺」 .....	102
ぬ	「個 人 雑 事」 .....	104
る	「金 融」 .....	110
お	「 雑 」 .....	112
明治	「明治時代文書」 .....	116
未	「未 整 理 史 料」 .....	116

## 凡 例

- 1 本目録は、岐阜大学教育学部郷土博物館が収蔵する美濃国方県郡木田村山田家文書の目録である。
- 2 現状において木田村山田家文書は、1968（昭和43）年発行『岐阜大学教育学部庶民史料目録』（2）の通りに配架されており、本目録の配列もそれに従った。1968年発行の目録の凡例は解題に引用している。史料の一部で、この目録に明記されていないものは、適宜番号を追加した。以前の整理では未整理であった帳くずれの史料は、「未」という文書の単位番号を加え、現状の秩序に従って整理し付番した。
- 3 目録は「番号」、「枝番」、「表題」、「年代」、「西暦」、「形態」、「数」、「作成」、「受取」、「備考」の順に記載した。「番号」の頭には、文書の単位記号（「ろ」～「お」「明治」「未」）を加えている。「枝番」の中の丸番号は綴であることを示す。
- 4 史料中の旧字体や異体字は常用漢字などに改めた。合字の「ㇿ」は「より」と表記した。破損などで判読不明の部分は□（字数が推定できるもの）や〔 〕（字数が推定できないもの）で表現した。判読などに疑問のある文字については（…カ）と記した。
- 5 表題は史料に記載されたものを採用し、補足が必要なものは（ ）を付け、その内容を示した。表題がない史料は、〔 〕を付け、仮表題を作成した。内容が不明な場合は、史料の最初の文言の一部を抜き出して「 』内に記した。所在不明の史料についてはは、《 》で示した。
- 6 年代は史料に記載されたものを取り、推定・参考年代は（ ）、（ カ）で記した。
- 7 形態は冊子物では縦・横長・横半・小横とし、一紙物では一紙・切紙・続紙とした。
- 8 作成・受取は史料に記載された地名・肩書き・人名などを記載したが、連印などの場合は省略し総人数のみを記した。
- 9 備考には史料の状態（綴、破損など）や、表紙の書き込みなど必要と思われる様々な情報を記した。
- 10 史料の保存状態については現状記録を参照されたい。
- 11 史料の閲覧の際の連絡先は下記の通りである。

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1 岐阜大学教育学部（本館）5階

TEL 058-293-2223 または058-293-2209

\* 史料などの閲覧は、事前予約で対応。詳細は、上記連絡先まで。

# 解 題

## 木田村山田家文書について

岐阜大学教育学部郷土博物館（以下、郷土博物館と表記）収蔵の美濃国方県郡木田村山田家文書とは、18世紀後半から19世紀後半を中心とした木田村西組の庄屋を勤めた家の史料である。総点数（綴の中の史料も1点と数える）は1238点を数える。

この文書は、つとに1948年発足の近世庶民史料調査委員会が行った全国的な史料所在調査時点で、岐阜大学学芸学部（現在の教育学部）史学研究室に保管されており、概要については『近世庶民史料所在目録 第三輯』（1955年、日本学術振興会）に記されている。その内容は以下の通りである。

中部 一六八〇

所蔵者 岐阜市長良町 岐阜大学学芸学部史学研究室 保管

旧地名 美濃国方県郡木田村（天領）

数 量 公九〇一冊 私三六冊

年 代 慶長一四年—明治六年 主として江戸後期

内 容 木田村西組の庄屋文書で、慶長検地帳を始め、土地・租税、戸口、村方、及び凶荒救恤、土木、金融等に関するものが最も多い。年代的には宝暦・明和以降のものが大部分である。廿六年度調査の木田村東組庄屋坂口文書と合せ研究すれば、前代木田村（現岐阜市木田村）の全貌をつかむことが出来るであらう。

この文書のほとんどが冊子物で一紙物は非常に少ないことから、何らかの選定（古紙業者などによる）があったと思われる。また木田村山田家文書ではないと考えられる史料も、数点混在している。

石津郡牧田村関係カ … 鉄砲改帳（は1・は2）、牧田川渡船承知につき達（は52）

池田郡脛永村関係カ … 貢租取立高米掛帳（明治5～明治7）

安八郡神戸村関係カ … 御触状留（は40）、仕切状（ぬ79・ぬ80・ぬ86）

これらの史料は、山田家文書を岐阜大学学芸学部が購入する時点ですでに混入していたのか、もしくは保管後の整理時に紛れ込んでしまったのかは不明である。この当時の史料の保管状況については未詳であるが、1964年、長良キャンパス内に学芸学部郷土博物館が開館すると、古文書は「本館会議室、図書館などより」博物館へ移転している（郷土博物館収蔵「博物館日誌」）。

木田村山田家の文書目録については、『岐阜大学教育学部庶民史料目録（2）』（1968年）に収録されている。その時の整理の概要は、以下の通りである。

## 凡 例

1. 本目録には、次の10種の文書が収載されている。これらは戦後の混乱に近世庶民史料が一時に散逸するのをおしんで、当学部が相ついで購入したものである。（中略）

山 田 家 岐阜市木田 （中略）

2. 各文書の整理は、江戸と明治の2時代に大別し、江戸時代は次の分類を立てた。同一分類項目内は

ほぼ年代順に配列し、関係文書は一括することにとめた。

〔い〕土 地 〔ろ〕貢 租 〔は〕村 政 〔に〕村 経 済  
〔ほ〕戸 口 〔へ〕治水土木 〔と〕災害・救恤 〔ち〕交 通  
〔り〕社寺・習俗 〔ぬ〕個人雑事 〔る〕金 融 〔お〕雑

3. 明治時代文書は分類しないで一括し、大体年代順に配列し、文書には「明治」の印を押して江戸時代文書と区別してある。
4. 書状など未整理のものが、各文書とも相当数残されている。

当時の整理に関して「余暇をみてのこととて、大まかな分類原則も乱れがちに終っている」と、目録を監修された日置弥三郎氏（当時、岐阜大学教養部）は記している。この整理で、20箱の段ボール製の文書箱に収納された。その後、岐阜大学の移転に伴い、郷土博物館は現在の教育学部本館5階へ移動し、古文書は収蔵室に保管されている。段ボール製文書箱のうちの2箱分は、松田之利氏（当時、岐阜大学教養部）の整理により、金属製の文書箱への入れ替えが行われた。

郷土博物館に保管されている木田村山田家文書は、『岐阜県史』や『岐阜市史』などに多数利用され、翻刻の一部も収載されている。また、頭分百姓という家格をめぐるの村方騒動に関する論文にも多く用いられている。ただし、史料の中には所在不明のものもある。

この木田村山田家文書の一部は、立教大学図書館にも所蔵されている。「立教大学図書館所蔵文書概要」（『史苑』30—1、1969年）には、以下の通り記載されている。

## 17 方県郡木田村文書

1 ※

2 岐阜市

3 イ、三七冊 口、三一通 へ、九舗 （イ、冊子 口、一紙物 へ、絵図面）

4 寛文・天明期の検地帳、天保期の御用向諸事書留帳。そのほか五人組仕置帳など年代的に分散している。また一紙物は宝暦六年下尻毛村木田村旦之嶋川河二付立会済口証文一卷のほか、関連性なく全時代にある。なお当村史料の一部分は岐阜大学に所蔵されている。

※1は、原蔵者の項目で「原蔵者の記載のないものは、不明または不確であることを示す。」とあり。

現在、立教大学図書館所蔵の美濃国方県郡木田村文書（86点）の目録は、立教大学図書館のHPから確認することが可能である（2010年2月現在）。

岐阜大学所蔵分についても、すでに目録は刊行されているが、さらに広範な利用に寄与するため、目録のデータベース公開と史料保存を目的として、2009年から再整理を開始した。保存のために、史料を1点ずつ中性紙仕様の文書封筒へ収納し、段ボール製・金属製の文書箱から中性紙仕様の文書箱へ入れ替えを行った。今回の整理に当たり、史料番号は1968年刊行の目録の通りとしている。この目録に番号がなかった史料は、適宜番号を追加した。以前の整理では、未整理のまま残されていた帳くずれなどの史料整理も行い、目録の最後に加えた。その史料番号は現状の秩序に従って、整理順に番号を付けている。

## 現状記録

中性紙仕様の文書箱に入れ替える前の状態では、段ボール製文書箱18箱（蓋45.0×55.6×11.4cm、底44.2×54.6×12.0）・金属製文書箱2箱（蓋44.4×54.2×7.8cm、底44.0×53.8×12.0cm）に入れられ、教育学部

入れ替え前の箱	箱 書 (蓋側面)	収納史料	収納状態
文書箱1(金属製)	山田文書(い)土地(全)	い1~3・5~11・13・15~37	
文書箱2(段ボール製)	木田村山田文書(二) (ろ)貢租1~36	ろ1~36	
文書箱3(段ボール製)	木田村山田文書(三) (ろ)貢租37~66	ろ37~51・53~66	
文書箱4(段ボール製)	木田村山田文書(四) (ろ)貢租67~101	ろ67~101	
文書箱5(段ボール製)	木田村山田文書(五) (ろ)貢租102~165	ろ102~165	
文書箱6(金属製)	山田文書(ろ)166~333	ろ166~336	
文書箱7(段ボール製)	木田村山田文書(七) (は)村政全	は1~4・7~20・22~33・35~63	
文書箱8(段ボール製)	木田村山田文書(八) (に)村経済1~30	に1~30	
文書箱9(段ボール製)	木田村山田文書(九) (に)村経済31~82	に31~82	
文書箱10(段ボール製)	木田村山田文書(十) (に)村経済83~195止	に83~192・194~198	
文書箱11(段ボール製)	木田村山田文書(十一) 戸口(ほ)1~21	ほ1~21	
文書箱12(段ボール製)	木田村山田文書(十二) 戸口(ほ)22~48	ほ22~48	
文書箱13(段ボール製)	木田村山田文書(十三) 戸口(ほ)49~76	ほ49~76	
文書箱14(段ボール製)	木田村山田文書(十四) 戸口(ほ)77~109	ほ77~80・82~86・88~94・96~101・103・105~109	
文書箱15(段ボール製)	木田村山田文書(十五) 土木治水(へ)1~108	へ1~109	へ1~19はビニール紐一括 へ20~29はビニール紐一括 へ30~42はビニール紐一括 へ43~70はビニール紐一括 へ71~109はビニール紐一括
文書箱16(段ボール製)	木田村山田文書(十六) 災害(と)全 交通(ち)全 社寺(り)全 明治全	と1~24・26~49 ち1~8 り1~6 明治1~7	と1~24・26~38はビニール紐一括 と39~49はビニール紐一括 ち1~8はビニール紐一括 り1~6はビニール紐一括 明治1~4はビニール紐一括 明治5~7は紐一括
文書箱17(段ボール製)	木田村山田文書(十七) 個人雑事(ぬ)1~40	ぬ1~40	ぬ1~13はビニール紐一括 ぬ14~23はビニール紐一括
文書箱18(段ボール製)	木田村山田文書(十八) 個人雑事(ぬ)41~84止 金融(る)全 雑(お)1~31全	ぬ41~84・86 と25 る1~18 お1~31	ぬ41~54はビニール紐一括 ぬ55~84・86・と25はビニール紐一括 る1~18はビニール紐一括 お1~31はビニール紐一括
文書箱19(段ボール製)	木田村山田文書(十九) (お)雑32~58	お32~59	お32~44はビニール紐一括 お45~53はビニール紐一括 お54~59はビニール紐一括
文書箱20(段ボール製)	木田村山田文書(廿)止 未整理	未1~未102	

本館5階の郷土博物館収蔵室に保管されていた。詳細は表の通りである。

本目録発行段階において所在不明の史料は、い4・い12・い14・は5・は6・は21・は34・ほ81・ほ87・

ほ95・ほ102・ほ104・ぬ85である。また、ろ52・に193は欠番である。

## 木田村関連史料

木田村の史料として、木田村東組庄屋を勤めた坂口家に伝来した文書が、岐阜県歴史資料館に寄託されている。このうち近世文書の一部（約1400点）は、すでに目録が刊行されている（『坂口通雄家文書目録(1)』岐阜県所在史料目録第16集）。坂口家文書中の年貢免定や木田村の村法、頭分をめぐる村内での争論や、秣場・板屋川の堤防をめぐる近隣の村々との争論、磐城平藩の勝手方改革時の村々からの願書など、様々な史料の翻刻は『岐阜県史 史料編近世四』（pp. 535～542）・『岐阜市史 史料編近世二』（pp. 982～1042）などに収録されている。

明和8年（1771）・文久2年（1862）・明治2年（1869）の木田村明細帳は、岐阜県歴史資料館所蔵の「明治期岐阜県庁事務文書」の中に収められ、明和8年の明細帳は『岐阜市史 史料編近世二』（pp. 1181～1185）に収録されている（『明治期岐阜県庁事務文書その一』岐阜県立図書館郷土資料目録第3集）。

木田村やその周辺で行われた川普請関連の文書や絵図なども、岐阜県歴史資料館所蔵の「美濃郡代笠松陣屋堤方役所文書」に残されている（『美濃郡代笠松陣屋堤方役所文書』岐阜県立図書館郷土資料目録第2集）。これらの絵図の概要については、『美濃郡代笠松陣屋堤方役所文書絵図解説目録』や『飛驒・美濃の古地図と史料』を参照されたい。

天保9年（1838）の幕府巡検使の通行時に作成された磐城平藩領の絵図が「切通村文書」（切通陣屋と各村々との仲介役であった元取・惣代や、切通村上市場の庄屋を勤めた家の史料など）に残されており、この中に木田村絵図が含まれている（『切通村文書目録』『企画展 古地図』、以下引用・参考文献については解題末の参考文献を参照）。

## 木田村について

現在の岐阜市内を流れる長良川の北西部にあたり、濃尾平野の北端に位置する。南北朝期から「木田郷」と地名が見え、織豊期には川渡し場の一つとして見える。

江戸時代、木田村の石高は1000石以上で、人口もおおよそ800人を超える大村であった。集落は川沿いに

表1 木田村の階層構成

年	宝暦10	明和2	明和5	安永3	安永10	天明4	寛政9	文政4	天保3	天保15	安政2
石高	1760	1765	1768	1774	1781	1784	1797	1821	1832	1844	1855
200～	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1
100～200未満	1	1	0	1	1	1	1	1	0	0	0
50～100	0	0	0	1	2	2	3	1	1	1	1
30～50	2	7	8	8	4	5	4	5	6	1	3
25～30	1	1	2	0	0	1	1	0	0	1	2
20～25	2	2	2	6	2	0	0	2	0	2	1
15～20	7	5	2	5	8	9	9	8	4	6	5
10～15	7	6	4	7	11	11	11	9	15	16	16
5～10	20	12	19	15	21	22	37	41	34	31	27
1～5	56	78	72	76	84	80	65	72	74	40	54
～1	51	55	54	47	56	55	40	42	53	39	42
無高	52	45	41	31	33	30	20	28	21	66	55
戸数	208	213	214	211	222	216	193	209	209	204	217
人口	1,039	887	855	903	856	872	783	861	901	890	922

※戸数・人口には、無高や持高不明な戸も含めているので合計は合わない。

（長屋論文・『岐阜市史 通史編近世』 p. 723の表より作成）

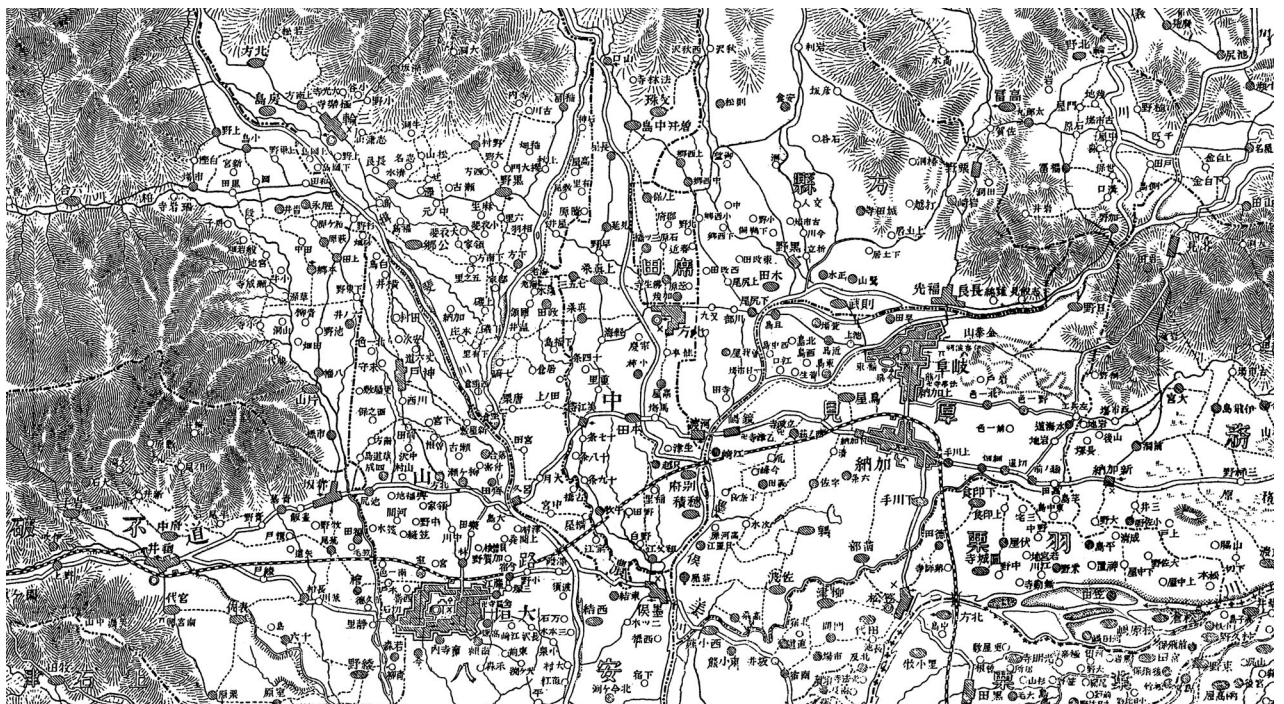


細長く続く本村と、西木田、柿ヶ瀬の3つに分かれていた。村の東部で、伊自良川・鳥羽川・板谷川・長良古川が落ち合い、水害が頻発した地域でもあった。

**支配** 当初加納藩領であったが、加納藩主安藤氏の家中騒動による減封のため宝暦5年（1755）に幕領大垣藩預所となり、宝暦13年（1763）には幕領（笠松代官所支配）となった。享和3年（1803）に陸奥国磐城平藩領（安藤氏）の飛地となり、厚見郡切通村に置かれた切通陣屋の支配を受けた。その後、文久元年（1861）に再び幕領（笠松代官所支配）となり、幕末をむかえる。

幕末維新期は、明治14年（1881）「方県郡各村略誌」（岐阜県図書館所蔵）によると、「慶応三年（1867）八月中信楽代官所田羅尾織之助支配地、同年十一月中笠松代官屋代増之助支配地、明治元年（1868）正月竹沢寛三郎支配地、同年二月中大垣藩預り所、同年五月中尾州藩林左門支配地、同年九月笠松県ノ管轄ニ属シ」と続き、明治4年（1871）11月から岐阜県の所轄に属している（『岐阜市史 史料編近代一』p.92）。明治6年（1873）、大区小区制によって第七大区十五小区に含まれた。明治30年（1897）に、木田村・下尻毛村が合併し稲葉郡木田村となった。その後、昭和15年（1940）に岐阜市へ編入された。

**村高** 郷帳によると元禄期までは1109石8斗7升と見え、正保2年（1645）の「美濃国郷帳」には、田方は913石7斗4升9合で、畑方は196石1斗2升1合と記載されている（『岐阜県史 史料編近世一』）。享保期には1272石余に増加し（ろ265）、元文5年（1740）「木田村田畑灘分帳」（い24）によると、本田は990石4斗5升2合5勺、本畑は269石6斗5升1合5勺、新田畑は12石8斗6升6合とあり、田畑ともに開発が進んだことがうかがえる。このころの開発の詳細は不明であるが、立教大学図書館所蔵の美濃国方県郡木田村文書「木田村藪開改帳」（寛文から元禄期）などが参考になるとと思われる。その後、明和3年（1766）に新畑51石4斗6升2合が高入れされ、村高は1327石7斗3升1合となる。この新畑は、長良古川跡を開発したものである。この開発地をめぐるのは、隣村の旦島村と争論が起きており、これがきっかけとなって村方騒動にまで発展した（松田論文参照）。その後、村高は1330石3斗5升3合となり、幕末まで続いていく。



明治21（1888）年陸地測量部輯製「岐阜」

（出典：『幕末・明治日本国勢地図初版輯製二十万分一図集成』柏書房、1983）

\* 木田村は、岐阜・加納から見て北西に位置している。



**生 業** 明和8年(1771)6月の村明細帳によると、田は「晩田所ニて、こしげ・よしの・古川・赤餅之類」を作り、畑では春夏は「稗・粟・黍」、秋は「芋・大豆・蕎麦」を作っていた。田畑の肥やしには、「ほしか・油かす・灰」を購入していた。職人として、家大工2人・船大工1人・木挽1人が記されている。年貢米は、最寄りの村々より木田村の土場へ運ばれており、これは「八郎右衛門」が世話した。年貢米などを桑名へ運ぶ船は、3艘あったと記されている(『岐阜市史 史料編近世二』pp.1181~1185)。

時代は下るが、明治14年(1881)「方県郡各村略誌」(岐阜県図書館所蔵)に木田村の物産として、米1ヶ年産出1417石2斗、大麦729石、小麦41石2斗5升、裸麦12石1斗、粟2石、黍9石、稗5石4斗、大豆4石、蕎麦4石、蜀黍5石、玉蜀黍2斗、実綿37斤、麻420斤、繭889斤、生糸28斤、藍葉1万3000斤、楮皮1260斤、葉煙草30斤、菜種50石があげられている。また民有船舶として、50石積鵜飼形船4艘、4間以下鵜飼形船45艘の記載がある(『岐阜市史 史料編近代一』p.92)。

川船に関しては、幕末になると数が増え、文久2年(1862)には船9艘を所持し、その内訳は中鵜飼4艘(1艘18人乗・水主4人)と小鵜飼5艘(1艘10人乗・水主3人)であった(は46)。明治2年(1869)には小鵜飼船7艘とみえ、「農業之間、桑名湊迄上下諸荷物運賃積仕候」とある(岐阜県歴史資料館蔵「明治二年巳六月美濃国方県郡木田村差出明細帳」)。明治14年(1881)の「渡船場乗客船荷取調書」(岐阜県図書館所蔵)によると、「伊自良川通り方県郡木田村字柿ヶ瀬」より「同郡岩利村及ヒ安食村へ日々往復ス」、「日光ニ村・蟹江村・常滑ニ村・名古屋等ニ往復ス」と記されている(『岐阜市史 史料編近代一』pp.678~688)。

**水 害** 諸河川が合流する木田村は、水害に苦しんだ場所であった。宝暦治水以降、長良川の河床上昇により下流の鏡島村から木田村あたりまでの所々に中洲が出来、木田村を含めた伊自良・鳥羽・板谷川流域の村々は長良川の逆水に悩まされるようになる。寛政元年(1789)の御普請時に板谷川の川替堀割が行われ、木田村本村の南を流れる川につないで板谷川の水が直接長良古川へ流れ込むようになった(岐阜県歴史資料館蔵「寛政元年板谷川通木田村黒野村地内川替御普請絵図」等)。また河渡村を含む下流域の村々は板谷川や根尾川筋からのあふれ水を防ぐため、天明6年(1786)に上曾我屋村に横小堤を築き足す。このことにより、木田村を含む上流部の村々と下流域の村々との争論が絶えず繰り返された。しかし幕末になると、新たな水害対策として木田村地内の板谷川への築堤が計画されたことにより、上流部と下流部の村々が一致して板谷川への築堤実現に取り組んでいくこととなる(丸山論文、『岐阜市史 通史編近世』pp.339~345)。

**交 通** 元禄7年(1694)、中山道河渡宿(現在の岐阜市)の助郷村17か村のうちの一つとして定められた(『岐阜市史 史料編近世三』pp.734~736)。

木田村は、西国三十三箇所巡礼の札所の一つである谷汲山華嚴寺へ向かう街道筋にあたり、巡礼絵図などには名古屋・加納と谷汲山をつなぐ街道筋の宿所の一つとして見える(『古地図の世界VI~巡礼図~』参照)。山田家文書中に、天保13年(1842)のわらじ・ぞうり・菓子・青物類・たばこ・蠟燭などの作間商売願の下書(未89)が含まれているが、西国巡礼筋であることと関連するのかもしれない。

また、山田家文書に多数残されている免割帳や村入用帳によって、伊勢の御師や尾張国一宮の社人・多度の神主、その他三河国や遠江国など諸国の神主らが勤化・奉加のため、木田村を訪れていたことが確認できる。また多数の浪人や諸国の座頭も来訪し、合力願いをしている。

## 頭分制と木田村

頭分制とは、おもに木曾三川流域の平野部の村々などに存在した村落内秩序であり、本百姓の中で頭分百姓(頭百姓)と脇百姓と呼ばれる二つの階層が家格として固定化されていた。山田家文書の寛政8年(1796)「御尋ニ付書上帳扣」(は7)によると木田村の頭分百姓の由緒は、「右頭分百姓先祖之義、往古郷土ニて苗

字帯刀仕、氏神諸向支配仕、田地等も相応ニ所持仕」と記されている。頭分百姓は村役人や井頭などの地位を独占し、神社の掌握もしていた。さらに彼らは日常的に、衣服・住居・冠婚葬祭など様々な点において脇百姓との差別をもうけ、これらのことを「村法」という村掟によって制度化していた。山田家文書に残されていた「村法」は以下の通りである（は3）。

今般前々村法仕来之儀御尋ニ付、乍恐左ニ奉申上候

- 一 村中諸事之義、村役人相談之上取極メ仕候て、品より為惣代組頭之者へ申聞候古来仕来ニ御座候
- 一 村入用・諸高掛り之義、庄屋・年寄吟味仕、年中入用之品委細帳面ニ相記シ置、其年々十一月・十二月之内、入用取調之上、為惣代組々惣代組頭相招キ申聞セ候て、惣高え割賦仕候古来より之仕来ニ御座候
- 一 年中村入用之内、金銀錢方之義は、取調之上村相場相立、不残米方ニ相直シ、諸役米と一緒に仕、高壺石ニ付小入用何斗何升掛りと仕、取立候古来より之仕来り御座候
- 一 河渡宿助人馬之義、当村より差出候人馬賃米之義、馬壺疋ニ付米六升、人足壺人ニ付米貳升五合、裁許人そうし人足共同断、尤裁許人支度之儀は村賄ニ仕、右宿人馬宿にて支度仕候、且貳番立相勤候馬賃米之義、壺疋ニ付米三升ツ、人足壺人ニ付米壺升五合差遣候古来仕来ニ御座候
- 一 地（自）普請其外年中使入人足賃米之義、人足壺人ニ付米壺升五合ツ、と相定メ、当日之人足出情次第にて、増米遣候古来仕来ニ御座候
- 一 村入用取替金之義、金壺兩ニ付壺ヶ月ニ銀壺匁ツ、利足相加へ申候、勿論御年貢諸役米等未進仕候得は、右同様利足相加へ取立申候古来仕来ニ御座候
- 一 村方にて高違ひ或は勘定立違等有之候得は、其知レ候年より前二ヶ年、其年共ニ三ヶ年分勘定仕立、其余之義何程年曆違有之候共、一向勘定之不及沙汰、取遣仕候古来仕来ニ御座候
- 一 木田村氏神之義、五ヶ所ニ相分レ御座候、右之内氏子四社ニ相分レ、神事祭礼別々取行ひ来申候、併豊作年ニは、四社氏子申合候て、千石祭と申立、一体ニ相勤候古来仕来御座候
- 一 山王権現  
右宮普請等諸事取計ひ之義、秀四郎・清右衛門・兵右衛門・要蔵右四人にて取計、其外祭礼元之義、四人順番ニ相勤来候古来仕来ニ御座候
- 一 猿田彦明神  
右宮取計ひ之義、常右衛門・八郎右衛門其外右一類氏子為惣代治兵衛立会申候、尤祭礼元鬮義は、庄屋方にて相勤申候古来より仕来ニ御座候
- 一 福万宮  
右宮取計之儀は、作十郎支配仕一類相談之上取計ひ、尤祭礼元之義は、安養寺・中屋敷・馬場と三組頭分順番ニ相勤候古来仕来ニ御座候
- 一 八幡宮  
右宮取計ひ之義は、九郎左衛門・重蔵一類相談之上取計ひ申候、尤祭礼元之儀は、氏子順番ニ相勤候古来より之仕来ニ御座候
- 一 木船明神  
右宮跡計にて、村中惣社ニ御座候
- 一 惣百姓吉凶之節、頭分百姓は上下着仕、平百姓之儀ははかま計着仕候古来より之格ニ御座候
- 一 惣百姓家作之義、都て有来りひさし、頭分百姓之儀は、表裏何れえ仕替申候共勝手ニ仕、其外平百姓之義、座敷方之分除之、勿論ひさし下ニ外ゑん等附候義不相成、古来より之法ニ御座候
- 一 惣百姓土蔵・物置相立候共、頭分之儀は、土瓦、板屋、杉皮、かや何葺ニても勝手ニ葺立申候、平百姓

之儀は、猥ニ土瓦ニテ葺候義不相成村法ニ御座候

- 一 平百姓之内、若頭分百姓ニ相加え呉様ニ、願有之節、其筋々ニテ、頭分之内重立候本家筋之者ニテ、諸事糺之上、相談取極メ申候古来より之仕来りニ御座候
- 一 本願寺宗寺之内、二男有之候てハ、若俗ニ仕候節は、頭分列ニ仕、百姓仕候古来格ニ御座候
- 一 頭分名前左之八拾軒之内、分家有之節は、右同様ニ頭分百姓之取扱来り申候、右八拾軒名前秀四郎 (他79名は省略)

ノ

右は此度村方仕来村法等之訳、荒増書付差上候様被仰渡、依之村仕来之趣奉申上候、以上 (以下、省略)

以上の村法は、天明3年(1783)に笠松役所へ提出されたものである。これによると頭分百姓らが祀る4つの神社では別々に祭礼も行われ、村の惣社は「宮跡計」にて豊年の時のみ4社の氏子で祭礼を行っていたことが確認できる(高牧論文参照)。村法では頭分百姓と脇百姓(平百姓)との序列がはっきりと明文化されていたが、脇百姓の経済的な上昇とともに頭分百姓への身上がりを要求する動きが現れ、村方騒動にまで発展する。また身上がりを求める脇百姓と、それに反対する脇百姓との対立も発生してくる。(『岐阜市史 通史編近世』pp.464~470など)この木田村の頭分をめぐる村方騒動については、各論文に詳細が記述されているので解題末尾の参考文献を参照されたい。

## 木田村の組

木田村は、慶長14年(1609)の検地帳に「四郎右衛門」「次右衛門」という2人の庄屋の名が見え、その後も2人の庄屋が確認できることから、当初から2つの組(西組・東組)に分かれていた。この時期の西組・東組の高に関しては、明和7年(1770)の史料(ろ175)によると、村全体が1260石余りで、西組・東組はともに630石余りとなっており、ほぼ均等な石高であった(松田論文参照)。

その後、天明2年(1782)に東組から中組が分かれ、3つの組となる。中組成立の理由は不詳であるが、この年には東組の庄屋も交代している。中組庄屋となった常右衛門と東組庄屋となった作十郎は、天明2年8月までは東組「年寄常右衛門」「百姓代作十郎」として見える(と3)。この3つの組の村役人の給与は表2の通りで、庄屋・年寄などの給与は組ごとに異なっている。中組成立前は西組・東組とも同額であったが、成立後は東組と中組の給与を足した額が、西組の給与とほぼ同じとなる。中組の成立には、それまで東組の庄屋であった八郎右衛門と、新たに中組庄屋・東組庄屋となった常右衛門・作十郎の頭分同士が置かれていた当時の状況を考慮する必要があると思われる。

また、この天明2年を境として、年貢率を計算した千石免割帳の連印方法や、宗門改帳の記載方法にも変化が見られる。これらのことから、中組の成立には東組内部のことだけではなく、木田村の村政全体の変化が関係していると考えられる(松田論文参照)。

## 山田家について

山田家は頭百姓の家であり、木田村西組庄屋を代々勤めている。このことから、山田家文書には検地帳や宗門改帳、そして村入用帳や年貢関係の帳簿類が豊富に残されている。また磐城平藩領の時には、藩の触れの伝達や年貢・調達金・郡中入用の割賦などを行う惣代役も勤めており、その関係の史料も多く含まれている。

また、山田家は天明期から寛政初年にかけて所持高が90石になるほどの地主であったが、その所持高は年によって変動している。所持高の変遷は、下記概要の【ぬ】「個人雑事」などと補う。

表2 村役人給与表

年代	宝暦6年	安永9年	寛政2年	寛政7年			
西暦	1756	1780	1790	1795			
組	西組	西組・東組	西組・東組・中組	西組	東組	中組	計
庄屋給	5石8斗	11石6斗(2人)	11石6斗9升(3人)	5石8斗	4石6斗9升	1石2斗	(11石6斗9升)
年寄給※	1石6斗	3石2斗(4人)	3石2斗9升(4人)	1石6斗	1石2斗9升	4斗	(3石2斗9升)
定使給	1石6斗	3石6斗(2人)	3石6斗3升(3人)	1石8斗	1石4斗4升	4斗	(3石6斗4升)
小歩給	8斗5升	2石2斗(2人)	2石2斗9升(3人)	1石1斗	8斗9升	3斗	(2石2斗9升)
米見給	4斗	8斗(2人)	8斗2升4合(3人)	4斗	3斗2升4合	1斗	(8斗2升4合)
升取給	9斗	1石8斗(2人)	1石(3人カ)	6斗	5斗7升6合	1斗	(1石2斗7升6合)
史料	に1	に12	に20	に24			

※年寄は中組成立以前は西組2人・東組2人で、成立以後は西組2人・東組1人・中組1人である。

## 概要

木田村山田家文書は、現状において『岐阜大学教育学部庶民史料目録(2)』(1968年)の通りに配架されており、整理にあたってはその配列を踏襲した。

### 【い】「土地」

この山田家文書の中で一番古いものが、幕府検地で大久保長安により美濃国全体で行われた慶長14年(1609)の「検地帳」である。この史料は本来20冊であったが、郷土博物館にあるのは一部のみである。ただし、東組庄屋の坂口家文書には20冊すべて残されている。この検地時の加納藩主は、奥平氏(二代忠政)である。寛文8年(1668)・元禄6年(1693)年の「検地帳」は加納藩主が戸田氏(二代光永)の時のもので、元文期の「高増減帳」や「田畑灘分帳」は加納藩主が安藤氏(二代信尹)の時のものであるが、全体的に加納藩時代の史料は数少ない。磐城平藩領時のものでは、質流れなどによる土地移動を記した文化元年(1804)からの「高出入帳」が残されている(い28・い29・い32)。

### 【ろ】「貢租」

山田家文書の中で一番豊富に残されているのは、年貢勘定関係の諸帳簿である。「皆済目録三組仕訳帳」が一番古いものが文政8年(1825)で、弘化2年(1845)年以降から明治4年(1871)のものまで断続的に残されている(ろ1～ろ19)。この史料から、小入用や年貢勘定の過不足を西組・東組・中組の3組で調整していることが確認できる。

「年貢勘定帳」は、西組の田畑所持高についての年貢勘定の帳簿である。所持高に年貢率をかけて、負担額を決めている。明和元年(1764)から明治2年(1869)年のもので残されているが、天明元年(1781)から寛政12年(1800)、文化8年(1811)から文化14年(1817)までのものがほぼ連続して残っている(ろ20～ろ51・ろ53～ろ102)。

年貢勘定に必要な年貢率を計算するための帳簿が、「千石免割帳」「五百石免割帳」である。この2つの免割帳は、ともに宝暦9年(1759)から文久3年(1863)のものまで、長期的かつ断続的に残されている。また「年別割帳」「頭分別免割帳」が明和3年(1766)から天明2年(1782)までみえるが、これは頭分のみ課せられた年貢率であり、「千石免割帳」「五百石免割帳」で計算されたものより高めの年貢率となっている。

「年貢納米名寄帳」は宝暦10年(1760)から明和8年(1771)のものまで、6点のみ残されている。西組の田畑の所持者別に年貢米の納入状況を記載したものである。



「年貢米庭帳」は文政3年(1820)年から明治5年(1872)までのものが、断続的に残されている。これは西組庄屋への年貢米納入状況を日ごとに記したものである。

また、磐城平藩領時代の調達金に関する史料がまとまっている。磐城平藩は厳しい財政状況のため、美濃国の領内で度々調達金を賦課していた。表3は、山田家文書に見える調達金に関する史料をまとめたものである。詳細は『岐阜県史 通史編近世上』(pp. 634~642)、『岐阜市史 通史編近世』(pp. 763~784・796~802)等を参照されたい。

【は】「村 政」

頭分という家格をめぐっての、頭分百姓と脇百姓、または脇百姓同士による村方騒動の史料が残されている。ここでは山田家文書に見える村方騒動に關係する史料を表にまとめた(表4)。

頭分をめぐる村方騒動については、『岐阜県史 通史編近世上』(pp. 1204~1209)や『岐阜市史 通史編近世』(pp. 464~470)、解題末尾の参考文献に詳細が記されているので参照されたい。

「御請連印帳」(は17)は享和3年(1803)、幕府領の時に笠松役所から出された廻米についての触である(『岐阜市史 史料編近世二』pp. 1064~1066)。

切通陣屋などへ出した願書や届書をまとめた「御用向諸事書留帳」(は25・は26・は30・は31)や、また切通陣屋からの達や河渡宿からの人馬触、郡中からの廻状などをまとめた「御配符并廻状写帳」(は9・は18~は20・は22~は24・は27・は29・は49・は57・は58)などの史料も残されている(『岐阜市史 史料編近世二』pp. 1042~1061)。

表3 調達金関係史料

年代	西暦	史料名	史料
文政10年11月	1827	方県郡村々御調達金五百両御利足割渡帳	ろ275
文政10年12月		御手当米拾五俵代金割渡帳(4郡村々より金500両調達仕置の処、勝手向き難しく、村々へ手当米下さるにつき)	に111
文政11年3月17日	1828	御調達金仕訳帳	ろ277
文政11年3月		方県郡村々御調達金請取通	ろ284
文政11年4月10日		御調達金御利足割渡帳	ろ278
文政11年		当子之二月方県郡村々御調達金覚	ろ276
文政12年1月	1829	御裏印証文ニ而借用金取調帳	に112
文政12年9月		方県郡村々御調達金請取帳	ろ279
文政12年11月		御調達金式百両分元利米ニ而御渡シ米覚	ろ280
文政13年1月19日	1830	寅之月割村々御調達金請取帳	ろ281
文政13年10月		寅之先納金御利足割渡帳	に117
文政13年11月		御調達金千両割賦取立帳	ろ282
文政13年11月		[積金講満講の節蘭金110両并に頂戴金200両村々割賦帳・御満講につき頂戴金200両并110両蘭金割賦御酒料共割賦帳]	る9
天保2年12月	1831	御裏印抜講懸金請取帳	る11
天保4年12月	1833	午之先納月割金書留帳	に124
天保5年8月27日	1834	千四百両割方県郡村々割賦帳 (表紙:金千六百両割 但式百両者七月上納)	に125
天保5年12月		来未之月割御調達金割賦帳	ろ285-1
天保5年12月		当午月割御調達米ニ而御渡シ并ニ千六百両割御渡シ共ニ三組仕訳帳	に126
天保6年11月	1835	当未之御月用金元利取調帳 (表紙:過米代請取并ニ御普請金調達金請取書記共ニ)	ろ285-2
(天保6~13年)		御調達金取調帳	ろ283
天保8年2月	1837	御囲米并ニ御調達金割賦帳	ろ286
天保8年11月		来戌村々御調達金請取帳	ろ287
天保9年1月	1838	月用金請取通(収納米の内、25俵替の相場の金子にて納めにつき)	未80
天保9年5月		西丸様御焼失ニ付御上納金割賦帳	に131
天保13年5月	1842	式百拾人講割戻シ書記帳	る14
天保14年3月	1843	御調達金村々請取帳	ろ288
弘化2年8月20日	1845	三ヶ年割上納金当已より未迄千両割賦帳	に137
弘化4年9月		高壺石ニ付銀三匁掛り上納金村々請取帳 (表紙:但當九月皆済年限ニ付石三匁之処相減し申候)	ろ294
弘化4年11月		当未年千両割村々上納金取立帳	ろ295
嘉永3年	1850	覚(調達金勘定につき)	ろ319
安政2年9月17日	1855	高懸調達金七百五拾両割小前取調帳	ろ297
安政3年12月	1856	三月九月高懸御調達不足分取調帳	ろ298
万延元年12月27日	1860	高掛免先納調達金御差下ケニ付小前取調割附帳	ろ304

表4 村方騒動関連史料

	年代	西暦	村方騒動（身上がり許可なども含む）	史料	関連史料
①	明和2年	1765	長左衛門(延宝2年に頭分列許可)葬儀時の狼藉事件	は7	『岐阜県史 史料編近世四』 pp. 538~540 (坂口家文書)
②	安永元 ~2年	1772 ~1773	新五人組頭であった金七の所払い	ぬ60・ぬ75・ぬ82	『岐阜市史 史料編近世二』 pp. 991~994 (坂口家文書)
③	寛政6・7年	1794~ 1795	脇百姓徳右衛門・八十郎の身上がり一件	は7	①の関連史料参照
④	寛政7 ~12年	1795~ 1800	脇百姓24人による徳右衛門らの身上がり反対訴訟	は7・は8・は10・は11・に101	『岐阜市史 史料編近世二』 pp. 1061~1064 (山田家文書「は11」の抄録)、 pp. 996~998 (坂口家文書)
⑤	享和元年	1801	脇百姓12人の身上がり許可	は12~は16、 は51	『岐阜県史 史料編近世四』 pp. 535~537、『岐阜市史 史料編近世二』 pp. 998~1007 (ともに坂口家文書)
⑥	享和2 ~3年	1801 ~1803	脇百姓28人による脇百姓12人の身上がり反対訴訟	は51	⑤の関連史料参照
⑦	文化9年	1812	脇百姓の頭分次列入許可	は28	
⑧	文政11年	1828	脇百姓の頭分次列入許可	は32・は33	
⑨	天保5年	1834	脇百姓の頭分次列入許可	は35・と6-2	
⑩	天保10年	1839	頼母子講利懸金をめぐる差入組一件	る12・る13	
⑪	弘化3年カ	1846	貴船宮社木売払代金一件	り4・り5	『坂口通雄家文書目録(1)』 3-(3)-122・123
⑫	嘉永3年	1850	脇百姓らの葬礼時上下着用につき一件	ぬ84	『坂口通雄家文書目録(1)』 4-(7)-1~7
⑬	嘉永3年	1850	堤御普請にて畑土取一件	は37	
⑭	嘉永6年	1853	御普請所土取場一件	は39	
⑮	安政4年カ	1857	村方差入組一条	は61	
⑯	慶応2年	1866	寛政度に許可された頭分次列の家作違反	は48	『岐阜市史 史料編近世二』 pp. 1081 (山田家文書「は48」の翻刻)
⑰	慶応2年	1866	天保5年に頭分次列差加えの際の借入金返済滞り	と6-2・と35	『岐阜市史 史料編近世二』 pp. 1033~1035 (坂口家文書)

に一部分収録)。「御用向諸事書留帳」からは、方県郡木田村の通婚範囲の表も作成されている(『岐阜県史 通史編近世下』 p. 1325)。立教大学図書館所蔵の美濃国方県郡木田村文書にも、文政6年(1823)10月から元治2年(1865)までの「御用向諸事書留帳」が9点所蔵されている。

磐城平藩から幕府領へ替わった、文久年間以降の「御用録」・「願書留」(は46・は47)なども残され、一部分が翻刻されている(『岐阜市史 史料編近世二』 pp. 1070~1081)。

#### 【に】「村 経 済」

「村入用帳」には二種類あり、「西免割後十二月六日より成年小入用帳」(に9)といった西組での諸入用(人足や河渡宿への助郷も含めた)をまとめたものが、明和4年(1767)から明治2年(1869)まで断続的に残されている。もう一つは、西組・東組・中組(中組成立前は西組・東組)の村全体の入用をまとめ、領主へ提出したものである(に12・に20・に24~27・に30・に34・に36・に82・に85・に86・に88)。ただし、この「村入用帳」の中で一番古い、宝暦6年・7年(1756・1757)のものは、西組の村入用のみを記載し役所へ提出されている(に1・に2)。この「村入用帳」の分析に関しては、清水論文を参照されたい。

磐城平藩領時代に山田家が惣代を勤めていたので、「郡中割賦帳」などの史料も残されている(に109・に114~に116・に123・に134・に135)。調達金に関しては、【ろ】「貢租」の概要にまとめている。

## 【ほ】「戸 口」

「宗門人別改帳」が、宝暦6年(1756)から慶応4年(1868)まで断続的に残されている。当初は1冊であったが、安永初年から組別となり2分冊となった。安永7年(1778)のものからは宗派別に分けられ、このうち本願寺宗の「宗門人別改帳」は当初は2分冊であったが、文化12年(1815)からは3分冊となり西組・中組・東組別の記載となった。この「宗門人別改帳」から、木田村の階層構成表や奉公人出身地・奉公先の表などが作成されている(『岐阜市史 通史編近世』pp.723~725など)。

「五人組仕置帳」は、享和3年(1803)のものから4冊残されているが、立教大学図書館所蔵の美濃国方県郡木田村文書には「方県郡西木田村五人組帳」と記された寛延3年(1750)の五人組帳もある。

天明8年(1788)・文久元年(1861)の「村明細帳」が残されているが、明和8年(1771)・天保9年(1838)のものは所在不明である。このうち明和8年の明細帳は、県歴史資料館所蔵のものと同内容と思われ、翻刻が『岐阜市史 史料編近世二』に収録されている(pp.1181~1185)。

## 【へ】「治水土木」

幕末期を中心とした「人足并取替物仕出帳」や「人足帳」が、多数残されている(へ1~へ27・へ29~へ42など)。これらから人足役として道直しや土持ち・塚番・橋直し・溝堀などの他に、多度(社)神主の案内や加賀白山(御師)の荷物送りなども行っていたことが確認できる。

頻繁に発生する水害に対応した普請時の「入用割賦帳」や「普請仕様帳」、橋の架け替え普請に伴う「入用覚帳」などが残されている。また、幕末期に行われた木田村地内の板谷川堤の築立普請に関連する史料も多く残されている。

## 【と】「災害・救恤」

「非常金割賦帳」が残されているが、これは脇百姓らが頭分次列になる時に差し出した金を他村へ貸したり笠松役所に預けておき、非常時のために使用したものである(と4・と5・と6-2・と8・と10など)。東組庄屋の坂口家にも同様の史料があり、『岐阜市史 史料編近世二』に収録されている(pp.1007~1011)。

## 【ち】「交 通」

天保14年(1843)の「助郷人馬取調帳」(ち1~4など)は勘定奉行所へ提出されたもの下書である。慶応2年(1866)には河渡宿助郷の休役・代助郷の願書(ち6・ち7)が出されている(『岐阜市史 史料編近世三』pp.749~751)。

## 【り】「社 寺」

「本願寺御改革ニ付被仰渡并御門跡様御直命写」(り1)は、西本願寺の財政改革について記したものである(『岐阜市史 通史編近世』p.682)。表紙のみであるが「九条殿兼実公六百五十回忌ニ付御施経御冥加帳」という史料が残されている。当時、関白であった九条尚忠が、九条家の祖である兼実の六百五十回忌に全真宗寺院に対して行った施行と関係すると思われる(高橋史料紹介参照)。

## 【ぬ】「個人雑事」

寛政から文久年間にかけての「諸事覚帳」・「諸事書留帳」や「小作勘定帳」といった、山田家に関わる史料が断続的に残されている(ぬ1~ぬ59など)。「諸事覚帳」などには、火事の時の見舞品書付や、山王宮祭礼時の買物覚、江戸行きの時の諸入用覚、江戸中間の給金覚・こやしの覚(小粕・灰・大粕を使用)など、様々な覚書や諸入用が記録されている(ぬ4・ぬ5・ぬ11・ぬ17)。「小作勘定帳」は、山田家の所持高が伸びた寛政期のものから残されている。この史料によると、山田家の手作地は小規模で小作地が経営の柱となっていたが、小作地への小作人の定着は良くなかったことが読み取れる(松田論文参照)。

文政3年(1820)の「いろいろ売物書留帳」という帳面が残されており、売物として扇子箱・手桶・箱枠・土瓶・たばこ・重箱などが記されている(ぬ61)。

表5 山田家石高変遷表

年代	西暦	所持高	名前	歳	史料
宝暦10年	1760	19石8斗6升2合9勺	兵次郎	64	ほ2
		14石4斗9升9合(預り高)			
宝暦12年	1762	26石8斗6升0合1勺	兵次郎	66	ほ3
		13石9斗0升7合8勺(預り高)			
明和2年	1765	32石8斗1升4合4勺	兵次	69	ほ4
		15石9斗0升8合6勺(預り高)			
明和5年	1768	45石5斗3升2合6勺	秀四郎	29	ほ5
		12石0斗7升0合8勺(預り高)			
安永3年	1774	48石9斗2升6合6勺	秀四郎	35	ほ6
安永10年	1781	20石5斗3升8合7勺	秀四郎	42	ほ16
		61石5斗2升2合2勺(支配高)			
天明4年	1784	94石7斗1升6合	秀四郎	45	ほ22
		8斗5升6合8勺(支配高)			
寛政2年	1790	94石3斗4升6合9勺	秀四郎	51	ほ30
		8斗3升8合8勺(支配高)			
寛政9年	1797	51石3斗7升3合2勺	秀四郎	58	ほ36
		2石9斗1升1合3勺(新田高)			
		49石5斗7升7合4勺	兵吾	33	
		1石7斗7升(新田高)			
寛政12年	1800	49石2斗8升0合5勺	秀四郎	61	ほ40
		2石9斗1升1合3勺(新田高)			
		44石1斗9升9合7勺	兵吾	36	
		1石8斗4升2合			
文化3年	1806	43石4斗0升9合7勺	兵吾	47	ほ46
		5斗1升6合(新田高)			
		6斗5升5合5勺(宮地支配高)			
		55石6斗5升6合5勺	俊吾	25	
		3石1斗8升1合8勺(新田高)			
文化6年	1809	35石9斗7升1合2勺	兵吾	50	ほ49
		48石7斗0升4合9勺			
		2石7斗9升9合8勺(新田高)	俊吾	28	
文化12年	1815	45石8斗5升5合7勺	俊吾	35	ほ51
		1石7斗4升(新田高)			
		6斗5升5合5勺(宮地支配高)			
文政4年	1821	46石9斗3升6合7勺	秀四郎 (俊吾改名)	40	ほ58
		1石7斗4升(新田高)			
		6斗5升5合8勺(宮地支配高)			
文政7年	1824	39石9斗3升6合7勺	秀四郎	43	ほ63
		1石7斗4升(新田高)			
		6斗5升5合8勺(宮地支配高)			
文政13年	1830	41石9斗6升5合	秀四郎	50	ほ65
		4斗0升8合(新田高)			
		6斗5升5合8勺(宮地支配高)			
天保3年	1832	41石9斗6升5合	秀四郎	52	ほ69
		4斗0升8合(新田高)			
		6斗5升5合8勺(宮地支配高)			
天保7年	1836	41石9斗6升5合	山田元助	34	ほ73
		4斗0升8合(新田高)			
		6斗5升5合8勺(宮地支配高)			
天保8年	1837	41石9斗6升5合	山田元助	35	ほ77
		4斗0升8合(新田高)			
		6斗5升5合8勺(宮地支配高)			
安政2年	1855	50石5斗2升3合8勺	山田元助	53	ほ92
		4斗5升8合(新田高)			
		6斗5升5合(宮地支配高)			

伊勢川崎から美濃神戸(現在の岐阜県安八郡神戸町)の高橋宗右衛門や、天下須賀(現在の三重県四日市市)の寺元利平次宛に出された仕切状が残されているが、山田家文書の中に入った経緯は不詳である(ぬ79・ぬ80・ぬ86など)。

【る】「金融」

明和元年(1764)の「六拾人講帳(る1)」とは、長良古川跡をめぐって隣村旦島村との訴訟に要した額を捻出するため頭百姓が主導して作られた講である(松田論文参照)。文政13年(1830)から文久元年(1861)にかけての「金銀融通帳」が残されている(る3～る7)。天保10年(1839)、山田秀四郎らが講元の頼母子講と坂口作十郎が取結びの頼母子講とが、利懸金をめぐって差入組となった史料も残されている(る12・る13)。

【お】「雑」

「下用書付帳」「諸事書留帳」など、年不詳の横長帳面が大半を占める。この中には、以前の整理時に帳くずれの断簡をまとめて綴ったと思われるものもある(お38・お39など)。

【明治】「明治時代文書」

池田郡脛永村の貢租取立高米掛帳が3冊残されている(明治5～明治7)。郷土博物館には、池田郡脛永村文書(約300点)が収蔵されているが、この史料との関連性は不明である。

【未】「未整理史料」

「小作勘定帳」や「村小入用帳」「人足帳」など、横長帳面の断簡(帳くずれ)がほとんどである。



## 参考文献

- ・ 岐阜県立図書館編集・発行『美濃郡代笠松陣屋堤方役所文書』岐阜県立図書館郷土資料目録第2集、1963
- ・ 同上『明治期岐阜県庁事務文書その一』岐阜県立図書館郷土資料目録第3集、1964
- ・ 早稲田大学図書館編集・発行『外記平田家文書目録・小嶋家文書目録』早稲田大学図書館文書目録第2集、1979
- ・ 岐阜県歴史資料館編集・発行『坂口通雄家文書目録(1)』岐阜県所在史料目録第16集、1985
- ・ 建設省中部地方建設局木曾川上流工事事務所編集・発行『美濃郡代笠松陣屋堤方役所文書絵図解説目録』1985
- ・ 岐阜市歴史博物館編集・発行『企画展 古地図』1986
- ・ 同上『岐阜市東改田近藤家文書目録』1987、『切通村文書目録』1991
- ・ 岐阜大学地域資料・情報センター編集・発行『美濃国方県郡河渡村村木家文書目録』岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵史料目録(1)、2007
- ・ (財)岐阜県教育文化財団歴史資料館編集・発行『飛騨・美濃の古地図と史料』2008
- ・ 『岐阜県史 通史編近世上』1968、『岐阜県史 通史編近世下』1972
- ・ 『岐阜市史 史料編近世一』1976、『岐阜市史 史料編近世二』1978、『岐阜市史 史料編近世三』1979、『岐阜市史 史料編近代一』1977
- ・ 『岐阜市史 通史編近世』1981、『岐阜市史 通史編近代』1981
- ・ 松本平治「頭百姓補遺」(『岐阜史学』12、1955)
- ・ 吉岡勲「美濃国における近世初期検地帳の分析— 其の一 —」(『岐阜史学』12、1955)
- ・ 松本平治「近世美濃における農村社会構成について—頭百姓考—」(『岐阜史学』18、1956)
- ・ 寺田昭士「近世村役人の一考察特に木田村における相庄屋について」(『岐阜史学』26、1959)
- ・ 清水進「近世村財政の一考察」(『岐阜史学』26、1959)
- ・ 伊藤忠士「一八世紀末における村方騒動と村落支配—美濃における一村の分析—」(『「ええじゃないか」と近世社会』校倉書房、1995、初出は1967)
- ・ 高牧実「初期村落の身分階層制—頭百姓と脇百姓—」(『幕藩制確立期の村落』吉川弘文館、1973)
- ・ 伊藤忠士「幕末維新时期における村方騒動と村落支配—美濃における頭分制と維新改革—」(『「ええじゃないか」と近世社会』校倉書房、1995、初出は1973)
- ・ 長屋和子「木田村の頭分制について—頭分次列を中心に—」(『岐阜史学』65、1975)
- ・ 丸山幸太郎「岐阜西北部の治水問題—板谷川築堤苦難ものがたり—」(『岐阜市史だより』5、1978)
- ・ 西脇康「近世村落における『身上り』闘争の特質—頭分制の成立と解体—」(『岐阜史学』70、1979)
- ・ 松田之利「美濃における十八世紀後期の村方騒動」(津田秀夫編『近世国家の展開』塙書房、1980)
- ・ 安藤萬壽男『輪中—その形成と推移』大明堂、1988
- ・ 高橋正隆「九条関白兼実公六百五十回忌施入浄土三部経」(『日本宗教文化史研究』2—2、1998)
- ・ 岐阜県図書館編集・発行『古地図の世界VI～巡礼図～』2007



## 目 録

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
い1		松平飛驒殿知行濃州方県郡木田村御縄打水帳 (写)	慶長十四年酉ノ九月九日	1609	縦	1
い2		濃州方県郡西木田村御検地水帳 (写)	慶長十四年酉ノ九月九日	1609	縦	1
い3		濃州方県郡木田村御縄打水帳 (写)	慶長拾四年とりノ九月十日	1609	縦	1
い4		《方県郡木田村御縄打水帳》	慶長14・9	1609		
い5		松平飛驒知行濃州方県郡木田村御縄打水帳 (写)	慶長拾四年酉ノ九月十一日	1609	縦	1
い6		濃州方県郡木田村御検打水帳 畑方 (写)	慶長十四年酉ノ九月□□□ (十四日)	1609	縦	1
い7		濃州方県郡木田村御検打水帳 (写)	慶長拾四年酉九月十二日	1609	縦	1
い8		濃州方県郡木田村御縄打水帳 畠方 (写)	慶長十四年九月十三日	1609	縦	1
い9		濃州方県郡木田村御検地水帳 (写)	慶長拾四年酉ノ九月十二日	1609	縦	1
い10		濃州方県郡木田村御検打水帳 (写)	慶長十四年九月十四日	1609	縦	1
い11		濃州方県郡木田村御検打水帳 (写)	慶長十四年酉ノ九月十日	1609	縦	1
い12		《方県郡木田村御縄打水帳》	慶長14・9	1609		1
い13		加納領木田村御検地帳	寛文八年申之九月十三日	1668	縦	1
い14		《方県郡木田村新田検地帳》	寛政5・3	1793		1

作 成	受 取	備 考
林丹波内樋口勘右衛門、島田久右衛門、木田庄屋四郎右衛門、次右衛門		表紙「林丹波内岡伝兵衛付、式拾冊ノ内」、「帳合仕候墨付拾貳枚、奥九七書判、片太助印判」とあり、資料には「い一ノ一」と番号記載
林丹波内樋口勘右衛門、島田久左衛門		表紙「林丹波内岡伝兵衛、廿冊内」、「墨付拾四枚帳合仕候、片切太助、奥山九七」とあり、資料には「い一ノ二」と番号記載
林丹波内樋口勘右衛門、島田久左衛門、次右衛門、四郎右衛門		表紙「林丹波内島田久左衛門、式拾冊内」、「墨付拾貳枚帳合仕候、片切太助判、奥山九七判」とあり、資料には「い一ノ三」と番号記載
		現在所在不明
林丹波内島田久左衛門、樋口勘右衛門		表紙「林丹波内樋口五郎右衛門、式拾冊内」、「帳合仕候墨付拾七枚、奥山九七、片切七(太)郎助」とあり、資料には「一ノ五」と番号記載
林丹波内樋口勘右衛門、同島田久左衛門		破損あり、表紙「式拾冊内」、「上紙共二墨付十八まい」とあり、資料には「い一ノ六」と番号記載
		表紙「林丹波内島(田)久左衛門付、式拾冊内」、資料には「い一ノ七」と番号記載
林丹波内島田久左衛門、樋口勘右衛門		表紙「林丹波内岡伝兵衛、式拾冊内」、「帳合仕候墨付式拾六枚、奥山九七判、片切太郎介判」とあり、資料には「い二」と番号記載
林丹波内樋口勘右衛門、島田久左衛門		表紙「林丹波内樋口五郎右衛門付、式拾冊内」、「帳合仕候墨付拾三枚、奥山九七、片切太助」とあり、資料には「い三」と番号記載
林丹波内島田久左衛門、樋口勘右衛門、木田庄屋四郎右衛門、次右衛門		表紙「林丹波内樋口五郎右衛門付、式拾冊内」、「墨付拾八枚帳合仕候、松井清太夫、奥山九七」とあり、資料には「い四」と番号記載
林丹波内樋口勘右衛門、島田久左衛門、庄屋四郎右衛門、同次右衛門		表紙「林丹波内樋口五郎右衛門、式拾冊内」、「墨付拾四枚帳合仕候、片切太郎助印判、奥山九七書判」とあり、資料には「い五」と番号記載
		現在所在不明
		表紙「濃州方県郡宮下流二筋」、資料には「い七」と番号記載
		現在所在不明

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
い15		田畑改名寄帳	安永七年戌二月	1778	縦	1
い16		西組反別名寄帳上	文化元子年	1804	縦	1
い17		〔名寄帳〕			縦	1
い18		〔名寄帳〕			縦	1
い19		〔検地帳写〕	元禄六年酉之八月吉日	1693	横長	1
い20		〔濃州方県郡木田村内見合附帳〕	(嘉永年間カ)		横長	1
い21	①	濃 [ ] (濃州方県郡木田村内見合附帳)	寛政二年戌九月	1790	横長	1
い21	②	濃州方県郡木田村当戌早稲方内見合附帳	寛政二年戌八月	1790	横長	1
い22		〔検地帳写〕	元禄六年酉八月	1693	横長	1
い23		辰年より高増減帳	元文元年十二月日	1736	縦	1
い24		木田村田畑灘分帳	(元文5年) 申八月	1740	縦	1
い25		酉之暮高出入目□(録)帳	明和貳年十二月	1765	縦	1
い26		享保七寅年以来新田御高入書上帳	天明二年寅四月	1782	縦	1
い27		濃州方県郡木田村高反別書上帳	寛政九巳年五月	1797	縦	1
い28		子年より高出入帳	文化元年二月(～文化6年)	1804	縦	1
い29		午歳より高出入留帳	文化七年四月吉日(～文政3年)	1810	縦	1
い30		当午田立毛早稲晩稲高反別毛揃帳	文化七年午十月	1810	縦	1
い31		当未田方立毛内見合附帳	天保六年八月十八日	1835	横長	1
い32		未より高出入帳	天保六未年十二月(～嘉永2年)	1835	縦	1
い33		当申晩稲方田立毛内見合附帳	天保七申年十月	1836	横長	1
い34		三組小前持高取調帳	弘化三年午二月	1846	横長	1
い35		去ル申年荒所小前取調帳	文久二年戌八月	1862	横長	1

作 成	受 取	備 考
山田秀四郎		資料には「い九」と番号記載
庄屋兵吾		貼紙・付札など多数あり、資料には「い一〇」と番号記載
		資料には「い一一」と番号記載
		資料には「い一二」と番号記載
庄屋清右衛門、同五郎三郎、同組頭伝右衛門、同茂左衛門、組頭吉兵衛、同孫三郎		破損あり、資料には「い一三」と番号記載
		資料には「い一四」と番号記載、「九月廿日御奉行井上十郎兵衛様、御代官平直太郎様、御勘定金古亮之助様、御目附三村忠太郎様、御同心阿部甚蔵様、御組広江喜次郎様、御□徒林龍平様」とあり
木田村庄屋秀四郎、同作十郎、同常右衛門、年寄要蔵、同茂八、同又次郎、同佐太郎、百姓代助右衛門、同源右衛門	笠松御役所	い21①～②は綴、破損あり、表紙欠損、資料には「い一五」と番号記載
		破損あり
		資料には「い一六」と番号記載
庄屋清右衛門		資料には「い一七」と番号記載
木田村組頭茂八、同断国右衛門、同断又次郎、後見長四郎、庄屋新蔵、同断清右衛門（印）	室五郎兵衛様、岡吉次郎様、永猪右衛門様	表紙「元文五年閏七月」、年代の一部は表紙より、資料には「い一八」とあり
秀四郎		資料には「い一九」と番号記載
木田村庄屋秀四郎、年寄小三治、同常右衛門、同要蔵、同庄八	笠松御郡代所	資料には「い二〇」と番号記載
濃方県郡木田村庄屋秀四郎、同断作十郎	笠松御役所	表紙「鈴木門三郎様御役所江上候下書」、資料には「い二一」と番号記載
		表紙「壺番」、資料には「い二二」と番号記載
西組庄屋俊吾		表紙「式番」、資料には「い二三」と番号記載
木田村百姓代友十郎、年寄茂助、同断又治郎、同断山田清右衛門、庄屋信蔵、同断平八郎、同断俊吾	切通シ御役所	資料には「い二四」と番号記載
方県郡木田村西組庄屋山田元助扣		資料には「い二五」と番号記載
山田秀四郎扣		表紙「四番」、資料には「い二六」と番号記載
木田村百姓代坂口三十郎、同断坂口三郎左衛門、年寄又次郎、同断平三郎、同断山田柳右衛門、庄屋扇吾、同断山田元助、同断坂口作十郎	御役所	破損あり、資料には「い二七」と番号記載
宗帳当番山田元助扣		資料には「い二八」と番号記載
方県郡木田村扣		資料には「い二九」と番号記載

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
い36		追蒔苗田籾取調書上帳	万延元年申六月	1860	横長	1
い37		〔木田村高反別書上帳〕			横長	1
ろ1		当酉皆済目録三組仕訳帳	文政八年十二月	1825	縦	1
ろ2		当巳皆済目録三組仕訳帳	弘化二年十二月	1845	縦	1
ろ3		当未皆済目録三組仕訳帳	弘化四年十二月	1847	縦	1
ろ4		当戌皆済目録三組仕訳帳	嘉永三年十二月	1850	縦	1
ろ5		当卯皆済目録三組仕訳帳	安政二年十二月	1855	縦	1
ろ6		当辰皆済目録三組仕訳帳	安政三年十二月	1856	縦	1
ろ7		当午皆済目録三組仕訳帳	安政五年十二月	1858	縦	1
ろ8		当未皆済目録三組仕訳帳	安政六年十二月	1859	縦	1
ろ9		当申皆済目録三組仕訳帳	万延元年十二月	1860	縦	1
ろ10		当酉皆済目録三組仕訳帳	文久元年十二月	1861	縦	1
ろ11		当戌皆済目録三組仕訳帳	文久二年十二月	1862	縦	1
ろ12		当亥皆済目録三組仕訳帳	文久三年十二月	1863	縦	1
ろ13		当子皆済目録三組仕訳帳	元治元年十二月	1864	縦	1
ろ14		当卯皆済目録三組仕訳帳	慶応三年十二月	1867	縦	1
ろ15		当辰皆済目録三組仕訳□(帳)	明治元年十二月	1868	縦	1
ろ16		当巳皆済目録三組仕訳帳	明治二年十二月	1869	縦	1
ろ17		当午皆済目録三組仕訳帳	明治三年十二月	1870	縦	1
ろ18		当未皆済目録三組仕訳帳	明治四年十二月	1871	縦	1
ろ19		当未皆済目録三組仕訳帳	明治四年十二月	1871	縦	1
ろ20		申之御年貢米勘定帳	明和元年閏十二月吉日	1764	横長	1
ろ21		申之御年貢米勘定帳	明和元年閏十二月吉日	1764	横長	1
ろ22		丑御年貢米勘定帳	天明元年極月吉日	1781	横長	1
ろ23		丑之御年貢勘定帳	天明元年極月吉日	1781	横長	1
ろ24		丑御年貢米勘定帳	天明元年極月吉日	1781	横長	1
ろ25		寅之御年貢米勘定帳	天明二年極月吉日	1782	横長	1
ろ26		寅之御年貢米勘定帳	天明二年極月吉日	1782	横長	1
ろ27		寅御年貢米勘定帳	天明二年十二月吉日	1782	横長	1
ろ28		卯御年貢勘定帳	天明三年十二月吉日	1783	横長	1
ろ29		卯御年貢勘定帳	天明三年十二月吉日	1783	横長	1
ろ30		卯御年貢勘定帳	天明三年十二月吉日	1783	横長	1
ろ31		辰御年貢米勘定帳	天明四年十二月吉日	1784	横長	1

作 成	受 取	備 考
木田村百姓一、年寄一、一、一、庄屋一、一、一、一	御出役様	表紙「万延元年申五月」、資料には「い三〇」と番号記載
		資料には「い三一」と番号記載
庄屋山田秀四郎、同断坂口作十郎、同断頼治		
木田村庄屋坂口作十郎、同断山田元助、同断長屋扇吾		表紙の綴じ紐に結び文（三組仕訳帳認め直し願いの覚）あり
木田村庄屋坂口作十郎、同断山田元助、同断長屋扇吾		破損あり
木田村山田元助扣		
木田村西組庄屋山田元助扣		表紙の綴じ紐に結び文あり
木田村西組庄屋山田元助扣		
木田村西組庄屋山田元助扣		
木田村西組庄屋山田元助扣		表紙の綴じ紐に結び文あり
木田村西組庄屋山田元助扣		剥離紙あり
木田村西組庄屋秀四郎扣		
木田村西組庄屋秀四郎扣		表紙の綴じ紐に結び文あり、挿入紙あり
木田村西組庄屋秀四郎扣		
木田村西組庄屋秀四郎扣		
木田村西組庄屋秀四郎扣		
木□□（田村）西組庄屋秀四郎扣		表紙破損あり
木田村西組庄屋喜三郎扣		挿入紙あり
西組庄屋喜三郎扣		
庄屋長屋謙吉郎		
庄屋山田記三郎		挿入紙あり
木田村庄屋兵治		綴じ紐切れ、表紙「東」
木田村庄屋兵治		破損あり、表紙「西」
木田村庄屋秀四郎		表紙「上 丑年」
木田村庄屋秀四郎		表紙「中 丑年」
木田村庄屋秀四郎		表紙「下 丑年」
木田村庄屋秀四郎		表紙「上 寅年」
木田村庄屋秀四郎		表紙「中 寅年」
木田村庄屋秀四郎		破損あり
木田村庄屋秀四郎		表紙「上」
木田村庄屋秀四郎		表紙「中」
木田村庄屋秀四郎		表紙「下」
木田村庄屋秀四郎		表紙「上」



番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
ろ32		辰御年貢米勘定帳	天明四年十二月吉日	1784	横長	1
ろ33		辰御年貢勘定帳	天明四年十二月吉日	1784	横長	1
ろ34		巳之御年貢米勘定帳	天明五年極月吉日	1785	横長	1
ろ35		巳之御年貢米勘定帳	天明五年極月吉日	1785	横長	1
ろ36		巳之御年貢米勘□□ (定帳)	天明五年極月吉日	1785	横長	1
ろ37		午年御年貢米勘定帳	天明六年十二月	1786	横長	1
ろ38		午年御年貢米勘定帳	天明六年十二月	1786	横長	1
ろ39		午年御年貢米勘定帳	天明六年十二月	1786	横長	1
ろ40		未之御年貢米勘定帳	天明七年十二月	1787	横長	1
ろ41		未之御年貢米勘定帳	天明七年十二月	1787	横長	1
ろ42		未之御年貢米勘定帳	天明七年十二月	1787	横長	1
ろ43		申年御年貢米勘定帳	天明八年申之十二月	1788	横長	1
ろ44		申年御年貢米勘定帳	天明八年申之十二月	1788	横長	1
ろ45		申年御年貢米勘定帳	天明八年申之十二月	1788	横長	1
ろ46		酉年御年貢米勘定帳	寛政元年酉之十二月	1789	横長	1
ろ47		酉年御年貢米勘定帳	寛政元年酉之十二月	1789	横長	1
ろ48		酉年御年貢米勘定帳	寛政元年酉之十二月	1789	横長	1
ろ49		戌之御年貢米勘定帳	寛政貳年十二月	1790	横長	1
ろ50		戌之御年貢米勘定帳	寛政貳年十二月	1790	横長	1
ろ51		戌之御年貢米勘定帳	寛政貳年十二月	1790	横長	1
ろ52		[欠番]				
ろ53		亥之御年貢勘定帳	寛政三年十二月吉日	1791	横長	1
ろ54		亥之御年貢勘定帳	寛政三年十二月吉日	1791	横長	1
ろ55		亥之御年貢勘定帳	寛政三年十二月吉日	1791	横長	1
ろ56		子御年貢米勘定帳	寛政四年十一月吉日	1792	横長	1
ろ57		子御年貢米勘定帳	寛政四年十一月吉日	1792	横長	1
ろ58		子御年貢米勘定帳	寛政四年十一月吉日	1792	横長	1
ろ59		丑之御年貢米勘定帳	寛政五年十二月吉日	1793	横長	1
ろ60		丑之御年貢米勘定帳	寛政五年十二月吉日	1793	横長	1
ろ61		丑之御年貢米勘定帳	寛政五年十二月吉日	1793	横長	1
ろ62		寅之御年貢米勘定帳	寛政六年十二月	1794	横長	1
ろ63		寅之御年貢米勘定帳	寛政六年十二月	1794	横長	1
ろ64		卯之御年貢米勘定帳	寛政七年十二月	1795	横長	1
ろ65		卯之御年貢米勘定帳	寛政七年十二月	1795	横長	1
ろ66		卯之御年貢米勘定帳	寛政七年十二月	1795	横長	1
ろ67		辰御年貢米勘定帳	寛政八年辰之十二月吉日	1796	横長	1

作 成	受 取	備 考
木田村庄屋秀四郎		表紙「中」
木田村庄屋秀四郎		表紙「下」
木田村庄屋秀四郎		表紙「上 巳之年」
木田村庄屋秀四郎		表紙「中 巳之年」
□□□□□□□□ (木田村庄屋秀四郎)		破損あり、表紙「下 巳之年」
木田村庄屋秀四郎		表紙「上」
木田村庄屋秀四郎		表紙「中」
木田村庄屋秀四郎		表紙「下」
木田村庄屋秀四郎		外表紙「柿」、内表紙「下」
木田村庄屋秀四郎		表紙「中」
木田村庄屋秀四郎		外表紙「西」、内表紙「上」
木田村庄屋秀四郎		表紙「上」
木田村庄屋秀四郎		表紙「中」
木田村庄屋秀四郎		表紙「下」
木田村庄屋秀四郎		表紙「一」
木田村庄屋秀四郎		表紙「二」
木田村庄屋秀四郎		表紙「三」
木田村庄屋秀四郎		表紙「壺」
木田村庄屋秀四郎		表紙「弍」
木田村庄屋秀四郎		表紙「三」
木田村庄屋秀四郎		表紙「三冊之内壺」
木田村庄屋秀四郎		表紙「三冊之内弍」
木田村庄屋秀四郎		表紙「三冊之内三」
木田村庄屋秀四郎		表紙「三冊之内壺」
木田村庄屋秀四郎		表紙「三冊之内弍」
木田村庄屋秀四郎		表紙「三冊之内三」
木田村庄屋秀四郎		表紙「壺」
木田村庄屋秀四郎		綴じ紐切れ、表紙「弍」
木田村庄屋秀四郎		表紙「三」
木田村庄屋秀四郎		表紙「壺」
木田村庄屋秀四郎		表紙「弍」
木田村庄屋秀四郎		表紙「壺」
木田村庄屋秀四郎		表紙「弍」
木田村庄屋秀四郎		表紙「三」
木田村庄屋秀四良		表紙「壺」

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
ろ68		辰御年貢米勘定帳	寛政八年辰十二月吉日	1796	横長	1
ろ69		辰御年貢米勘定帳	寛政八年辰十二月吉辰	1796	横長	1
ろ70		巳御年貢米勘定帳	寛政九年十二月吉日	1797	横長	1
ろ71		当午御年貢米勘定帳	寛政十年十二月吉日	1798	横長	1
ろ72		当午御年貢米勘定帳	寛政十年十二月吉日	1798	横長	1
ろ73		未御年貢米勘定帳	寛政十一年十二月吉日	1799	横長	1
ろ74		未御年貢米勘定帳	寛政十一年十二月吉日	1799	横長	1
ろ75		申御年貢米勘定帳	寛政十二年十二月吉辰	1800	横長	1
ろ76		申御年貢米勘定帳	寛政十二年十二月吉辰	1800	横長	1
ろ77		申御年貢米勘定帳	寛政十二年十二月吉辰	1800	横長	1
ろ78		当卯御年貢米勘定帳	文化四年十二月吉日	1807	横長	1
ろ79		未之御年貢米勘定帳	文化八年十二月	1811	横長	1
ろ80		未之御年貢米勘定帳	文化八年十二月	1811	横長	1
ろ81		未之御年貢米勘定帳	文化八年十二月	1811	横長	1
ろ82		申之御年貢米勘定帳	文化九年十二月	1812	横長	1
ろ83		酉之御年貢米勘定帳	文化十年十二月	1813	横長	1
ろ84		酉之御年貢米勘定帳	文化十年十二月	1813	横長	1
ろ85		酉之御年貢米勘定帳	文化十年十二月	1813	横長	1
ろ86		戌之御年貢米勘定帳	文化十一年十二月	1814	横長	1
ろ87		戌之御年貢米勘定帳	文化十一年十二月	1814	横長	1
ろ88		戌之御年貢米勘定帳	文化十一年十二月	1814	横長	1
ろ89		亥御年貢米勘定帳	文化十二年十二月	1815	横長	1
ろ90		亥御年貢米勘定帳	文化十二年十二月	1815	横長	1
ろ91		亥之御年貢米勘定帳	文化十二年十二月	1815	横長	1
ろ92		子之御年貢米勘定帳	文化十三年十二月	1816	横長	1
ろ93		子之御年貢米勘定帳	文化十三年十二月	1816	横長	1
ろ94		子之御年貢米勘定帳	文化十三年十二月	1816	横長	1
ろ95		丑御年貢勘定帳	文化十四年十二月	1817	横長	1
ろ96		丑御年貢勘定帳	文化十四年十二月	1817	横長	1
ろ97		丑御年貢勘定帳	文化十四年十二月	1817	横長	1
ろ98		当未御年貢勘定帳	弘化四年十二月	1847	横長	1
ろ99		当未御年貢勘定帳	弘化四年十二月	1847	横長	1
ろ100		当卯御年貢米勘定帳	安政二年十二月	1855	横長	1
ろ101		当卯御年貢米勘定帳	慶応三年十二月	1867	横長	1
ろ102		当巳御年貢米勘定□(帳)	明治二年十二月	1869	横長	1

作 成	受 取	備 考
木田村庄屋秀四郎		表紙「弐」
木田村庄屋秀四郎		表紙「三」
木田村庄屋秀四郎		表紙「三」
木田村庄屋秀四郎		表紙「弐」
木田村庄屋秀四郎		表紙「三」
木田村庄屋秀四郎		表紙「弐」
木田村庄屋秀四郎		表紙「三」
木田村庄屋秀四郎		表紙「壺」
木田村庄屋秀四郎		表紙「弐」
木田村庄屋秀四郎		表紙「三」
木田村庄屋秀四郎		表紙「中」
木田村西組庄屋俊吾		表紙「上」
木田村西組庄屋俊吾		表紙「中」
木田村西組庄屋俊吾		表紙「下」
木田村西組庄屋俊吾		表紙「下」
木田村西組庄屋俊吾		表紙「上」
木田村西組庄屋俊吾		表紙「中」
木田村西組庄屋俊吾		表紙「下」
西組庄屋俊吾		表紙「上」
西組庄屋俊吾	西組庄屋俊吾	表紙「中」
西組庄屋俊吾		表紙「下」
庄屋山田俊吾	庄屋山田俊吾	表紙「上」
庄屋山田俊吾		表紙「中」
庄屋山田俊吾		表紙「下」
庄屋山田俊吾		表紙「上」
庄屋山田俊吾		表紙「中」
庄屋山田俊吾		表紙「下」
庄屋山田俊吾		表紙「上」
庄屋山田俊吾	庄屋山田俊吾	表紙「中」
庄屋山田俊吾		表紙「下」
木田村西組庄屋山田元助		破損大、取り扱い注意、表紙「中」
□□□（木田村）□（西）組庄□□□□ □（屋山田元助）		破損大、取り扱い注意、表紙「下」
□□（木田）村西組庄屋山田元助		破損大、取り扱い注意、表紙「上」
木田村西組庄屋山田秀四郎		破損大、取り扱い注意、表紙「上」
木□□（田村）西組庄屋喜三□（郎）		破損大、取り扱い注意、表紙「中」

番号	枝番	表題	年代	西暦	形態	数
ろ103		卯之千石免割帳	宝暦九卯年十二月廿二日	1759	横長	1
ろ104		辰之千石免割帳	宝暦十年辰十二月廿一日	1760	横長	1
ろ105		申之千石免割帳	明和二年乙酉正月	1765	横長	1
ろ106		酉之千石免割帳	明和二年十二月十日	1765	横長	1
ろ107		戌之千石免割帳	明和四年亥十二月廿二日	1767	横長	1
ろ108		亥之千石免割帳	明和五年子二月十六日	1768	横長	1
ろ109		子之千石免割帳	明和五年子十二月廿五日	1768	横長	1
ろ110		丑之千石免割帳	明和六年丑十二月十六日	1769	横長	1
ろ111		午千石免割帳	安永三年午十一月廿一日	1774	横長	1
ろ112		未之千石免割帳	安永四年未十二月十四日	1775	横長	1
ろ113		申之千石免割帳	安永五年申十一月十七日	1776	横長	1
ろ114		酉之千石免割帳	安永六年酉十二月五日	1777	横長	1
ろ115		戌千石免割帳	安永七年戌十一月廿二日	1778	横長	1
ろ116		亥之千石免割帳	安永八年亥十二月九日	1779	横長	1
ろ117		子之千石免割帳	安永九年子十二月九日	1780	横長	1
ろ118		丑千石免割帳	天明元年丑十二月七日	1781	横長	1
ろ119		寅之千石免割帳	天明二年寅十一月廿四日	1782	横長	1

作 成	受 取	備 考
庄屋兵治郎		表紙「宝暦九年霜月」、庄屋八郎右衛門・同兵治郎・年寄4人・高持百姓2人・五人組頭19人の連印あり
庄屋兵次郎		表紙「宝暦十年極月」、庄屋八郎右衛門・同兵次郎・(年寄)4人・五人組頭19人・高持百姓2人の連印あり
		表紙「明和元年閏十二月日」「西組」、庄屋兵治・同八郎右衛門・年寄4人・百姓代2人・(五人組頭)18人の連印あり
		綴じ紐切れ、庄屋兵治・同八郎右衛門・年寄4人・五人組頭17人・高持百姓2人の連印あり
秀四郎		表紙「明和参年十二月」、庄屋八郎右衛門・同秀四郎・年寄3人・(五人組頭)17人・(百姓代)2人・廿四人惣代2人の連印あり
庄屋秀四郎		綴じ紐切れ、表紙「明和四年十二月」、庄屋八郎右衛門・同断秀四郎・年寄4人・五人組頭16人・百姓代2人・外10人の連印あり
庄屋秀四郎	庄屋秀四郎	庄屋秀四郎・同八郎右衛門・年寄4人・惣代2人・五人組頭16人・外10人の連印あり
西木田村庄屋秀四郎		庄屋八郎右衛門・同断秀四郎・年寄4人・五人組頭16人・百姓代2人・外24人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		年寄4人・(百姓代)2人・(五人組頭など)21人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		(年寄)4人・(百姓代)2人・(五人組頭など)22人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		(年寄)4人・(百姓代)2人・(五人組頭など)22人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		(年寄)4人・(百姓代)2人・(五人組頭など)21人の連印あり
木田村庄屋秀四良		(年寄)4人・(百姓代)2人・(五人組頭など)21人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		(年寄)4人・(百姓代)2人・(五人組頭など)21人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		(年寄)4人・(百姓代)2人・(五人組頭など)21人の連印あり
木田村秀四郎		(年寄)4人・(百姓代)2人・(五人組頭など)21人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		(東組庄屋)作十郎・(中組庄屋)常右衛門・(年寄)3人・(五人組頭など)22人の連印あり

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
ろ120	①	卯之千石免割帳	天明三年卯十一月廿二日	1783	横長	1
ろ120	②	卯年千石割入落追割三厘分小前帳	天明三年卯十一月晦日	1783	横長	1
ろ121		辰之千石免割帳	天明四年辰十二月七日	1784	横長	1
ろ122		巳千石免割帳	天明五年巳十二月九日	1785	横長	1
ろ123		午千石免割帳	天明六年午十二月五日	1786	横長	1
ろ124		未之千石免割帳	天明七年未十二月四日	1787	横長	1
ろ125		申之千石免割帳	天明八年十二月吉日	1788	横長	1
ろ126		酉之千石免割帳	寛政元年酉十一月十九日	1789	横長	1
ろ127		戌之千石免割帳	寛政二年戌十一月廿一日	1790	横長	1
ろ128		亥之千石免割帳	寛政三年戌（亥）十二月九日	1791	横長	1
ろ129		寅之千石免割帳	寛政六年寅閏十一月晦日	1794	横長	1
ろ130		卯之千石免割帳	寛政七年卯十二月十七日	1795	横長	1
ろ131		酉之千石免割帳	享和元年酉十二月十二日	1801	横長	1
ろ132		戌之千石免割帳	享和二年戌十二月十三日	1802	横長	1
ろ133		亥之千石免割帳	享和三年亥十二月九日	1803	横長	1
ろ134		子之千石免割帳	文化元子年十二月	1804	横長	1
ろ135		丑之千石免割帳	文化二丑年十二月	1805	横長	1
ろ136		卯之千石免割帳	文化四卯年十二月	1807	横長	1

作 成	受 取	備 考
木田村庄屋秀四良		ろ120①～②は綴 東組庄屋作十郎・東組西庄屋常右衛門・ 年寄4人・立会惣代22人の連印あり
木田村庄屋常右衛門、同断作十郎、同断 秀四郎		庄屋秀四郎・同断作十郎・同断常右衛 門・年寄4人・五人組頭22人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		東組庄屋作十郎・中組（「同断西庄屋」 の上に書込み）庄屋常右衛門・年寄4 人・立会惣代22人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		東組庄屋作十郎・中組庄屋常右衛門・年 寄4人・立会惣代22人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		表紙「天明六年十二月朔日」、東組庄屋 作十郎・中組庄屋常右衛門・年寄4人・ 立会惣代22人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		表紙「天明七年十月吉日」、東組庄屋作 十郎・中組庄屋常右衛門・年寄4人・立 会惣代23人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		（東組庄屋）作十郎・（中組庄屋）常右 衛門・年寄4人・立会惣代23人の連印あ り
木田村庄屋秀四郎		（東組）庄屋作十郎・（中組）同常右衛 門・年寄4人・惣代23人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		（東組）庄屋作十郎・（中組）同常右衛 門・年寄4人・惣代22人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		綴じ紐切れ、（東組）庄屋作十郎・（中組） 同常右衛門・年寄4人・惣代23人の連印 あり
木田村庄屋秀四郎		（東組）庄屋作十郎・（中組）同常右衛 門・年寄4人・惣代23人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		（東組）庄屋作十郎・（中組）同常右衛 門・年寄4人・惣代23人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		（東組）庄屋作十郎・（中組）同断常右 衛門・年寄4人・惣代22人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		（東組）庄屋作十郎・（中組）同断常右 衛門・年寄4人・惣代23人の連印あり
木田村庄屋兵吾		（東組）庄屋作十郎・（中組）同断常右 衛門・年寄4人・惣代26人の連印あり
木田村西組庄屋兵吾		庄屋兼帯坂口作十郎・年寄4人・惣代28 人の連印あり
木田村西組庄屋兵吾		（東組）庄屋平八・（中組）同断信蔵・ 年寄3人・惣代26人の連印あり



番号	枝番	表題	年代	西暦	形態	数
ろ137		巳之千石免割帳	文化六巳年十二月	1809	横長	1
ろ138		午之千石免割帳	文化七年午十二月	1810	横長	1
ろ139		未之千石免割帳	文化八年未十二月八日	1811	横長	1
ろ140		申之千石免割帳	文化九年申十二月八日	1812	横長	1
ろ141		酉之千石免割帳	文化十年酉十二月九日	1813	横長	1
ろ142		戌之千石免割帳	文化十一年戌十二月十一日	1814	横長	1
ろ143		子之千石免割帳	文化十三年子十二月九日	1816	横長	1
ろ144		〔丑之千石免割帳〕	文化十四年丑十二月十四日	1817	横長	1
ろ145		寅之千石免割帳	文政元寅年十二月十二日	1818	横長	1
ろ146		辰之千石免割帳	文政三辰年十二月十二日	1820	横長	1
ろ147		未之千石免割帳	文政六年未十二月十二日	1823	横長	1
ろ148		申之千石免割帳	文政七申年十二月十二日	1824	横長	1
ろ149		酉之千石免割帳	文政八酉年十二月十四日	1825	横長	1
ろ150		亥之千石免割帳	文政十亥年十二月十六日	1827	横長	1
ろ151		子之千石免割帳	文政十一子年十二月	1828	横長	1
ろ152		寅之千石免割帳	文政十三寅年十二月十四日	1830	横長	1
ろ153		辰之千石免割帳	天保三辰年十二月十二日	1832	横長	1
ろ154		巳之千石免割帳	天保四巳年十二月十三日	1833	横長	1
ろ155		午之千石免割帳	天保五年午年十二月十四日	1834	横長	1

作 成	受 取	備 考
木田村黒野村庄屋兼帯又右衛門		破損あり、(東組)庄屋平八郎・(中組)同断信蔵・年寄3人・惣代26人の連印あり
西組庄屋俊吾		(東組庄屋)平八郎・(中組庄屋)信蔵・年寄3人・惣代25人の連印あり
木田村西組庄屋俊吾		破損あり、(東組)庄屋坂口平八郎・(中組)同断信蔵・年寄3人・惣代25人の連印あり
木田村西組庄屋俊吾		(東組)庄屋坂口平八郎・(中組)同断信蔵・年寄3人・惣代26人の連印あり
木田村西組庄屋俊吾		(東組)庄屋坂口平八郎・(中組)同断信蔵・年寄3人・惣代26人の連印あり
木田村西組庄屋俊吾		(東組)庄屋坂口平八郎・(中組)同断信蔵・年寄3人・惣代26人の連印あり
木田村西組庄屋山田俊吾		(東組)庄屋坂口平八郎・(中組)同断信蔵・年寄3人・惣代26人の連印あり
		表紙欠、(東組)庄屋坂口平八郎・(中組)同断信蔵・年寄3人・惣代26人の連印あり
木田村西組庄屋山田俊吾		(東組)庄屋坂口平八郎・(中組)同断信蔵・年寄3人・惣代25人の連印あり
木田村西組庄屋山田俊吾		(東組)庄屋坂口平八郎・(中組)同断頼治・年寄3人・惣代24人の連印あり
木田村西組庄屋山田秀四郎		(中組)庄屋頼治・(東組)同断作左衛門・年寄3人・惣代25人の連印あり
木田村西組庄屋山田秀四郎		(中組)庄屋頼次・(東組)同断坂口作左衛門・年寄3人・惣代25人の連印あり
木田村西組庄屋山田秀四郎		(中組)庄屋頼治・(東組)同断坂口作左衛門・年寄2人・惣代26人の連印あり
木田村西組庄屋山田秀四郎		(中組)庄屋頼次・(東組)同断坂口作左衛門・年寄3人・百姓代2人・惣代23人の連印あり
木田村西組庄屋山田秀四郎		(東組)庄屋坂口作左衛門・(中組)同断扇吾・年寄3人・百姓代2人・惣代25人の連印あり
木田村西組庄屋友左衛門		(東組)庄屋坂口作左衛門・(中組)同断扇吾・年寄2人・惣代27人の連印あり
木田村西組庄屋山田元助		(東組)庄屋坂口作左衛門・(中組)同断扇吾・年寄3人・惣代26人の連印あり
木田村西組庄屋山田元助		(東組)庄屋坂口作十郎・(中組)同断扇吾・年寄3人・惣代27人の連印あり
木田村西組庄屋山田元助		(東組)庄屋坂口作十郎・(中組)同断扇吾・年寄3人・百姓代惣代2人・惣代25人の連印あり

番号	枝番	表題	年代	西暦	形態	数
ろ156		未之千石免割帳	天保六未年十二月廿日	1835	横長	1
ろ157		亥之千石免割帳	天保十戌（亥）年十二月十八日	1839	横長	1
ろ158		巳之千石免割帳	弘化二巳年十二月十三日	1845	横長	1
ろ159		子之千石免割帳	嘉永五子年十二月十三日	1852	横長	1
ろ160		丑之千石免割帳	嘉永六丑年十二月十六日	1853	横長	1
ろ161		寅之千石免割帳	嘉永七寅年十二月十七日	1854	横長	1
ろ162		辰之千石免割帳	安政三辰年十二月	1856	横長	1
ろ163		巳之千石免割帳	安政四巳年十二月廿二日	1857	横長	1
ろ164		午之千石免割帳	安政五午年十二月廿一日	1858	横長	1
ろ165		未之千石免割帳	安政六未年十二月十七日	1859	横長	1
ろ166		申之千石免割帳	万延元申年十二月九日	1860	横長	1
ろ167		亥之千石免割帳	文久三亥年十二月十七日	1863	横長	1
ろ168		卯之五百石免割帳	（宝暦9歳）卯十二月廿五日割之	1759	横長	1
ろ169		申之五百石免割帳	明和弍年乙酉正月十七日	1765	横長	1

作 成	受 取	備 考
木田村西組庄屋山田元助		(東組) 庄屋坂口作十郎・(中組) 同断扇吾・年寄 3 人・百姓代惣代 1 人・惣代 27 人の連印あり
木田村西組庄屋山田元助		(東組) 庄屋坂口作十郎・(中組) 同断扇吾・年寄 3 人・百姓代 2 人・惣代 28 人の連印あり
木田村西組庄屋山田元助		(東組) 庄屋坂口作十郎・(中組) 同断長屋扇吾・年寄 3 人・百姓代 1 人・惣代 27 人の連印あり
木田村西組庄屋山田元助		(東組) 庄屋坂口作十郎・(中組) 同断長屋斎之進・年寄 3 人・百姓代 1 人・惣代 26 人の連印あり
木田村西組庄屋山田元助		(東組) 庄屋坂口作十郎・(中組) 同断長屋斎之進・年寄 3 人・百姓代 1 人・惣代 26 人の連印あり
木田村西組庄屋山田元助		兼帯庄屋遠藤重平・同断福島清兵衛・(東組) 庄屋坂口作十郎・(中組) 同断長屋斎之進・年寄 3 人・百姓代 1 人・惣代 26 人の連印あり
木田村西組庄屋山田元助		兼帯庄屋遠藤重平・同断福島清兵衛・(東組) 庄屋坂口作十郎・(中組) 同断長屋斎之進・年寄 2 人・百姓代 1 人・惣代 26 人の連印あり
木田村西組庄屋山田元助		兼帯庄屋遠藤重平・同断福島清兵衛・(東組) 庄屋坂口作十郎・(中組) 同断長屋斎之進・年寄 3 人・百姓代 1 人・惣代 26 人の連印・他 108 人の連名あり
木田村西組庄屋山田元助		兼帯庄屋遠藤重平・同断福島清兵衛・(東組) 庄屋坂口作十郎・(中組) 同断長屋斎之進・年寄 3 人・百姓代 1 人・惣代 26 人の連印・他 112 人の連名あり
木田村西組庄屋山田元助		兼帯庄屋遠藤重平・同断福島清兵衛・(東組) 庄屋坂口作十郎・(中組) 同断長屋斎之進・年寄 3 人・百姓代 1 人・惣代 26 人の連印・他 110 人の連名あり
木田村西組庄屋山田元助		兼帯庄屋遠藤重平・同断福島清兵衛・(東組) 庄屋坂口作十郎・(中組) 同断長屋斎之進・年寄 4 人・百姓代 1 人・惣代 26 人の連印・他 110 人の連名あり
木田村西組庄屋秀四郎		(東組) 庄屋太八郎・(中組) 同断鎌吉郎・庄屋後見 2 人・年寄 4 人・百姓代 1 人・惣代 23 人の連印・他 107 人の連名あり
西木田村庄屋兵治郎		表紙「宝暦九歳霜月」、庄屋兵治郎・年寄 2 人・五人組頭 9 人の連印あり
西組兵治		表紙「明和元年十二月日」、庄屋兵治・年寄 2 人・五人組頭 10 人の連印あり

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
ろ170		酉之五百石免割帳	明和二年酉十二月	1765	横長	1
ろ171		戌の五百石免割帳	明和三年十二月	1766	横長	1
ろ172	①	亥之五百石免割帳	明和五年子二月十七日	1768	横長	1
ろ172	②	亥之年別割帳	明和五年子二月十六日	1768	横長	1
ろ173		子之五百石免割帳	明和五年子十二月廿五日	1768	横長	1
ろ174	①	丑五百石免割帳	明和五（6）年丑十二月	1769	横長	1
ろ174	②	丑之年頭分別割帳	明和六年十二月	1769	横長	1
ろ175		寅之五百石免割帳	明和七年寅十二月九日	1770	横長	1
ろ176		卯之五百石免割帳	明和八年卯十二月五日	1771	横長	1
ろ177		辰之五百石免割帳	明和九年辰十二月	1772	横長	1
ろ178		辰ノ頭分別割帳	明和九年辰十二月	1772	横長	1
ろ179		巳年五百石免割帳	安永二年巳十二月二日	1773	横長	1
ろ180		頭分別免割帳	安永二年巳十二月	1773	横長	1
ろ181		午五百石免割帳	安永三年午十一月	1774	横長	1
ろ182		頭分別免割帳	安永三年午十二月	1774	横長	1
ろ183		未之五百石免割帳	安永四年未十二月十五日	1775	横長	1
ろ184		未年頭分別免割帳	安永四年未十二月	1775	横長	1
ろ185		申之五百石免割帳	安永五年申十一月十八日	1776	横長	1
ろ186		申年頭分別免割帳	安永五年申十一月十八日	1776	横長	1

作 成	受 取	備 考
庄屋兵治		庄屋兵治・年寄 2 人・五人組頭 9 人の連印あり
西組庄屋秀四郎		年代は表紙より、庄屋秀四郎・年寄 2 人・五人組頭 9 人の連印あり
西組庄屋秀四郎		ろ172①～②は綴、表紙「明和四年十二月」、庄屋秀四郎・年寄 2 人・五人組頭 9 人の連印あり
秀四郎		表紙「明和四年十二月」、庄屋八郎右衛門・同秀四郎・年寄 4 人・他20人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		表紙「明和五年子十二月廿四日」、庄屋秀四郎・年寄 2 人・他14人の連印あり
木田西組庄屋秀四郎		ろ174①～②は綴、表紙「明和六年十二月」、庄屋秀四郎・年寄 2 人・五人組頭 8 人の連印あり
西木田村庄屋秀四郎		年代は表紙より、(庄屋)秀四郎・(庄屋)八郎右衛門・年寄 3 人・五人組頭16人・百姓代 2 人の連印あり
木田村秀四郎		綴じ紐切れ、庄屋秀四郎・年寄 2 人・五人組頭 8 人・他 2 人の連印あり
		綴じ紐切れ、表紙「明和八年十一月」、(年寄) 2 人・(五人組頭など) 11人の連印あり
庄屋秀四郎		ろ177～ろ178は綴、(年寄) 2 人・(五人組頭など) 12人の連印あり
庄屋秀四郎		表紙「安永元年十二月十日」、(年寄) 4 人・(五人組頭など) 18人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		ろ179～ろ180は綴、(年寄) 2 人・(五人組頭など) 12人の連印あり
庄屋秀四郎		(年寄) 4 人・(五人組頭など) 17人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		ろ181～ろ182は綴、(年寄) 2 人・(五人組頭など) 12人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		表紙「安永三年午之十一月吉日」、(年寄) 4 人・(五人組頭など) 15人の連印あり
西組木田村庄屋秀四郎		ろ183～ろ184は綴、(年寄) 2 人・(五人組頭など) 12人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		(年寄) 4 人・(五人組頭など) 20人の連印あり
西組木田村庄屋秀四郎		ろ185～ろ186は綴、綴じ紐切れ、(年寄) 2 人・(五人組頭など) 12人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		(年寄) 4 人・(五人組頭など) 20人の連印あり



番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
ろ187		酉五百石免割帳	安永六年酉十二月十一日	1777	横長	1
ろ188		酉年頭分別割帳	安永六年酉十二月	1777	横長	1
ろ189		戌五百石免割帳	安永七戌十一月廿三日	1778	横長	1
ろ190		戌年頭分別割帳	安永七年戌十二月	1778	横長	1
ろ191		亥之五百石免割帳	安永八年亥ノ十二月十一日	1779	横長	1
ろ192		亥年頭分別割帳	安永八年亥十二月十二日	1779	横長	1
ろ193		子五百石免割帳	安永九年子十二月	1780	横長	1
ろ194		頭分別割帳	安永九年十二月	1780	横長	1
ろ195		丑之五百石免割帳	天明元年丑十二月八日	1781	横長	1
ろ196		丑年頭分別割帳	天明元年丑十二月九日	1781	横長	1
ろ197		寅之五百石免割帳	天明二年寅十一月廿五日	1782	横長	1
ろ198		寅年頭分別割帳	天明二年寅十二月	1782	横長	1
ろ199		卯五百石免割帳	天明三年卯十一月晦日	1783	横長	1
ろ200		辰年五百石免割帳	天明四年辰十二月八日	1784	横長	1
ろ201		巳年五百石免割帳	天明五年巳十二月十日	1785	横長	1
ろ202		午五百石免割帳	天明六年午十二月六日	1786	横長	1
ろ203		未之五百石免割帳	天明七年未十二月五日	1787	横長	1
ろ204		申之五百石免割帳	天明八年申十二月八日	1788	横長	1
ろ205		酉五百石免割帳	寛政元年酉十一月廿日	1789	横長	1
ろ206		戌五百石免割帳	寛政二年戌十一月廿二日	1790	横長	1
ろ207		亥之五百石免割帳	寛政三年亥十二月十日	1791	横長	1
ろ208		卯五百石免割帳	寛政七年卯十二月十八日	1795	横長	1
ろ209		酉五百石免割帳	享和元年酉十二月十三日	1801	横長	1
ろ210		戌之五百石免割帳	享和二年戌十二月十四日	1802	横長	1
ろ211		亥之五百石免割帳	享和三年亥十二月十日	1803	横長	1
ろ212		子五百石免割帳	文化元年子十二月廿日	1804	横長	1

作 成	受 取	備 考
庄屋秀四郎		ろ187～ろ188は綴、(年寄) 4人・(五人組頭など) 23人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		綴じ紐切れ、(年寄) 4人・(五人組頭など) 20人の連印あり
木田村庄屋秀四郎	木田村庄屋秀四郎	ろ189～ろ190は綴、(年寄) 2人・(五人組頭など) 12人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		(年寄) 4人・(五人組頭など) 19人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		ろ191～ろ192は綴、(年寄) 2人・(五人組頭など) 12人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		(年寄) 4人・(五人組頭など) 18人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		ろ193～ろ194は綴、(年寄) 2人・(五人組頭など) 12人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		年代は表紙より、(年寄) 4人・(五人組頭など) 19人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		ろ195～ろ196は綴、(年寄) 2人・(五人組頭など) 12人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		(年寄) 4人・(五人組頭など) 17人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		ろ197～ろ198は綴、表紙「天明二年十一月八日」、(年寄) 2人・(五人組頭など) 12人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		(西組) 庄屋秀四郎・(東組) 同断作十郎・(中組) 同断常右衛門・年寄4人・(五人組頭など) 15人の連印あり
木田村西組庄屋秀四郎		表紙「天明三年十二月」、(年寄) 2人・(惣代) 12人の連印あり
木田村西組庄屋秀四郎		(年寄) 2人・(惣代) 12人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		(年寄) 2人・(惣代) 12人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		(年寄) 2人・(惣代) 12人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		年寄2人・惣代12人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		年寄2人・惣代12人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		年寄2人・惣代12人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		年寄2人・惣代12人の連印あり
木田村西組庄屋秀四郎		年寄2人・惣代11人の連印あり
木田村西組庄屋秀四郎		年寄2人・惣代12人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		年寄2人・惣代12人の連印あり
木田村庄屋秀四郎		年寄2人・惣代11人の連印あり
木田村西組庄屋兵吾		年寄2人・惣代12人の連印あり

番号	枝番	表題	年代	西暦	形態	数
ろ213		丑五百石免割帳	文化二年丑十二月七日	1805	横長	1
ろ214		卯五百石免割帳	文化四年卯十二月十三日	1807	横長	1
ろ215		巳五百石免割帳	文化六年巳十二月十日	1809	横長	1
ろ216		未之五百石免割帳	文化八年未十二月	1811	横長	1
ろ217		申之五百石免割帳	文化九年申十二月	1812	横長	1
ろ218		戌之五百石免割帳	文化十一年戌十二月十二日	1814	横長	1
ろ219		子之五百石免割帳	文化十三年子十二月十日	1816	横長	1
ろ220		丑之五百石免割帳	文化十四年丑十二月十四日	1817	横長	1
ろ221		卯之五百石免割帳	文政二卯年十二月十四日	1819	横長	1
ろ222		申之五百石免割帳	文政七年十二月十三日	1824	横長	1
ろ223		丑之五百石免割帳	文政十二丑年十二月十八日	1829	横長	1
ろ224		卯之五百石免割帳	天保二卯年十二月十七日	1831	横長	1
ろ225		卯之五百石免割帳	天保十四卯年十二月十九日	1843	横長	1
ろ226	1	巳之五百石免割帳	弘化二巳年十二月十四日	1845	横長	1
ろ226	2	午之五百石免割帳	弘化三年十二月	1846	横長	1
ろ226	3	未之五百石免割帳	弘化四年十二月	1847	横長	1
ろ227		戌之五百石免割帳	嘉永三戌年十二月廿日	1850	横長	1
ろ228		子之五百石免割帳	嘉永五子年十二月十四日	1852	横長	1
ろ229		丑之五百石免割帳	嘉永六丑年十二月十七日	1853	横長	1
ろ230		寅之五百石免割帳	安政元年十二月	1854	横長	1
ろ231		卯之五百石免割帳	安政二卯年十二月	1855	横長	1
ろ232		辰之五百石免割帳	安政三辰年十二月	1856	横長	1
ろ233		巳之五百石免割帳	安政四巳年十二月	1857	横長	1

作 成	受 取	備 考
木田村庄屋兵吾		年寄 1 人・年寄兼帯 1 人・惣代13人の連印あり
木田村西組庄屋兵吾		年寄 1 人・年寄兼帯 1 人・惣代13人の連印あり
木田村西組庄屋又右衛門		年寄 1 人・年寄兼帯 1 人・惣代13人の連印あり
木田村西組庄屋俊吾		年寄兼帯 1 人・年寄 1 人・惣代12人の連印あり
木田村庄屋俊吾		年寄兼帯 1 人・年寄 1 人・惣代13人の連印あり
木田村西組庄屋俊吾		年寄兼帯 1 人・年寄 1 人・惣代13人の連印あり
木田村西組庄屋山田俊吾		年寄兼帯 1 人・年寄 1 人・惣代13人の連印あり
木田村西組庄屋山田俊吾		年寄 2 人・惣代12人の連印あり
木田村西組庄屋山田俊吾		年寄 2 人・百姓代 1 人・惣代10人の連印あり
木田村西組庄屋山田秀四郎		年代は表紙より、年寄 2 人・惣代11人の連印あり
木田村西組庄屋友左衛門		年寄 2 人・惣代12人の連印あり
木田村西組庄屋友左衛門		年寄 2 人・惣代11人の連印あり
木田村庄屋山田元助		年寄 2 人・百姓代 1 人・惣代13人の連印あり
木田村庄屋山田元助		年寄 2 人・百姓代 1 人・惣代13人の連印あり
木田村庄屋山田元助		年代は表紙より、後欠
木田村庄屋山田元助		年代は表紙より
木田村庄屋山田元助		年寄 2 人・百姓代 1 人・惣代13人の連印あり
木田村庄屋山田元助		年寄 2 人・百姓代 1 人・惣代13人の連印あり
木田村庄屋山田元助		年寄 2 人・百姓代 1 人・惣代13人の連印あり
木田村庄屋山田元助		年寄 2 人・百姓代 1 人・惣代13人の連印あり
木田村庄屋山田元助		年寄 1 人・百姓代 1 人・惣代13人の連印あり
木田村庄屋山田元助		年寄 2 人・百姓代 1 人・惣代13人の連印あり

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
ろ234		午之五百石免割帳	安政五年十二月	1858	横長	1
ろ235		未之五百石免割帳	安政六未年十二月十八日	1859	横長	1
ろ236		申之五百石免割帳	万延元申年十二月十日	1860	横長	1
ろ237		亥之五百石免割帳	文久三亥年十二月	1863	横長	1
ろ238		辰之御年貢米名寄帳	宝暦十年十月日	1760	横長	1
ろ239		午之御年貢米名寄帳	宝暦十二年神無月	1762	横長	1
ろ240		酉之御年貢米庭納名寄帳	明和二年十一月吉日	1765	横長	1
ろ241		亥之納米名寄帳	明和四年十一月	1767	横長	1
ろ242		子御年貢納米名寄帳	明和五年十一月	1768	横長	1
ろ243		卯御年貢納米名寄帳	明和八年十一月吉日	1771	横長	1
ろ244		当辰御年貢米庭帳	文政三年九月吉日	1820	横長	1
ろ245		申之御年貢庭帳	文政七年十月吉日	1824	横長	1
ろ246		酉之御年貢庭帳	文政八年十月吉日	1825	横長	1
ろ247		亥之御年貢米庭帳	文政十年九月廿五日	1827	横長	1
ろ248	1	当戌御年貢米庭帳	天保九年十月吉日	1838	横長	1
ろ248	2	当亥御年貢米庭帳	天保十年九月吉日	1839	横長	1
ろ249		当子御年貢米庭帳	天保十一年十月	1840	横長	1
ろ250		当丑御年貢米庭帳	天保十二年十月九日	1841	横長	1
ろ251		当辰御年貢米庭帳	天保十五年十月吉日	1844	横長	1
ろ252		当午御年貢米庭□(帳)	弘化三年十月朔日	1846	横長	1
ろ253		当未御年貢米庭帳	弘化四年十月十二日	1847	横長	1
ろ254		当丑御年貢米庭帳	慶応元年十月	1865	横長	1
ろ255		当卯御年貢米庭帳	慶応三年十一月	1867	横長	1
ろ256		当午御年貢庭帳	明治三年午十一月	1870	横長	1
ろ257		当未御年貢米庭帳	明治四年十一月	1871	横長	1
ろ258		当申御年貢米庭帳	明治五年壬申十一月	1872	横長	1
ろ259		木田村永川帳	正徳三癸巳歳八月廿八日	1713	横長	1
ろ260		美濃国去巳御年貢米御蔵納諸入用帳	宝暦十二年午三月	1762	縦	1
ろ261		戌年別免割帳	明和三年十二月	1766	横長	1
ろ262		戌之御高入御検地二付諸雑用免割帳	明和四年亥十二月	1767	横長	1

作 成	受 取	備 考
木田村庄屋山田元助		年寄 2 人・百姓代 1 人・惣代13人の連印あり
木田村庄屋山田元助		年寄 2 人・百姓代 1 人・惣代13人の連印あり
木田村西組庄屋山田元助		年寄 2 人・百姓代 1 人・惣代13人の連印あり
木田村西組庄屋秀四郎		年寄 2 人・百姓代 1 人・惣代13人の連印あり
木田村庄屋兵次郎		
喜多村庄屋兵治郎		破損あり
庄屋兵治		
西組木田庄屋秀四郎		破損あり
木田村西組庄屋秀四郎		
庄屋秀四郎		
木田村西組庄屋山田俊吾		
木田村庄屋山田秀四郎		
木田村庄屋山田秀四郎		
木田村西組庄屋山田秀四郎		
木田村庄屋山田元助		綴じ紐切れ
木田村庄屋山田元助		資料には「二四八ノ一」と番号記載
木田村庄屋山田元助		
木田村庄屋山田元助		
木田村西組庄屋山田元助		
□□□ (木田村) 庄屋山田□□ (元助)		表紙破損
木田村庄屋山田元助		
木田村西組庄屋喜三郎		
木田村西組庄屋秀四郎		
木田村西組庄屋喜三郎		
西組庄屋山田喜三郎		
副長山田喜三郎		
木田村庄屋藤左衛門 (印)、同清右衛門 (印)	三権右衛門様、永猪右衛門様	「右之通相改相違無御座候以上、永嶋猪右衛門 (印)、三平権右衛門 (印)」とあり
納名主茂作 (印)、治郎兵衛 (印)、宿清吉 (印)、年行事いせ屋治郎助 (印)	戸田采女正様御預り御役所	
西組庄屋秀四郎		(庄屋) 八郎右衛門・秀四郎・(年寄) 4 人・(五人組頭など) 19人の連印あり
西組庄屋秀四郎		



番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
ろ263		子之年別割帳	明和六年丑正月	1769	横長	1
ろ264		寅年双方別割帳	明和七年寅十二月十四日	1770	横長	1
ろ265		享保元申年より同拾巳年迄明和八卯年より 安永九子年迄御取箇書上帳	安永十年丑二月	1781	縦	1
ろ266		享保元申年より同拾巳年迄明和八卯年より 安永九子年迄御取箇書上帳扣帳	天明二年寅三月	1782	縦	1
ろ267		享保元申年より同拾巳年迄明和八卯年より 安永九子年迄御取箇書上帳	天明貳年寅三月	1782	縦	1
ろ268		濃州方県郡木田村二十ヶ年分御取箇書抜帳	寛政四年子壬二月	1792	縦	1
ろ269		濃州方県郡木田村拾ヶ年分御取箇書抜帳	寛政四年子壬二月	1792	縦	1
ろ270		頭分西組高 [ ]	寛政十二年申十二月吉□(日)	1800	横長	1
ろ271		酉御年貢米三筋新田仕訳帳	享和元年十二月	1801	横長	1
ろ272		戌御年貢米三筋并ニ新田共仕訳帳	享和二年十二月	1802	横長	1
ろ273		亥之御年貢米三筋并ニ新田共仕訳帳	享和三年十一月	1803	横長	1
ろ274		亥年長瀬筋村々清勘定御目録引得	享和四甲子年二月十四日	1804	縦	1
ろ275		方県郡村々御調達金五百両御利足割渡帳	文政十年亥十一月	1827	横長	1
ろ276		当子之二月方県郡村々御調達金覚	文政十一年	1828	横長	1
ろ277		御調達金仕訳帳	(文政11年)子三月十七日	1828	横長	1
ろ278		御調達金御利足割渡帳	(文政11年)子四月十日	1828	横長	1
ろ279		方県郡村々御調達金請取帳	文政十二年丑九月	1829	横長	1
ろ280		御調達金貳百両分元利米ニ而御渡シ米覚	文政十二年丑十一月	1829	横長	1
ろ281		寅之月割村々御調達金請取帳	文政十三年正月十九日	1830	横長	1
ろ282		御調達金千両割賦取立帳	文政十三年寅十一月	1830	横長	1
ろ283		御調達金取調帳	(天保6~13年)	1835	横長	1
ろ284		方県郡村々御調達金請取通	(文政11年)子三月	1828	横長	1
ろ285	1	来未之月割御調達金割賦帳	天保五年午十二月	1834	横長	1
ろ285	2	当未之御月用金元利取調帳	天保六年十一月	1835	横長	1

作 成	受 取	備 考
木田村庄屋秀四郎		表紙「明和五年十二月」、庄屋秀四郎・同断八郎右衛門・年寄4人・五人組頭17人・百姓代2人の連名あり
庄屋秀四郎		庄屋秀四郎・同断八郎右衛門・年寄4人・五人組頭17人・百姓代2人の連印あり
方県郡木田村庄屋秀四郎（印）、年寄常右衛門（印）、同断小三次（印）、同断要蔵（印）、同断茂八（印）、百姓代作十郎（印）	笠松堤方御役所	
方県郡木田村庄屋秀四郎、年寄常右衛門、百姓代作十郎	江戸御見分御役人中様	
方県郡木田村庄屋秀四郎（印）、年寄常右衛門（印）、同断小三次（印）、同断要蔵（印）、年寄茂八（印）、百姓代作十郎（印）	江戸御役人中様	
方県郡木田村庄屋作十郎（印）、同断秀四郎（印）、年寄又次郎（印）、同断佐太郎（印）、百姓代助右衛門（印）、同断吉蔵（印）	笠松御役所	
方県郡木田村庄屋作十郎、同断秀四郎、年寄又次郎、同断佐太郎、百姓代助右衛門、同断吉蔵	笠松御役所	
		表紙下部欠損
庄屋秀四郎		表紙「西組扣」
惣代山田秀四郎		
山田秀四郎		綴じ紐に結び文（利足金の覚）あり
方県郡惣代（印）	右村々御庄屋衆中	作成の年は表紙より
木田村惣代山田秀四郎		表紙「文政十一年子四月八日」
惣代山田秀四郎		
方県郡		
木田村惣代山田秀四郎		
方県郡惣代山田秀四郎		
山田秀四郎		
惣代山田秀四郎		
方県郡惣代山田秀四郎		表紙「過米代請取并ニ御普請金調達金請取書記共ニ」、資料には「二八六ノ二」と番号記載

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
ろ286		御困米并ニ御調達金割賦帳	天保八年酉二月	1837	横長	1
ろ287		来戌村々御調達金請取帳	天保八年酉十一月	1837	横長	1
ろ288		御調達金村々請取帳	天保十四年卯三月	1843	横長	1
ろ289		納竹代銀上納帳	天保八年酉十二月	1837	縦	1
ろ290		納竹代銀上納帳	天保十五年辰十二月	1844	縦	1
ろ291		当村高拾石以上之小前書上帳	天保十年亥七月十六日	1839	横長	1
ろ292		当卯荒所取調免割帳	天保十四年十二月	1843	横長	1
ろ293		方県郡木田村当未より亥迄五ヶ年再引帳 (去る寅年に水損地になり石砂入るにつき)	弘化四未年九月	1847	横長	1
ろ294		高壱石ニ付銀三匁掛り上納金村々請取帳	弘化四年未九月	1847	横長	1
ろ295		当未年千両割村々上納金取立帳	弘化四年未十一月	1847	横長	1
ろ296		嘉永四亥年木田黒野両村悪米ニ付込米仕訳帳	(嘉永4年)	1851	横長	1
ろ297		高懸調達金七百五拾両割小前取調帳	安政二年辰(卯)九月十七日	1855	横長	1
ろ298		三月九月高懸御調達不足分取調帳	安政三年辰十二月	1856	横長	1
ろ299		当午皆無立小前帳	安政五年十月	1858	横長	1
ろ300		西組皆無立取調帳	安政五年午十二月十八日	1858	横長	1
ろ301	1	西組分皆無立書出シ帳	慶応二年寅十一月	1866	横長	1
ろ301	2	当辰皆無立取調小前帳	明治元年十一月	1868	横長	1
ろ302		下場高え借り入免諸勘定取調帳	安政五年午十二月	1858	横長	1
ろ303		未年御年貢過不足取調帳	安政六年十二月	1859	横長	1
ろ304		高掛免先納調達金御差下ケニ付小前取調割附帳	万延元年申十二月廿七日	1860	横長	1
ろ305		本村・上場・下場三筋免附高小前取調帳	文久元年酉十一月日	1861	横長	1
ろ306		友十郎御年貢嘉永六丑年より勘定覚	文久三年亥十一月	1863	横長	1
ろ307		当子之三組仕訳取調帳	元治元年十二月	1864	横長	1
ろ308		御冥加金小前上納取調帳	慶応元年丑五月	1865	横長	1
ろ309		当西田方苧取取締小前請書	慶応三年八月廿七日	1867	横長	1
ろ310		当寅三組仕訳帳取調帳	慶応二年十二月	1866	横長	1
ろ311		当寅冬銀割請取帳	慶応二年十二月	1866	横長	1
ろ312		去寅御年貢過不足仕出し帳	慶応三年卯十二月	1867	横長	1
ろ313		当寅御廻米一村限帳			縦	1
ろ314		覚(金500両の調達金の利金勘定など書付)			縦	1
ろ315		覚(木田村納米の数量・払い先書付)	(未年)		縦	1
ろ316		覚(木田村納米の数量・払い先書付)	(未年)		縦	1

作 成	受 取	備 考
惣代山田秀四郎		
惣代山田秀四郎		破損あり
方県郡惣代山田秀四郎		表紙破損、表紙「高壺石ニ付銀三匁ヅツ」
惣代		
惣代山田秀四郎	御役所	
木田村	御役所	
		破損あり
小林八右衛門（印）、佐藤助四郎（印）、 金古甚五右衛門（印）、平八太夫、井上 九十郎（印）、和田万弥（印）、堀江岡右 衛門（印）		
方県郡惣代山田秀四郎		表紙「但當九月皆済年限ニ付石三匁之処 相減し申候」
方県郡惣代山田秀四郎		
福島扣		
庄屋山田元助扣		破損あり
山田元助扣		
木田村庄□（屋）山□（田） [      ]		破損あり、表紙の綴じ紐に結び文あり
木田村西組庄屋秀四郎		
西組扣		
庄屋山田元助		
木田村西組庄屋山田元助		
木田村西組庄屋秀四郎扣		
西組扣		
木田村西組庄屋扣		
方県郡木田村		
西組		104人の連印あり
西組扣		
木田村西組庄屋		
木田村西組庄屋秀四郎		
壺番西組		
		破損あり

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
ろ317		納合米之覚・諸向扶持覚・御廻米之覚・村々端米覚			縦	1
ろ318		覚（三組の人足・伝馬など取調帳）	（嘉永3～安政6年）	1850	縦	1
ろ319		覚（調達金勘定につき）	（嘉永3年）	1850	横長	1
ろ320		〔納米の数量・払い先など書付〕	安政五年午年	1858	横長	1
ろ321		〔駄賃覚帳〕			横長	1
ろ322		未勘定写（戊新畑）	天保六未年十二月	1835	横長	1
ろ323		酉之勘定写（戊新畑）	嘉永二酉年十二月	1849	横長	1
ろ324		覚（方県郡村々調達金利足勘定などにつき）			横長	1
ろ325		初代米盛かけ覚			横長	1
ろ326		〔郡中割賦帳〕			横長	1
ろ327		〔荒所并取下段免物成仕出帳〕			横長	1
ろ328		覚（郷蔵預米内の濡米・半濡、3組にての割賦など書付）			横長	1
ろ329		八ヶ村割符取調書	嘉永四亥年	1851	横長	1
ろ330		〔御年貢米庭帳〕	（元治元年～慶応元年カ）	1864	横長	1
ろ331		〔御年貢米庭帳〕	（天保14年～弘化元年カ）	1843	横長	1
ろ332		覚（郷蔵・払米中の濡米・半濡、3組にての割賦など書付）			横長	1
ろ333		〔御年貢米庭帳〕			横長	1
ろ334		文久元子年御年貢過不足仕出し帳	（文久元年）	1861	横長	1
ろ335		文久三亥年過不足仕出し覚	（文久3年）	1863	横長	1
ろ336		御年貢米庭帳	明治六年酉十二月	1873	横長	1
は1		濃州石津郡牧田村獵師鉄砲御改帳・濃州石津郡牧田村威鉄砲御改帳・濃州石津郡牧田村用心鉄砲御改帳（獵師鉄砲5挺・威鉄砲11挺・用心鉄砲6挺所持）	宝永六年丑ノ十月	1709	縦	1
は2		濃州石津郡牧田村獵師鉄砲御改帳（山方にて獵師鉄砲5挟所持、元禄3年より御改あり免許）	正徳三年巳十月	1713	縦	1
は3		村法仕来御尋ニ付書上承知連印帳	天明三年卯四月	1783	横長	1
は4		村中連印一札（高違い・勘定違いあれば3年分の元利勘定仕立につき）	天明七年未四月	1787	縦	1
は5		《覚書》	天明8・正	1788		
は6		《百姓方御教諭書留帳》	寛政3・9	1791		
は7		御尋ニ付書上帳扣（徳右衛門・八十郎兩人、頭分次列差加えの出入一件、委細尋ねにつき頭分由緒など書上）	（寛政8年）辰十月	1796	縦	1
は8		方県郡木田村頭分名前書上帳（メ82人）	寛政八年辰十二月	1796	横長	1

作 成	受 取	備 考
東組庄屋坂口作十郎（印）	西組庄屋山田元助様	
庄屋坂口作十郎（印）	御庄屋山田元助様	
		綴じ紐切れ
		前目録に記載なし
		前目録に記載なし
		前目録に記載なし
	(荒尾六右衛門殿、生駒伊右衛門殿)	
		庄屋十左衛門・組頭5人・鉄砲持主5人・五人組21人の連判あり
(計184人の連印)	三組庄屋中	連印は「菊右衛門（印）…」とあり
(計208人の連印)	庄屋中	破損あり、連印は「新兵衛（印）、留之助（印）、領助（印）…」とあり、庄屋3人・年寄4人の奥印あり
		現在所在不明
		現在所在不明
方県郡木田村庄屋秀四郎、同作十郎、年寄茂八、同清右衛門、同又次郎	笠松御郡代所	破損あり
木田村庄屋作十郎、同秀四郎	笠松御役所	



番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
は9		〔御配符・廻状・届書等写帳〕	(享和元年)	1801	横長	1
は10		頭分え式拾四人より披露金割渡帳扣(小三郎以下11人を頭分次列へ差加えなどの件、村役人・惣頭分納得にて受納金調べにつき)	寛政十二年申六月朔日	1800	縦	1
は11		訴答書類認写(徳右衛門・八十郎兩人、頭分次列差加えの処、百姓24人訴状差出につき)	寛政七年卯十二月(～寛政11年5月)	1795	縦	1
は12		四ヶ寺え扇子料受納帳(頭分次列に加わる12人より扇子料100疋づつ預けにつき)	享和元酉年五月	1801	縦	1
は13		扇子料受納帳(頭分次列に差し加えの12人より扇子料100疋づつ出金につき)	享和元年酉五月	1801	縦	1
は14		扇子料受納帳(頭分次列に差し加えの12人より扇子料100疋づつ出金につき)	享和元年酉五月	1801	縦	1
は15		扇子料受納帳(頭分次列に差し加えの12人より扇子料差出、受納帳写を笠松役所へ差上げにて控)	享和元年酉五月	1801	縦	1
は16		拾式人頭分次列差加へニ付連印帳(古市場・正木村庄屋の頼みにつき)	享和元年酉五月	1801	縦	1
は17		御請連印帳(勘定所より諸国廻米劣化にて、米拵え方入念にするなどの触れ、村民承知につき)	享和三亥年八月	1803	縦	1
は18		子之御配符并廻状留帳	享和四年正月吉日(～3月)	1804	横長	1
は19		御配符書留帳	享和四年甲子二月廿二日(～8月)	1804	横長	1
は20		御配符并ニ廻状□□(写帳カ)	文化三年丙寅九月吉日(～12月)	1806	横長	1
は21		《郡奉行申渡状》	文化3・9	1806		
は22		御用廻状写帳	文化四年丁卯十月吉日(～12月)	1807	横長	1
は23		御配符并ニ廻状写帳	文化六年己巳正月吉日(～8月)	1809	横長	1
は24		御配符并ニ廻状写帳	文化六年己巳九月吉日(～11月)	1809	横長	1
は25		御用向諸事書留帳	文化七年午四月吉日(～文化8年12月)	1810	縦	1
は26		御用向諸事書留帳	文化九年申正月吉日(～文政3年5月)	1812	縦	1
は27		御用状并御配符 [ ] (書留帳カ)	文化九年申正月吉日(～9月9日)	1812	横長	1

作 成	受 取	備 考
庄屋秀四郎		『岐阜市史 史料編近世二』 pp. 1061～1064に一部分収載
金剛寺(印)、仏心寺(印)、願徳寺(印)、 斎宮庵(印)	庄屋中	
木田村西組分		資料には「は一二」と番号記載
木田村東組分		資料には「は一三」と番号記載
方県郡木田村秀四郎(印)、同断作十郎 (印)、同断常右衛門(印)	笠松御役所	表紙朱書「十三」、資料には「は一四」と番号記載
(計92人の連印)	庄屋中、年寄中	連印は「木田村友吉(印)、虎松(印)、 弥市郎(印)…」とあり、連印写を村役 人から笠松役所へ差出した届あり
(計196名の連印)	笠松御役所	表紙「亥九月」「方県郡木田村」、庄屋3 人・年寄4人・百姓代2人の奥印あり、 『岐阜市史 史料編近世二』 pp. 1064～ 1066に収載
木田村庄屋秀四郎		表紙の綴じ紐に結び文あり
木田村庄屋兵吾		表紙破損、表紙「年号文化と二月十九日 ニ改元」
		破損あり、表紙「弐」
		現在所在不明
木田村庄屋□(兵)吾		破損あり
木田村西組庄屋兵吾		破損あり
木田村庄屋兵吾		
木田村西組庄屋俊吾		表紙「壺」「但シ午未弐ヶ年分写シ有之」、 『岐阜市史 史料編近世二』 pp. 1042～ 1049に一部分収載
木田村庄屋俊吾		表紙「弐」、『岐阜市史 史料編近世二』 pp. 1049～1052に一部分収載
		破損あり

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
は28		取究連印帳（惣助以下9人頭分次列に成りたく金子村方へ出金の処、承知につき）	文化九申年十二月	1812	縦	1
は29		〔御配符并ニ廻状写帳〕	（文化12年8月～12月）	1815	横長	1
は30		御用向諸事書留帳	文政三年辰八月吉日（～文政5年4月）	1820	縦	1
は31		御用向諸事書留帳	文政五年午四月吉日（～文政6年10月）	1822	縦	1
は32		頭分次列ニ差加ニ付下書帳（仏心寺等の頼みにより11人・6人を頭分次列に差加えて、金員差出等の件）	文政十一子年六月	1828	縦	1
は33		次列ニ差加え候当人上下者共より披露金割渡帳（惣助以下6人、頭分次列差加え頼みの処、村役人・惣頭分納得にて祝儀受納につき）	文政十一年子十二月	1828	縦	1
は34		《米預証文》	天保5・7	1834		
は35		扇子料配人名前書記帳（100疋づつ、ノ162人分書付）	天保五甲午年十二月日	1834	縦	1
は36		御用状書留帳	弘化三年午正月吉日（～弘化4年1月）	1846	横長	1
は37		濟口一札（堤御普請にて松尾五郎三郎外5人の扣畑土取一件により村役人へ訴訟の処、熟談につき）	嘉永三戌年六月	1850	縦	1
は38		出勤日記帳	嘉永五年子正月（嘉永4年11月～嘉永5年4月）	1852	横長	1
は39		乍恐口上書を以奉申上候（木田村御普請所土取場一件、作物有る場所は元形の通り取直す旨、小前一同利解するよう願いにつき）	嘉永六丑年四月	1853	縦	1
は40		御触状留（尾張藩北方陣屋からの触れ）	嘉永七年甲寅正月吉日（嘉永6年12月～嘉永7年12月）	1854	横長	1
は41		〔昨卯十月江戸表の地震にて上屋敷等大破につき、普請入用金は濃州等領分より高掛り出金をもって5ヵ年返済にて大坂より5千両借り入れる手順等につき触れ〕	（安政3年）	1856	縦	1

作 成	受 取	備 考
五郎三郎、兵左衛門、兵次、清五郎、久内、吉蔵（印）、太郎右衛門（印）、伊兵衛（印）、常五郎、庄蔵（印）、佐助、新兵衛（印）、六郎右衛門、小四郎（印）、嘉兵衛（印）、金右衛門（印）、要蔵（印）、兵左衛門（印）、三郎左衛門（印）、友重郎、茂助（印）、又次郎（印）、山田清右衛門、信蔵（印）、俊吾（印）、坂口平八郎（印）		資料には「は二六ノ一」と番号記載
		『岐阜市史 史料編近世二』 pp. 1057～1061に一部分収載
木田村庄屋山田俊吾		表紙「三番」、『岐阜市史 史料編近世二』 pp. 1052～1055に一部分収載
木田村西組庄屋山田秀四郎		資料には「は二七」と番号記載、表紙「四番」、『岐阜市史 史料編近世二』 pp. 1055～1057に一部分収載
山田秀四郎扣		資料には「は二八」と番号記載
木田村西組庄屋山田秀四郎（印）	木田村東組庄屋坂口作左衛門殿	破損あり、資料には「は二九」と番号記載
		現在所在不明
木田村		表紙朱書「拾弐」、資料には「は三一」と番号記載
木田村庄屋山田元助		
木田村百姓訴訟人松尾五郎三郎、同断利兵衛、同断太郎左衛門、同断兵左衛門、同断兵治郎、同断孫兵衛、請負人嘉兵衛、同断太四郎、同断太郎兵衛、百姓代坂口三十郎、年寄茂八、同断又次郎、同断山田清右衛門、庄屋見習堅次郎、同断坂口勢十郎、庄屋長屋扇吾、同断山田元助、同断坂口作十郎	御取嘆人伊藤利太郎殿、同断福島清兵衛殿	
木田村扣		
		尾張藩領の落合村・神戸村などへ出されたものカ

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
は42		手続書（曾我屋村地内横小堤訴訟関係の願書・済口証文など）	安政四年巳正月	1857	縦	1
は43	①	乍恐以書付奉願上候（4人の者が年貢勘定せず利足一切出さずと申すにて、出訴申し上げにつき）	安政六未年三月	1859	縦	1
は43	②	奉差上御請書之事（年貢その他による出訴にて、不納分は勘定し取り賄うなどにつき）	安政六未年三月九日	1859	縦	1
は44		御改秤書上帳（メて76本）	安政七申年二月	1860	横長	1
は45		乍恐以書付奉願上候（田方立毛の儀、早痛み場所もあるにて苺取願い）	文久元酉年九月	1861	縦	1
は46		御用録（船数取調書、板谷川通新堤敷地の土取跡掟米年貢の儀取極めにつき請書、御貸付金拝借質証文など）	文久二年戌十月	1862	縦	1
は47		願書録（板谷川通堤切入荒地出来時の手当方の儀につき願書、拝借金年賦年延願い承知につき請書、中山道河渡宿定助郷18か村難渋につき嘆願書など）	元治元子年	1864	縦	1
は48		頭分中取極一札約定書（頭分次列の者、村法に背き白壁・板塀等取り拵えにつき）	慶応二年寅四月	1866	横長	1
は49		〔御配符并ニ廻状写帳〕	（申年正月～8月）		横長	1
は50		〔御用留帳〕	（天保7年9月～12月）	1836	横長	1
は51		御尋ニ付口上之覚（百姓12人頭分次列に差加えの処、脇百姓28人が訴訟申し上げにて、頭分次列差加えの者の委細尋ねにつき）	（享和2年）	1802	縦	1
は52		〔江州多賀への閑道運輸不虞のため牧田川渡船の村賄いによる取立て承知につき、渡船出来の上、渡船心得書渡すにつき達し〕	辰二月		切紙	1
は53		〔諸国不作・飢に及ぶにつき、五穀の他にも作物作り、夫食に成る品を貯え置くよう仰渡しの趣、承知につき請書〕	（天明5年）巳二月	1785	縦	1
は54		〔井伊掃部頭殿不慮の次第、諸事書付〕	（万延元年2月～3月）	1860	縦	1
は55		〔日光道中中田宿困窮にて人馬賃銭割増の申渡し、新銀取交請取方・渡方・両替並びに引替銀の件の触れなど公義より出候書付写〕	（未年）		縦	1
は56		〔流行病療治方の素人心得書〕			縦	1
は57		〔御配符并ニ廻状写帳〕	（安政2年11月～安政3年正月）	1855	横長	1
は58		〔御配符并ニ廻状写帳〕	（辰年2月～12月）		横長	1

作 成	受 取	備 考
六ヶ村組合木田村控		『岐阜市史 史料編近世二』 pp. 1066～1070に一部分収載
木田村百姓代坂口三十郎、年寄又三郎、同断茂八、同断山田清右衛門、庄屋見習山田秀四郎、庄屋長屋斎之進、同断山田元助、同断坂口作十郎、兼帯庄屋遠藤重平	御役所	は43①～②は綴
木田村百姓治兵衛、同断勘四郎、同断藤四郎、同断与兵衛、善衛親類左十郎	御役所	庄屋坂口作十郎の奥印あり
方県郡木田村		表紙「村内惣家数式百軒」
木田村百姓代坂口平十郎、年寄九郎兵衛、庄屋山田秀四郎	御役所	破損あり
方県郡木田村		表紙「拾三番」、『岐阜市史 史料編近世二』 pp. 1070～1078に一部分収載
庄屋秀四郎扣		『岐阜市史 史料編近世二』 pp. 1078～1081に一部分収載
(計76人の連印)	御庄屋中、御年寄中、御百姓中	連印は「嘉兵衛(印)、折右衛門(印)、権十郎(印)…」とあり、『岐阜市史 史料編近世二』 pp. 1081に収載
		破損あり
		破損あり
方県郡木田村		資料には「は四五」と番号記載
	牧田村庄屋、組頭、頭百姓	
濃州方県郡木田村庄屋秀四郎、同断作十郎、同断常右衛門、年寄小三治、同断要蔵、同断茂八、同断佐太郎、(以下百姓209人の連印)	笠松御役所	破損大、取扱注意、百姓の連印は「新兵衛(印)、留之助(印)、領助(印)…」とあり
		破損あり、取扱注意、資料には「は五一」と番号記載
		資料には「は五六」と番号記載
		破損大、笠松郡代に千種六郎右衛門が在任中(明和3年～天明6年)の時期のもの



番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
は59		乍恐口上之覚（検見前の田方刈取り禁止を申しても刈り取る者により、年貢皆済ならず、また調達金上納延引などの件につき）	（安政4年カ）	1857	縦	1
は60		乍恐以口上書奉申上候（曾我屋村地内横土手一件、熟談の旨を木田村小前百姓が内々に堤方役人へ差し出すにつき糾明願ひ）	（安政5年カ）午九月	1858	縦	1
は61		乍恐御内願奉申上候口上之覚（村方差入組一条、昨冬の済口4か条の内、金17両余り出銀の件、出来難きになどにつき）	（安政4年カ）巳八月	1857	縦	1
は62		〔木田村地内板谷川通堤防願ひ箇所・曾我屋村地内横小堤仮築場所絵図〕			続紙	1
は63		〔御一新にて、無籍戸外の者に入籍等申付け、雛形通りに人別取調帳差出すようにつき触〕	（明治元年カ）五月十二日	1868	縦	1
に1		濃州方県郡木田村当子年小入用帳	宝暦六年子正月	1756	横長	1
に2		美濃国方県郡木田村西組丑小入用帳	宝暦七年丑正月	1757	横長	1
に3		当亥之正月より極月迄村小入用帳	明和四年正月吉祥日	1767	横長	1
に4		寅年小入用帳	明和七年正月吉日	1770	横長	1
に5		卯年村方小入用帳	明和八年正月吉日	1771	横長	1
に6		卯之免割後同落物共辰村方小入用帳	明和九年正月吉日	1772	横長	1
に7		□（辰）之免割後十二月六日より巳村方小入用□（帳）	安永二年正月吉日	1773	横長	1
に8		未之免割後初十二月十六日より申之年小入用帳	安永五年正月吉日	1776	横長	1
に9		酉免割後十二月六日より戌年小入用帳	安永七年正月吉日	1778	横長	1
に10		戌之免割後十一月廿四日より亥年小入用帳	安永八年正月吉日	1779	横長	1
に11		亥之免割後十二月十二日より子年小入用帳	安永九年正月吉日	1780	横長	1
に12		濃州方県郡木田村子年小入用帳	（安永9年）子十二月	1780	横長	1
に13		丑免割後十二月九日より寅年小入用帳	天明二年正月吉日	1782	横長	1
に14		寅之免割後十一月廿六日より卯年小入用帳	天明三年正月吉日	1783	横長	1
に15		卯之免割後十二月朔日より辰年小入用帳	天明四年正月吉日	1784	横長	1

作 成	受 取	備 考
木田村年寄又三郎、本改田村庄屋五郎左衛門、上尻毛村庄屋村瀬甚作、下尻毛村庄屋春日七右衛門、又丸村庄屋大野小右衛門、川部村年寄福島新蔵、庄屋福島清兵衛	御役所	
木田村山田元助		表紙「上」、資料には「は五六」と番号記載
		98.4×135.6cm、「方県郡河渡村、本巢郡生津村、方県郡寺田村、下曾我屋村、上曾我屋村、川部村、下尻毛村、木田村、東改田村、上尻毛村、又丸村、本巢郡馬場村、高屋村、柱本村」とあり
大垣御預役所	惣代	
木田村庄屋兵次郎（印）、同村年寄小三次（印）、同断弁蔵（印）、百姓代太郎次（印）、同断柳助（印）、同断重蔵（印）	大垣御役所	
木田村庄屋兵治郎（印）、右同村年寄弁蔵（印）、右同断小三治（印）、百姓代太郎次（印）、同断柳助（印）	大垣御役所	
木田村庄屋秀四郎		
木田西組庄屋秀四郎		
木田村庄屋秀四郎		
木田村庄屋秀四郎		表紙綴じ紐部分に結び文2点あり
木□□（田村）庄屋秀□□（四郎）		綴じ紐切れ、破損大、取扱注意
木田村庄屋秀四郎		外表紙「申年 庄屋秀四郎」
木田村庄屋秀四郎		
木田村庄屋秀四良		外表紙「亥年入用帳」、資料には「に十九」と番号記載
木田村庄屋秀四郎		資料には「に十」と番号記載
木田村庄屋八郎右衛門（印）、同断秀四郎（印）、年寄小三治（印）、同常右衛門（印）、同要蔵（印）、同茂八（印）、百姓代作十郎（印）	笠松御役所	表紙「安永九年正月」、百姓199人の連印あり、資料には「に十一」と番号記載
木田村庄屋秀四郎		資料には「に十二」と番号記載
木田村庄屋秀四郎		資料には「に十三」と番号記載
木田村庄屋秀四郎		資料には「に十四」と番号記載

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
に16		辰之免割後十二月九日より巳年小入用帳	天明五年正月吉日	1785	横長	1
に17		巳免割後十二月十一日より午年小入用帳	天明六年正月吉日	1786	横長	1
に18		午免割後十二月七日より未年小入用帳	天明七年正月吉日	1787	横長	1
に19		未之免割後十二月七日より申年小入用帳	天明八年正月吉日	1788	横長	1
に20		濃州方県郡木田村当戌小入用帳	寛政二年戌十二月	1790	横長	1
に21		戌之免割後十一月廿三日より亥年小入用帳	寛政三年正月吉日	1791	横長	1
に22		丑之免割後十二月七日より寅年小入用帳	寛政六年正月吉日	1794	横長	1
に23		寅之免割後十二月朔日より卯年□（小）入用帳	寛政七年正月吉日	1795	横長	1
に24		卯年村入用帳	寛政七年卯十二月	1795	横長	1
に25		辰年村□□□（入用帳）	寛政八年辰十二月	1796	横長	1
に26		巳年村入用帳	寛政九年巳十二月	1797	横長	1
に27		午年村入用帳	寛政十年午十二月	1798	横長	1
に28		未之免割後十二月十九日より申年小入用帳	寛政十二年正月吉日	1800	横長	1
に29		申之免割後十二月十五日より酉年小入用帳	寛政十三年正月吉日	1801	横長	1
に30		亥年村小入用帳	享和三年亥十二月	1803	横長	1
に31	①	亥之免割後十二月十一日より子年小入用帳	享和四年正月吉日	1804	横長	1
に31	②	亥之御年貢金上ケ過納入用太餅代御下ケ金仕訳帳	享和四年子ノ二月	1804	横長	1

作 成	受 取	備 考
木田村西組庄屋秀四郎		資料には「に十五」と番号記載
木田村庄屋秀四郎		外表紙「午年小入用帳」、資料には「に十六」と番号記載
木田村庄屋秀四郎		外表紙「未年」、資料には「に十七」と番号記載
木田村庄屋秀四郎		資料には「に十八」と番号記載
木田村庄屋秀四郎(印)、同作十郎(印)、同常右衛門(印)、同(年寄)要蔵(印)、同茂八(印)、同佐太郎(印)、同又治郎(印)、百姓代助右衛門(印)	笠松御役所	表紙「寛政二年正月」、小前204人の連印あり、笠松役所の奥印あり
木田村庄屋秀四郎		
木田村庄屋秀四郎		
木田村庄屋秀四□(郎)		破損あり
濃州方県郡木田村庄屋秀四郎(印)、同断作十郎(印)、同断常右衛門(印)、年寄茂八(印)、同断佐太郎(印)、同断又次郎(印)、同断清右衛門(印)、百姓代友十郎(印)、同断吉蔵(印)	笠松御役所	表紙「寛政七年正月」、裏表紙「紙相四拾三枚」、笠松役所の奥印あり
濃州方県郡木田村庄屋秀四郎(印)、同断作十郎(印)、同断常右衛門(印)、年寄茂八(印)、同断佐太郎(印)、同断又次郎(印)、同断清右衛門(印)、百姓代友十郎(印)、同断吉蔵(印)	笠松御役所	表紙下部破損、表紙「寛政八年正月」、裏表紙「紙数四拾七枚」、笠松役所の奥印あり
濃州方県郡木田村庄屋秀四郎(印)、庄屋作十郎(印)、同断常右衛門(印)、年寄茂八(印)、同断佐太郎(印)、同断又次郎(印)、同断清右衛門(印)、百姓代友十郎(印)、同断吉蔵(印)	笠松御役所	表紙「寛政九年正月」、笠松役所の奥印あり
濃州方県郡木田村庄屋秀四郎(印)、同断作十郎(印)、同断常右衛門(印)、年寄茂助(印)、同断佐太郎(印)、同断又次郎(印)、同断清右衛門(印)、百姓代友十郎(印)、同断吉蔵(印)	笠松御役所	表紙「寛政十年正月」、裏表紙「紙数七拾枚」、笠松役所の奥印あり
木田村庄屋秀四郎		
木田村庄屋秀四郎		破損あり
		表紙「享和三年正月」「濃州方県郡木田村」、裏表紙「紙数六拾五枚」、小前246人の連印あり、に30の下に覚(剥離紙)あり
木田村庄屋秀四郎		に31-①~③は綴、表紙に紙札「末ニ村金預り仕訳帳あり」とあり
木田村庄屋作十郎(印)、同断常右衛門(印)、同断秀四郎(印)		前目録では、資料番号「に193」とあり

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
に31	③	安藤対馬守様御領分ニ相成候ニ付亥十二月より色々差引ニ而預り金仕訳帳	文化元年子十二月	1804	横長	1
に32		当子年村方小入用帳	享和四年甲二月廿二日	1804	横長	1
に33		村方小入用帳	文化元年甲子八月吉日	1804	横長	1
に34		子年村小入用帳	文化元年子十二月廿二日	1804	横長	1
に35		当子村方小入用帳	文化元年二月廿二日	1804	横長	1
に36		丑年村小入用帳	文化二年丑十二月	1805	横長	1
に37		寅年小入用帳	文化三年正月吉日	1806	横長	1
に38		寅の十二月十日免割後取替物諸人足并ニ落物類村方小入用帳	文化三年十二月九日	1806	横長	1
に39		卯の免割後十二月十二日より村方小入用帳	文化五年辰正月吉日	1808	横長	1
に40		五百石免割辰の十二月八日より西組小入用帳	文化五年辰十二月吉日	1808	横長	1
に41		辰年諸入用覚帳	文化五年正月吉日	1808	横長	1
に42		木田村下用覚帳	文化七年十一月	1810	横長	1
に43		未年内諸入用日記帳	文化八年正月	1811	横長	1
に44		午之免割後十一月十日より村小入用帳	文化八年未之正月吉日	1811	横長	1
に45		木田村下用帳	文化九年申十一月日	1812	横長	1
に46		申之免割後十二月十日より村小入用日記帳	文化十年酉正月吉日	1813	横長	1
に47		下用帳	(文化10年) とり閏十一月廿六日	1813	横長	1
に48		酉之免割後十二月十日より村小入用日記帳	文化十一年戌正月吉日	1814	横長	1
に49		戌之免割後十二月十一日村小入用帳	文化十二年亥ノ正月吉日	1815	横長	1
に50		亥之免割後十二月十九日より村小入用帳	文化十三年子正月	1816	横長	1
に51		子之免割後十二月十日より村小入用帳	文化十四年丑正月吉日	1817	横長	1
に52		寅之諸入用日記帳	文化十五年 [ ] 吉日	1818	横長	1
に53		卯之免割後十二月十五日より村小入用帳	文政三年辰正月吉日	1820	横長	1
に54		辰之免割後十二月十五日より村小入用帳	文政四年巳正月吉日	1821	横長	1
に55		未之免割後十二月十五日ヨリ村小入用帳	文政七年申正月吉日	1824	横長	1
に56		申之免割後十二月十三日ヨリ村小入用帳	文政八年酉正月吉日	1825	横長	1
に57		酉之免割後十二月十五日より村小入用帳	文政九年戌正月吉日	1826	横長	1

作 成	受 取	備 考
木田村秀四郎		
木田村庄屋兵吾		
木田村庄屋兵吾		表紙「弐番」
方県郡木田村		表紙「文化元年正月」、庄屋作十郎・同断常右衛門・同断兵吾・年寄4人・他201人の連印あり
木田村庄屋兵吾		
方県郡木田村		表紙「文化二年正月」、庄屋兼坂口作十郎・庄屋兵吾・年寄4人・他217人の連印あり、資料には「に三七」と番号記載
木田村庄屋兵吾		綴じ紐切れ、資料には「に三六」と番号記載
木田村庄屋兵吾		
木田村庄屋兵吾		
木田村庄屋兵吾		裏表紙の綴じ紐に結び文（人足賃の覚）あり
山田氏		
切通村油屋三郎右衛門	木田村御庄屋 御苗平八様、同信蔵様、同俊五郎様、同清右衛門様	資料には「に七三」と番号記載
山田吉迢		資料には「に四二」と番号記載
木田村西組庄屋俊吾		資料には「に四三」と番号記載
油屋		資料には「に七四」と番号記載
木田村庄屋俊吾		資料には「に四四」と番号記載
(油屋) 三郎右衛門	木田村御庄屋・御年寄中様	年代・作成の丸カッコは表紙より、資料には「に七五」と番号記載
木田村西組庄屋俊吾		資料には「に四五」と番号記載
木田村庄屋俊吾		資料には「に四六」と番号記載
木田村庄屋山田俊吾		資料には「に四七」と番号記載
木田村西組庄屋山田俊吾		資料には「に四八」と番号記載
木田村 [ ] (庄屋カ) 俊吾		破損あり、表紙「五月四日文政改元」、資料には「に四九」と番号記載
木田村庄屋山田俊吾		資料には「に五十」と番号記載
木田村庄屋山田秀四郎		裏表紙の綴じ紐に結び文2点あり、資料には「に五一」と番号記載
木田村西組庄屋山田秀四郎		資料には「に五二」と番号記載
西組庄屋山田秀四郎		資料には「に五三」と番号記載
木田村西組庄屋山田秀四郎		資料には「に五四」と番号記載

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
に58		丑之免割後十二月十八日より村小入用帳	文政十三年寅正月	1830	横長	1
に59		巳之免割後十二月十五日より村小入用帳	天保五年午正月吉日	1834	横長	1
に60		未極付月下用書出シ帳	天保六年	1835	横長	1
に61		未盆前下用書出し帳	(天保6年)	1835	横長	1
に62		下用帳	天保八酉年	1837	横長	1
に63		酉十二月十八日免割後村小入用帳	天保九年戌正月吉日	1838	横長	1
に64		丑免割後十二月十七日より村小入用帳	天保十三年寅正月吉日	1842	横長	1
に65		方県郡十四ヶ村御領分村々御酒□(頂)載之節諸入用	天保十四年卯十二月	1843	横長	1
に66		下用帳	弘化二年巳十二月	1845	横長	1
に67		下用帳	弘化四年未冬	1847	横長	1
に68		下用帳	嘉永元年申極月	1848	横長	1
に69		下用帳	嘉永二酉年	1849	横長	1
に70		木田村下用帳	嘉永四亥年	1851	横長	1
に71		下用書出し帳	嘉永五子盆前	1852	横長	1
に72		盆後下用帳	嘉永五年子十二月	1852	横長	1
に73		子免割後十二月十四日より村小入用帳	嘉永六年丑正月	1853	横長	1
に74		寅免割後十二月廿五日より村小入用帳	安政元(2ヵ)年卯正月	1855	横長	1
に75		下用帳	安政三年う十二月	1855	横長	1
に76		下用帳	安政三年辰十二月	1856	横長	1
に77		下用蝶(帳)	安政四年巳極月	1857	横長	1
に78		下用帳	安政五年午十二月	1858	横長	1
に79		御下用肴書出	万延元申極月	1860	横長	1
に80		申免割後十二月十一日ヨリ村小入用帳	万延二年酉正月	1861	横長	1
に81		酉免割後十二月廿八日より村小入用帳	文久二年戌正月	1862	横長	1
に82		酉年村小入用帳	文久二年戌三月	1862	横長	1
に83		戌免割後従十二月村小入用帳	文久三年亥正月	1863	横長	1



作 成	受 取	備 考
木田村庄屋山田秀四郎		破損あり、資料には「に五五」と番号記載
木□□（田村）庄屋山田元□（助）		破損あり、資料には「に五六」と番号記載
ふじや新助（印：濃州切通舎藤屋）	木田邑御村役衆中様	資料には「に七六」と番号記載
ふじや新助	坂口作十郎様	資料には「に九三」と番号記載
油屋三郎右衛門	木田村御役人中様	表紙「木田村」、資料には「に七七」と番号記載
木田村山田元助		資料には「に五七」と番号記載
木田村庄屋山田元助		表紙の綴じ紐に堤普請入用物の覚書あり、付箋多数あり、資料には「に五八」と番号記載
割元木田村、下西郷村、川部村		表紙破損あり、資料には「に五九」と番号記載
ふじや新助（印：濃州切通舎藤屋）	木田村御村役人衆中様	裏表紙の綴じ紐に下用覚帳など3点が綴られている、資料には「に七八」と番号記載
ふじや新助	木田むら御村役人衆中様	綴じ紐切れ、資料には「に七九」と番号記載
ふじ屋新助	木田村御村役人衆中様	資料には「に八〇」と番号記載
ふじや新助	木田村御村役人衆中様	資料には「に八一」と番号記載
ふじや新助	御役人衆中様	資料には「に八二」と番号記載
藤屋新助	木田村御村役人衆中様	資料には「に八三」と番号記載
ふじや新助	木田村御村役人衆中様	資料には「に八四」と番号記載
木田村庄屋山田元助		資料には「に六十」と番号記載
木田村庄屋山田元助		資料には「に六一」と番号記載
ふじや新助	木田御村役衆中様	裏表紙の綴じ紐に下用覚帳1点が綴られている、資料には「に八五」と番号記載
藤屋新助（印：濃州切通舎藤屋）	木田村御村役人衆中様	資料には「に八六」と番号記載
藤屋新助（印：濃州切通舎藤屋）	木田御村役人衆中様	資料には「に八七」と番号記載
藤屋新助	木田むら御村役人衆中様	資料には「に八八」と番号記載
松屋半次郎	切通御支配七ヶ村御組合様	資料には「に九四」と番号記載
木田村庄屋山田元助		資料には「に六二」と番号記載
木田□（村）庄屋秀四郎扣		破損あり、資料には「に六三」と番号記載
濃州方県郡木田村		破損あり、資料には「に六四」と番号記載
木田村西組庄屋秀四郎		資料には「に六五」と番号記載

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
に84		亥免割後十二月十八日ヨリ村小入用帳	文久四年子正月	1864	横長	1
に85		亥年小入用帳	文久四年子三月	1864	横長	1
に86		子年小入用帳	元治二年丑三月	1865	横長	1
に87		下用覚帳	寅七月		横長	1
に88		寅年小入用取調帳	慶応三年卯三月	1867	横長	1
に89		卯免割後十二月八日より村小入用帳	慶応四年辰正月	1868	横長	1
に90		辰免割後十二月十八日より村小入用帳	明治二年巳正月	1869	横長	1
に91		〔諸事書留帳〕	(文政9年)	1826	横長	1
に92		木田村下用帳	酉七月		横長	1
に93		下用覚帳	戌三月		横長	1
に94		〔下用帳〕			横長	1
に95		笠松近江屋下用帳村々拾い書帳			横長	1
に96		笠松笹屋下用拾い出し帳	卯七月		横長	1
に97		出入ニ付御用ニ而笠松え[ ]	明和二年酉十二月	1765	横長	1
に98		大津御用上下入用立会算用覚留帳	明和七年寅七月十七日	1770	横長	1
に99		丑十一月より寅六月晦日迄会所小役割賦帳	寛政六年寅七月	1794	縦	1
に100		寅御検見ニ付御泊り諸入用帳	寛政六年九月廿三日	1794	横長	1
に101		寛政七卯年より出入一件諸入用留帳(去6年以前卯より脇百姓24人との出入につき)	寛政十二年申五月五日	1800	横長	1
に102		高拝借金小前割賦帳(去子水難にて切通役所より金35両拝借、高割につき)	文化二年丑二月朔日	1805	横長	1
に103		御普請一件ニ付御役人様御休泊入用附	文化十二年亥八月吉日	1815	横長	1
に104		御普請諸入用西組諸勘定仕上ケ帳	文化十三年子八月	1816	横長	1
に105		当申之八ヶ村盆後割賦帳	文政七年十二月	1824	横長	1
に106		当酉盆後八ヶ村割賦帳	文政八年十二月日	1825	横長	1
に107		家別御酒料頂戴請印帳(家数など書上)	文政九年戌四月	1826	横長	1
に108		旦島村小土手差障り一件ニ付諸入用割賦帳	文政九年戌七月	1826	横長	1

作 成	受 取	備 考
木田村西組庄屋秀四郎		資料には「に六六」と番号記載
濃州方県郡木田村百姓代三十郎（印）、年寄藤七（印）、同断九郎兵衛（印）、同断又三郎（印）、同断茂八（印）、庄屋後見齋之進（印）、同断元助（印）、同断作十郎、庄屋鎌吉郎（印）、同断太八郎（印）、同断秀四郎（印）	笠松御役所	172人の連印あり、笠松御役所よりの奥印あり、資料には「に六七」と番号記載
濃州方県郡木田村百姓代三十郎（印）、年寄藤七（印）、同断九郎兵衛（印）、同断又三郎（印）、同断茂八（印）、庄屋後見齋之進（印）、同断元助（印）、同断作十郎、庄屋鎌吉郎（印）、同断太八郎（印）、同断秀四郎（印）	笠松御役所	破損あり、付箋はがれ、171人の連印あり、笠松御役所よりの奥印あり、資料には「に六八」と番号記載
志津屋領八（印）		印に「濃州尻池」とあり、資料には「に八九」と番号記載
方県郡木田村		資料には「に六九」と番号記載
木田村西組庄屋秀四郎		資料には「に七十」と番号記載
木田村西組庄屋秀四郎		綴じ紐切れ、資料には「に七一」と番号記載
		資料には「に七二」と番号記載
井桁屋源蔵	御庄屋衆中様	資料には「に九〇」と番号記載
志津屋領八（印）	御村々御役人衆中様	印に「濃州尻池」とあり、資料には「に九一」と番号記載
		資料には「に九二」と番号記載
木田村、下尻毛村、黒野村、下鶴飼村		
		表紙下部欠損
庄屋秀四郎		
		表紙「去丑年泊入用割并内割小役迄割」
		資料には「に六八」と番号記載
庄屋秀四郎		西組庄屋1人・年寄2人・他28人、東組庄屋1人・年寄1人・他44人、中組庄屋1人・年寄1人・他11人の連印あり
木田村西組		表紙の綴じ紐に名前書付が挟みこみ、155人の連印あり
木田村山田俊吾		
木田□（村）庄屋山田俊□（吾）		破損あり
年番木田村		
年番下鶴飼村、黒野村		破損あり
山田秀四郎扣		
下尻毛村、木田村	右村々御庄屋中様	

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
に109		当亥盆前四郡割賦帳	文政十年七月	1827	横長	1
に110		拾八ヶ村割賦下尻毛領八方造用	文政十年亥十二月	1827	横長	1
に111		御手当米拾五俵代金割渡帳（4郡村々より金500両調達仕置の処、勝手向き難しく、村々へ手当米下さるにつき）	文政十亥年十二月	1827	横長	1
に112		御裏印証文ニ而借用金取調帳	文政十二年丑正月	1829	横長	1
に113		御普請金壱ヶ月分御利足・木錢代村々取調書・白鳥五里外取調書 覚帳	文政十二年丑十二月大晦日	1829	横長	1
に114		当寅盆前当郡割賦帳	文政十三年七月	1830	横長	1
に115		郡中盆前割賦差引勘定帳	文政十三年寅ノ七月	1830	横長	1
に116		当寅盆前四郡割賦帳	文政十三年七月	1830	横長	1
に117		寅之先納金御利足割渡帳	文政十三年十月吉日	1830	横長	1
に118		三組仕訳帳取調ニ付年々入用帳	文政十三年寅十一月	1830	縦	1
に119		大検見御休泊割賦帳	文政十三年寅十二月	1830	横長	1
に120		旦ノ島・中島・西島・小島・菅生 五ヶ村新土手障り一件諸入用割賦帳	天保二年卯七月	1831	横長	1
に121		村取かへ覚	天保二年卯十二月	1831	横長	1
に122		当卯八ヶ村盆後割符帳	天保二年十二月	1831	横長	1
に123		辰之冬郡中割賦帳	天保三年十二月	1832	横長	1
に124		午之先納月割金書留帳	天保四年巳十二月	1833	縦	1
に125		千四百両割方県郡村々割賦帳	天保五年午八月廿七日	1834	横長	1
に126		当午月割御調達米ニ而御渡シ并二千六百両割御渡シ共ニ三組仕訳帳	天保五年十二月	1834	横長	1
に127	①	午極月雑用書出し帳	天保五年	1834	横長	1
に127	②	午極月雑用書出し帳	天保五年	1834	横長	1
に128		午極月雑用書出し帳	天保五年	1834	横長	1
に129		午極月雑用書出し帳	天保五年	1834	横長	1
に130		当申之冬村々諸勘定取調帳	天保七□（年）十二月	1836	横長	1
に131		西丸様御焼失ニ付御上納金割賦帳	天保九年戌五月	1838	縦	1
に132		当未木錢代米調帳	弘化四年十二月	1847	縦	1
に133		御内済衆中様下用	天保十亥七月	1839	横長	1
に134		子之盆前郡中割賦帳	天保十一年七月	1840	横長	1
に135		丑之冬郡中割賦帳	天保十二年十二月	1841	横長	1
に136		宿場金一件ニ付出府入用割符帳	天保十二年丑十二月	1841	横長	1
に137		三ヶ年割上納金当巳より未迄千両割賦帳	（弘化2年）巳八月廿日	1845	横長	1
に138		木錢代米取調帳	弘化二年巳十二月	1845	横長	1
に139		村方取替物覚	弘化二年乙巳十二月	1845	横長	1

作 成	受 取	備 考
山田氏		
方県郡惣代		
惣代山田秀四郎扣		
惣代山田秀四郎扣		破損あり
木田村惣代山田秀四郎扣		
惣代山田秀四郎（印）	右村々御庄屋衆中	表紙「方県郡惣代（印）」
惣代山田秀四郎		
山田氏扣		
惣代山田秀四郎		
木田村山田秀四郎扣		
本巢郡、方県郡		破損あり
障り村々惣代木田村、同断下尻毛村	右村々御庄屋衆中	
友十郎	山田友左衛門様	
八ヶ村年番（印）	右御村々御庄屋衆中様	表紙「年番木田村」
山田氏扣		
山田秀四郎扣		
惣代山田秀四郎		破損あり、表紙「金千六百兩割 但式百兩者七月上納」
木田村西組庄屋山田元助扣		
藤屋新介（印：濃州切通舎藤屋）	坂口作十郎様	に127①～②は綴
藤屋新介（印：濃州切通舎藤屋）	友十郎様、与兵衛様	
藤屋新介（印：濃州切通舎藤屋）	坂口三郎左衛門様	
藤屋新介（印：濃州切通舎藤屋）	御村役人衆中様	
惣代山田秀四郎		破損あり
惣代山田秀四郎		
惣代山田秀四郎	御役所	表紙「方県郡扣」
藤屋新助	坂口友重郎様	
山田扣		
惣代山田秀四郎		破損あり
惣代山田秀四郎（印）	右村々御庄屋衆中	
惣代山田秀四郎	御役所	表紙の綴じ紐に結び文あり
方県郡惣代		
友十郎	木田村御庄屋中様	

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
に140		村方取替物□（覚）	嘉永七寅年	1854	横長	1
に141		村方取替物覚	安政三辰年	1856	横長	1
に142		村方取替物覚帳	安政五年午十二月	1858	横長	1
に143		村方取替物覚帳	文久二年戊正月	1862	横長	1
に144		取替物覚			横長	1
に145		村方取替物覚	亥年		横長	1
に146		〔下用帳〕	嘉永二酉年十二月	1849	横長	1
に147		八ヶ村組合盆前割賦帳	（嘉永4年）亥七月十二日	1851	横長	1
に148		亥之人足帳	嘉永四年拾二月日	1851	横長	1
に149		古米・新米駄賃仕出し帳	嘉永五年子十二月	1852	横長	1
に150		地下人足并取替もの仕出し帳	嘉永七年寅十二月	1854	横長	1
に151		当辰冬組合八ヶ村割賦帳	安政三年十二月	1856	横長	1
に152		御肴御入用	安政六未十二月	1859	横長	1
に153		〔六ヶ村御組合通帳〕	文久元年酉十月	1861	横半	1
に154		拾五ヶ村式千両割金式百三拾六両割元利小前割賦帳	文久元年酉十二月廿三日	1861	横長	1
に155		郷蔵建替ニ付人足仕出し帳	文久元年酉十二月	1861	横長	1
に156		（10か村）村々差引帳	文久二年戊正月	1862	横長	1
に157		九ヶ村組合割賦帳	文久二戌年正月	1862	横長	1
に158		九ヶ村割賦帳	文久二年戊正月	1862	横長	1
に159		再改之当亥村方入用八月中金百五拾両銀割取調并右金之内三組より取替勘定其外差引再取調帳	文久三年八月より	1863	横長	1
に160		切通御役場より屋敷高免除御利足并別調達利足小前割渡帳	文久二年戊十二月廿八日	1862	横長	1
に161		亥冬諸事留帳	文久三年十一月廿一日	1863	横長	1
に162		当子年内村用諸事覚帳	文久四年正月	1864	横長	1
に163		太郎兵衛借用方濟方渡シ金其外諸覚帳	文久四年子二月日	1864	横長	1
に164		亥年御廻米川出し駄賃覚帳	文久四年子三月十三日	1864	横長	1
に165		〔御拝借返納金割賦帳・板谷川并根尾川通敷地弁米之内石代調達金割符帳〕	元治元年甲子十一月	1864	横長	1
に166		板谷川通敷地控米亥年組合不足分并組合割賦大積割村当り取調帳	元治元子年十二月廿二日	1864	横長	1
に167		去子盆後諸入用分拾五ヶ村組合諸入用割賦銀差引帳	元治二年丑二月廿九日	1865	横長	1
に168		御進発御用ニ付わらじ・馬踏・飼葉小前請取帳	慶応元年五月	1865	横長	1
に169		寅年内村用諸事留帳	慶応二年正月慶応三年卯年共	1866	横長	1

作 成	受 取	備 考
友十□(郎)	庄屋衆中様	破損あり、表紙の綴じ紐に結び文あり
友十郎方	庄屋衆中様	
柿ヶ瀬分友十郎	御庄屋衆中様	
坂口友十郎	御庄屋衆中様	破損あり
		破損あり
友十郎		
八ヶ村年番木田村(印)	右御村々御庄屋中様	
坂口嘉兵衛		破損あり
庄屋山田元助		
木田村		
まつや半次郎	坂口作十郎様、山田元助様、長屋斎之進様	
京栄		
庄屋秀四郎扣		表紙「并ニ取替もの仕出し有」
組合扣		
		綴じ紐切れ
秀四郎扣		
庄屋秀四郎		
西組庄屋扣		
木田村山田太郎兵衛扣		破損あり
木田村西組庄屋秀四郎控		
拾六ヶ村組合		「山田控」とあり
山田扣		
山田扣		
西組庄屋扣		
庄屋喜三郎		



番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
に170		当寅銀割請取覚帳	慶応二年八月	1866	横長	1
に171		当寅冬諸事覚帳	慶応二年十二月	1866	横長	1
に172		出入用取替金銀日記	慶応三年卯正月	1867	横長	1
に173		寅免割後村入用取替金銀日録	慶応三年卯正月	1867	横長	1
に174		卯冬村用諸事覚帳	慶応三年十一月	1867	横長	1
に175		卯免割後村役人集会支度覚帳	慶応四年辰正月	1868	横長	1
に176		当辰村方入用諸色并勤調〔 〕	明治元年十一月	1868	横長	1
に177		郷蔵普請諸事覚留帳	亥七月十八日初日		横長	1
に178		大検見様御泊り入用人足共ニ（覚帳）	亥十月十七日		横長	1
に179		覚（下用書付帳）	戌七月		横長	1
に180		覚（下用書付帳）	酉十二月		横長	1
に181		〔見舞覚帳カ〕			横長	1
に182		人足帳	戌（カ）年		横長	1
に183	①	〔人足帳〕	（3月5日）		横長	1
に183	②	覚（杭・橋板代書付）	申七月		切紙	1
に183	③	三月七日御郡代様御出張之時御代官平様・ 広瀬様御休息之時入用覚	申六月廿八日		切紙	1
に184		〔人足帳并取替物覚〕	（酉年）		横長	1
に185		覚（郡代出張にて郡代・同心休息時の入用 金につき）	（申年）		横長	1
に186		〔村小入用帳〕	（辰12月～巳12月）		横長	1
に187		〔村小入用帳〕	（申12月～酉12月）		横長	1
に188		〔村小入用帳〕	（亥12月～子12月）		横長	1
に189		〔村小入用帳〕	（巳12月～午12月）		横長	1
に190		〔村小入用帳〕	（寅9月～卯12月）		横長	1
に191		〔人足覚帳〕			横長	1
に192		〔諸事書留帳〕			横長	1
に193		〔欠番〕				
に194		郷蔵破損ニ付諸事覚帳	安政四年巳八月	1857	横長	1
に195		当二月廿日限銀割請取帳	慶応三年卯月	1867	横長	1
に196		覚（拝借金勘定につき）			横長	1
に197		買納請取覚帳	安政五年午十一月晦日改	1858	横長	1
に198		酉之年村取かへ覚			横長	1
ほ1		濃州方県郡木田村宗門人別御改帳	宝暦六年三月	1756	縦	1

作 成	受 取	備 考
木田村西組庄屋		
西組庄屋		裏表紙の綴じ紐に覚書2点あり
木田村西組庄屋秀四郎		表紙「此帳面ニ付有之候分別帳江書出し候ニ付不用」
木田□(村)西組庄屋秀四郎		破損あり
木田村西組庄屋秀四郎		
木田村西組庄屋秀四郎		
		表紙下部破損
木田西組庄屋秀四郎		
亀や源四郎(印)	木田村御庄屋中様	
亀や源四郎(印)	木田村御庄屋中様	
柿ヶ瀬坂口重内		
		に183①～③は綴
勇右衛門	山田元助様	
柿ヶセ分友十郎	木田村御庄屋衆中様	
		資料には「に一九三」と番号記載
木田村扣		
		破損あり
		綴じ紐切れ
		綴のため、に31-②へ移動
木田村庄屋山田元助		資料には「に一九五」と番号記載
木田村西組庄屋秀四郎		資料には「に一九四」と番号記載
		資料には「に一八四」と番号記載
木田村庄屋山田元助扣		前目録に記載無し
		前目録に記載無し
		後欠カ、破損あり、付札の剥離あり

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
ほ2		濃州方県郡木田村宗門人別御改帳	宝暦十年辰三月	1760	縦	1
ほ3		〔濃州方県郡木田村宗門人別御改帳〕	宝暦十二年午三月	1762	縦	1
ほ4		濃州方県郡木田村酉之宗門人別御改帳	明和二年酉三月	1765	縦	1
ほ5		濃州方県郡木田村子之宗門人別御改帳	明和五年子三月	1768	縦	1
ほ6		濃州方県郡木田村午之宗門人別御改帳	安永三年午三月	1774	縦	1
ほ7		濃州方県郡木田村午宗門人別御改帳	安永三年午三月	1774	縦	1
ほ8		濃州方県郡木田村戌年浄土宗門御改帳	安永七年戌三月	1778	縦	1
ほ9		濃州方県郡木田村戌年日蓮宗門御改帳	安永七年戌三月	1778	縦	1
ほ10		濃州方県郡木田村子年本願寺宗門御改帳	安永九年子三月	1780	縦	1
ほ11		濃州方県郡木田村子年浄土宗門御改帳	安永九年子三月	1780	縦	1
ほ12		濃州方県郡木田村子年禅宗門御改帳	安永九年子三月	1780	縦	1
ほ13		濃州方県郡木田村子年真言宗門御改帳	安永九年子三月	1780	縦	1
ほ14		濃州方県郡木田村子年日蓮宗門御改帳	安永九年子三月	1780	縦	1

作 成	受 取	備 考
美濃国方県郡木田村庄屋八郎右衛門、同断兵次郎、年寄長四郎、同断弁蔵、同断茂左衛門、年寄小三次、百姓代三郎左衛門、同断太郎兵衛	大垣御役所	表紙「紙数式百三拾九枚上紙共」、付札の剥離あり
美濃国方県郡木田村庄屋八郎右衛門、同断兵次郎、年寄長四郎、同断弁蔵、同断茂左衛門、年寄小三次、百姓代三郎左衛門、同断太郎兵衛	大垣御預御役所	表紙欠損、付札の剥離あり
美濃国方県郡木田村庄屋八郎右衛門、同断兵治、年寄長四郎、同断弁蔵、同断茂左衛門、年寄小三次、百姓代三郎左衛門、同断太郎兵衛	笠松御郡代所	付札の剥離あり
濃州方県郡木田村庄屋八郎右衛門、同断秀四郎、年寄長四郎、同断弁蔵、同断茂左衛門、年寄小三次、百姓代三郎左衛門、同断太郎兵衛	笠松御郡代所	破損あり、付札の剥離あり
		表紙「式冊之内巻」
濃州方県郡木田村庄屋八郎右衛門、庄屋秀四郎、年寄弁蔵、同断丈八、同断小三次、同断常右衛門、百姓代作十郎	笠松御郡代所	表紙「式冊之内式」
濃州方県郡木田村庄屋八郎右衛門、同断秀四郎、年寄要蔵、同断茂兵衛、同断小三治、同断常右衛門、百姓代作十郎	笠松御郡代所	表紙付札「村扣帳」
濃州方県郡木田村庄屋八郎右衛門、同断秀四郎、年寄要蔵、同断茂兵衛、同断小三治、同断常右衛門、百姓代作十郎	笠松御郡代所	
濃州方県郡木田村庄屋八郎右衛門、同断秀四郎（印）、年寄小三治（印）、同断常右衛門（印）、同断要蔵、年寄茂八、百姓代作十郎（印）	笠松御郡代所	表紙「式冊之内式」、付札の剥離あり
濃州方県郡木田村庄屋八郎右衛門、同断秀四郎（印）、年寄要蔵、同断茂八、同断小三治（印）、同断常右衛門（印）、百姓代作十郎（印）	笠松御郡代所	
濃州方県郡木田村庄屋八郎右衛門、同断秀四郎（印）、年寄用蔵、同断常右衛門（印）、同断小三治（印）、同断茂八、百姓代作十郎（印）	笠松御郡代所	
濃州方県郡木田村庄屋八郎右衛門、同断秀四郎（印）、年寄小三治（印）、同断常右衛門（印）、同断要蔵、同断茂八、百姓代作十郎（印）	笠松御郡代所	
濃州方県郡木田村庄屋八郎右衛門、同断秀四郎（印）、年寄小三治（印）、同断常右衛門（印）、同断要蔵、同断茂八、百姓代作十郎（印）	笠松御郡代所	

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
ほ15		濃州方県郡木田村子年六冊惣人数寄帳	安永九年子三月	1780	縦	1
ほ16		濃州方県郡木田村丑年本願寺宗門御改帳	安永十年三月	1781	縦	1
ほ17		濃州方県郡木田村丑年本願寺宗門御改帳	安永十年丑三月	1781	縦	1
ほ18		濃州方県郡木田村丑年浄土宗門御改帳	安永十年丑三月	1781	縦	1
ほ19		濃州方県郡木田村丑年日蓮宗門御改帳	安永十年丑三月	1781	縦	1
ほ20	1	濃州方県郡木田村丑年真言宗門御改帳	安永十年丑三月	1781	縦	1
ほ20	2	濃州方県郡木田村丑年禅宗門御改帳	安永十年丑三月	1781	縦	1
ほ21		濃州方県郡木田村丑年宗門御改帳六冊惣寄帳	安永十年丑三月	1781	縦	1
ほ22		濃州方県郡木田村辰年本願寺宗門御改帳	天明四年三月	1784	縦	1
ほ23		濃州方県郡木田村辰年本願寺宗門御改帳	天明四年辰三月	1784	縦	1
ほ24		濃州方県郡木田村辰年禅宗・真言宗・浄土宗・日蓮宗御改帳	天明四年辰三月	1784	縦	1
ほ25		濃州方県郡木田村辰年宗門御改帳六冊惣寄帳	天明四年辰三月	1784	縦	1
ほ26		濃州方県郡木田村未年真言宗・日蓮宗・禅宗・浄土宗御改帳	天明七年未三月	1787	縦	1
ほ27		濃州方県郡木田村酉年本願寺宗門御改帳	寛政元年三月	1789	縦	1
ほ28		濃州方県郡木田村酉年真言宗・日蓮宗・禅宗・浄土宗御改帳	寛政元年酉三月	1789	縦	1
ほ29		濃州方県郡木田村酉年宗門御改帳六冊寄帳	寛政元年酉三月	1789	縦	1
ほ30		濃州方県郡木田村戌年本願寺宗門御改帳	寛政二年三月	1790	縦	1
ほ31		濃州方県郡木田村戌年真言宗・日蓮宗・禅宗・浄土宗御改帳	寛政二年戌三月	1790	縦	1

作 成	受 取	備 考
濃州方県郡木田村庄屋八郎右衛門、同断秀四郎（印）、年寄小三治（印）、年寄常右衛門（印）、同断要蔵、同断茂八、百姓代作十郎（印）	笠松御郡代所	
		表紙「弍冊之内壺」
濃州方県郡木田村庄屋八郎右衛門、同断秀四郎、年寄小三治、年寄常右衛門、同断要蔵、同断茂八、百姓代作十郎	笠松御郡代所	表紙「弍冊之内弍」
濃州方県郡木田村庄屋八郎右衛門、同断秀四郎、年寄小三治、同断常右衛門、同断要蔵、同断茂八、百姓代作十郎	笠松御郡代所	
濃州方県郡木田村庄屋八郎右衛門、同断秀四郎、年寄小三治、同断常右衛門、同断要蔵、同断茂八、百姓代作十郎	笠松御郡代所	付札の剥離あり
濃州方県郡木田村庄屋八郎右衛門、同断秀四郎、年寄小三治、年寄常右衛門、同断要蔵、同断茂八、百姓代作十郎	笠松御郡代所	
濃州方県郡木田村庄屋八郎右衛門、同断秀四郎、年寄小三治、同断常右衛門、同断要蔵、同断茂八、百姓代作十郎	笠松御郡代所	
濃州方県郡木田村庄屋八郎右衛門、同断秀四郎、年寄小三治、同断常右衛門、同断要蔵、同断茂八、百姓代作十郎	笠松御郡代所	
		表紙「弍冊之内上」
濃州方県郡木田村庄屋秀四郎、同断作十郎、同断常右衛門、年寄小三治、同断用蔵、同断茂八、同断佐太郎	笠松御郡代所	表紙「弍冊之内下」
濃州方県郡木田村庄屋秀四郎、同断作十郎、同断常右衛門、年寄小三治、同断用蔵、同断茂八、同断佐太郎	笠松御郡代所	付箋の剥離あり
濃州方県郡木田村庄屋秀四郎、同断作十郎、同断常右衛門、年寄小三治、同断要蔵、同断茂八、同断佐太郎	笠松御郡代所	
庄屋秀四郎、同断作十郎、同断常右衛門、年寄用蔵、同茂八、同佐太郎、同又次郎	笠松御郡代所	
		付札の剥離あり、表紙「弍冊之内上」
庄屋秀四郎、同断作十郎、同断常右衛門、年寄要蔵、同茂八、同佐太郎、同又次郎	笠松御役所	
濃州方県郡木田村庄屋秀四郎、同断作十郎、同断常右衛門、年寄要蔵、同断茂八、同断佐太郎、同断又次郎	笠松御役所	
		表紙「弍冊之内上」
庄屋秀□□（四郎）、同断□□□（作十郎）、同断常右衛門、年寄要蔵、同断茂八、同断佐太郎、同断又次郎	笠松御役所	破損あり

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
ほ32		〔濃州方県郡木田村戌年本願寺宗門御改帳〕	寛政二年戌三月	1790	縦	1
ほ33		濃州方県郡木田村戌年宗門御改帳六冊惣寄帳	寛政二年戌三月	1790	縦	1
ほ34		濃州方県郡木田村寅年本願寺宗門御改帳	寛政六年寅三月	1794	縦	1
ほ35		濃州方県郡木田村寅年宗門御改帳六冊寄帳	寛政六年寅三月	1794	縦	1
ほ36		濃州方県郡木田村巳年本願寺宗門御改帳	寛政九年三月	1797	縦	1
ほ37		濃州方県郡木田村巳年本願寺宗門御改帳	寛政九年巳三月	1797	縦	1
ほ38		濃州方県郡木田村巳年真言・日蓮・禪・浄土宗門御改帳	寛政九年巳三月	1797	縦	1
ほ39		濃州方県郡木田村巳年宗門御改帳六冊寄	寛政九年巳三月	1797	縦	1
ほ40		濃州方県郡木田村本願寺宗門御改帳	寛政十二年申三月	1800	縦	1
ほ41		濃州方県郡木田村本願寺宗門御改帳	寛政十二年申三月	1800	縦	1
ほ42		濃州方県郡木田村宗門御改帳六冊寄扣	寛政拾貳年申三月	1800	縦	1
ほ43		濃州方県郡木田村本願寺宗門御改帳扣	享和三年亥三月	1803	縦	1
ほ44		濃州方県郡木田村禪・浄土・日蓮・真言宗門御改帳扣	享和三年亥三月	1803	縦	1
ほ45		濃州方県郡木田村宗門御改帳六冊寄扣	享和三年亥三月	1803	縦	1



作 成	受 取	備 考
濃州方県郡木田村庄屋秀四郎、同断作十郎、同断常右衛門、年寄要蔵、同断茂八、同断佐太郎、同断又次郎	笠松御役所	破損あり、前欠、2冊の内の下カ
濃州方県郡木田村庄屋秀四郎、同断作十郎、同断常右衛門、年寄要蔵、同断茂八、同断佐太郎、同断又次郎	笠松御役所	破損あり
濃州方県郡木田村庄屋秀四郎、同断作十郎、同断常右衛門、年寄茂八、同断佐太郎、同断又次郎、同断清右衛門	笠松御役所	表紙「弐冊之内下」
濃州方県郡木田村庄屋秀四郎、同断作十郎、同断常右衛門、年寄茂八、同断佐太郎、同断又次郎、同断清右衛門	笠松御役所	
濃州方県郡木田村庄屋秀四郎、同断作十郎、同断常右衛門、年寄茂八、同断佐太郎、同断又次郎、同断清右衛門	笠松御役所	表紙「弐冊之内下」
濃州方県郡木田村庄屋秀四郎、同断作十郎、同断常右衛門、年寄茂八、同断佐太郎、同断又次郎、同断清右衛門	笠松御役所	
濃州方県郡木田村庄屋秀四郎、同断作十郎、同断常右衛門、年寄茂八、同断佐太郎、同断又次郎、同断清右衛門	笠松御役所	
		表紙「弐冊之内上」
濃州方県郡木田村庄屋秀四郎（印）、同断作十郎、同断常右衛門（印）、年寄佐太郎（印）、同断又次郎、同断清右衛門（印）、同断茂助、百姓代友十郎（印）、同断治兵衛	笠松御役所	表紙「弐冊之内下」
庄屋秀四郎、同断作十郎（印）、同断常右衛門（印）、年寄佐太郎（印）、同断清右衛門（印）、同断茂助（印）、百姓代友十郎（印）、同断治兵衛（印）	笠松御役所	
濃州方県郡木田村庄屋秀四郎（印）、同断作十郎（印）、同断常右衛門（印）、年寄又次郎（印）、同断清右衛門（印）、同断茂助（印）、同断佐太郎（印）、百姓代友十郎（印）、同断三郎右衛門（印）	笠松御役所	表紙「弐冊之内終」
濃州方県郡木田村庄屋秀四郎（印）、同断作十郎（印）、同断常右衛門（印）、年寄又次郎（印）、同断清右衛門（印）、同断茂助（印）、同断佐太郎（印）、百姓代友十郎（印）、同断三郎右衛門（印）	笠松御役所	
濃州方県郡木田村庄屋秀四郎（印）、同断作十郎（印）、同断常右衛門（印）、年寄又次郎（印）、同断清右衛門（印）、同断茂助（印）、同断佐太郎（印）、百姓代友十郎（印）、同断三郎右衛門（印）	笠松御役所	

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
ほ46		西東本願寺宗宗門御改人別帳扣	文化三年寅三月	1806	縦	1
ほ47		禅宗・浄土宗・日蓮宗・真言宗宗門御改人別帳	文化三年寅三月	1806	縦	1
ほ48		宗門御改人別帳六冊寄扣	文化三年寅三月	1806	縦	1
ほ49		西東本願寺宗宗門御改人別帳初冊	文化六年巳三月	1809	縦	1
ほ50		日蓮・禅宗・浄土宗門御改人別帳	文化九申年三月	1812	縦	1
ほ51		東西本願寺宗宗門御改人別帳上册	文化十二年亥三月	1815	縦	1
ほ52		東西本願寺宗宗門御改人別帳終冊	文化十二亥年三月	1815	縦	1
ほ53		浄土・日蓮・禅宗宗門御改人別帳	文化十二亥年三月	1815	縦	1
ほ54		東西本願寺宗門御改人別帳中冊	文化十五年寅三月	1818	縦	1
ほ55		東西本願寺宗宗門御改人別帳終冊	文化十五寅年三月	1818	縦	1
ほ56		浄土・日蓮・禅宗宗門御改人別帳	文化十五寅年三月	1818	縦	1
ほ57		宗門御改帳寄	文化十五年寅三月	1818	縦	1
ほ58		東西本願寺宗門御改人別帳初冊	文政四年巳三月	1821	縦	1
ほ59		東西本願寺宗宗門御改人別帳中冊	文政四年巳三月	1821	縦	1

作 成	受 取	備 考
方県郡木田村		表紙「式冊之内始」
百姓代三郎右衛門（印）、同断友十郎（印）、年寄茂助（印）、同断信蔵（印）、年寄井頭より兼帯山田清右衛門（印）、年寄又次郎（印）、庄屋兵吾（印）、庄屋兼帯坂口作十郎（印）	太田重兵衛殿、九里半左衛門殿	表紙「方県郡木田村」
方県郡木田村百姓代三郎右衛門（印）、同断友十郎（印）、年寄茂助（印）、同断信蔵（印）、同断又次郎（印）、年寄兼帯山田清右衛門（印）、庄屋兵吾（印）、庄屋兼帯坂口作十郎（印）	太田重兵衛殿、九里半左衛門殿	表紙「方県郡木田村」
方県郡木田村		
方県郡木田村百姓代友重郎（印）、年寄茂助（印）、同断又次郎（印）、同断兼帯山田清右衛門（印）、庄屋俊吾（印）、同断信蔵（印）、同断坂口平八郎（印）	山森東蔵殿、時山忠左衛門殿	
方県郡木田村		
方県郡木田村百姓代三郎左衛門（印）、同断友重郎（印）、年寄茂助（印）、同断又次郎（印）、同断兼帯山田清右衛門（印）、庄屋俊吾、同断信蔵（印）、同断坂口平八郎（印）	松本仁左衛門殿、杉本用蔵殿	表紙「方県郡木田村扣」
方県郡木田村百姓代三郎左衛門（印）、同断友十郎（印）、年寄茂助（印）、同断又次郎（印）、同断兼帯山田清右衛門（印）、庄屋俊吾（印）、同断信蔵（印）、同断坂口平八郎（印）	松本仁左衛門殿、杉本用蔵殿	表紙「方県郡木田村扣」
方県郡木田村		
方県郡木田村百姓代三郎左衛門（印）、同断友十郎（印）、年寄茂助（印）、同断又次郎（印）、同断兼帯山田清右衛門（印）、庄屋信蔵（印）、同断山田俊吾（印）、同断坂口平八郎（印）	松本仁左衛門殿、江市之丞殿	
方県郡木田村百姓代三郎左衛門（印）、同断友十郎（印）、年寄茂助（印）、同断又次郎（印）、同断兼帯山田清右衛門（印）、庄屋信蔵（印）、同断山田俊吾（印）、坂口平八郎（印）	松本仁左衛門殿、江市之丞殿	
方県郡木田村百姓代三郎左衛門（印）、同断友重郎（印）、年寄茂助（印）、同断又治郎（印）、同断山田清右衛門（印）、庄屋信蔵（印）、同断山田俊吾（印）、同断坂口平八郎（印）	松本仁左衛門殿、江市之丞殿	表紙「方県郡木田村扣」
方県郡木田村扣		付箋剥離あり、裏見返「当番山田秀四郎」
方県郡木田村扣		

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
ほ60		東西本願寺宗門御改人別帳終冊	文政四年巳三月	1821	縦	1
ほ61		浄土・日蓮・禅宗宗門御改人別帳	文政四年巳三月	1821	縦	1
ほ62		宗門御改帳寄	文政四年巳三月	1821	縦	1
ほ63		東西本願寺宗宗門御改人別帳始冊	文政七年申三月	1824	縦	1
ほ64		宗門御改帳寄	文政七申年三月	1824	縦	1
ほ65		東西本願寺宗宗門御改人別帳	文政十三年寅三月	1830	縦	1
ほ66		東西本願寺宗宗門御改人別帳	文政十三年寅三月	1830	縦	1
ほ67		東西本願寺宗宗門御改人別帳	文政十三寅年三月	1830	縦	1
ほ68		浄土・日蓮・禅宗・真言宗門御改人別帳	文政十三寅年三月	1830	縦	1
ほ69		東西本願寺宗宗門御改人別帳	天保三年辰三月	1832	縦	1
ほ70		東西本願寺宗宗門御改人別帳	天保三辰年三月	1832	縦	1
ほ71		東西本願寺宗宗門御改人別帳	天保三年辰三月	1832	縦	1

作 成	受 取	備 考
方県郡木田村百姓代三郎左衛門（印）、同断友十郎（印）、年寄茂助（印）、同断又次郎（印）、同断兼帯山田清右衛門（印）、庄屋頼治（印）、同断山田秀四郎（印）、同断坂口平八郎（印）		表紙「方県郡木田村扣」
方県郡木田村百姓代三郎左衛門（印）、同断友十郎（印）、年寄茂助（印）、同断又治郎（印）、同断兼帯山田清右衛門（印）、庄屋頼治（印）、同断山田秀四郎（印）、同断坂口平八郎（印）	佐藤助四郎殿、本城才兵衛殿、市原房五郎殿	表紙「方県郡木田村扣」
方県郡木田村百姓代三郎左衛門（印）、同断友十郎（印）、年寄茂助（印）、同断又治郎（印）、同断兼帯山田清右衛門（印）、庄屋頼治（印）、同断山田秀四郎（印）、同断坂口平八郎（印）	佐藤助四郎殿、本城才兵衛殿、市原房五郎殿	破損あり、表紙「方県郡木田村扣」
方県郡木田村扣		裏表紙「当番山田秀四郎（印）」
方県郡木田村百姓代坂口友十郎（印）、同断坂口三郎左衛門（印）、年寄茂助（印）、同断又次郎（印）、同断山田清右衛門（印）、庄屋頼次（印）、同断坂口作左衛門（印）、同断山田秀四郎（印）	佐藤助四郎殿、本城才兵衛殿、市原房五郎殿	表紙「方県郡木田村扣」、裏表紙「当番山田秀四郎（印）」
方県郡木田村扣		
方県郡木田村扣		
方県郡木田村百姓代坂口友重郎（印）、同断坂口三郎左衛門（印）、年寄茂助（印）、同断又市（印）、同断山田清右衛門（印）、庄屋友左衛門（印）、同断扇吾、同断坂口作左衛門（印）、同断山田秀四郎（印）	佐藤助四郎殿、朝井儀八殿	破損あり
方県郡木田村百姓代坂口友重郎（印）、同断坂口三郎左衛門（印）、年寄茂助（印）、同断又市（印）、同断山田清右衛門（印）、庄屋友左衛門（印）、同断扇吾（印）、同断坂口作左衛門（印）、同断山田秀四郎（印）	佐藤助四郎殿、浅井儀八殿	表紙「方県郡木田村扣」
方県郡木田村扣		
方県郡木田村百姓代坂口三郎左衛門（印）、同断坂口友十郎（印）、年寄又治郎（印）、同断山田柳右衛門（印）、同断茂助（印）、庄屋扇吾（印）、同断山田友左衛門（印）、同断坂口作左衛門（印）、同断山田秀四郎（印）	佐藤久左衛門殿、朝井儀八殿	破損あり
方県郡木田村扣		破損あり

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
ほ72		浄土・日蓮・禅宗・真言宗門御改人別帳	天保三辰年三月	1832	縦	1
ほ73		東西本願寺宗門御改人別帳	天保七年申三月	1836	縦	1
ほ74		東西本願寺宗門御改人別帳中冊	天保七年申三月	1836	縦	1
ほ75		浄土・日蓮・禅宗・真言宗門御改人別帳	天保七申年三月	1836	縦	1
ほ76		宗門御改帳寄	天保七申年三月	1836	縦	1
ほ77		東西本願寺宗門御改人別帳	天保八年酉三月	1837	縦	1
ほ78		宗門御改人別帳	天保十亥年三月	1839	縦	1
ほ79		東西本願寺宗門御改人別帳	天保十年亥三月	1839	縦	1
ほ80		東西本願寺宗門御改人別帳	天保十亥年三月	1839	縦	1
ほ81		《木田村宗門人別御改帳》	天保10年	1839		
ほ82		宗門御改帳寄	天保十亥年三月	1839	縦	1
ほ83		東西本願寺宗門御改人別帳	天保十五年辰三月	1844	縦	1
ほ84		東西本願寺宗門御改人別帳	天保十五年辰四月	1844	縦	1
ほ85		東西本願寺宗門御改人別帳	天保十五年辰三月	1844	縦	1
ほ86		西本願寺宗門御改人別帳	天保十五辰年三月	1844	縦	1
ほ87		《木田村宗門人別御改帳》	天保15年	1844		

作 成	受 取	備 考
方県郡木田村百姓代坂口三郎左衛門 (印)、同断坂口友十郎 (印)、年寄又治郎 (印)、同断山田柳右衛門 (印)、同断茂助 (印)、庄屋扇吾 (印)、同断山田友左衛門 (印)、同断坂口作左衛門 (印)、同断山田秀四郎 (印)	佐藤久左衛門殿、朝井儀八殿	破損あり
方県郡木田村扣		綴じ紐切れ
方県郡木田村扣		
方県郡木田村百姓代坂口三十郎 (印)、百姓代坂口三郎左衛門 (印)、年寄平三郎 (印)、同断又次郎、同断山田柳右衛門 (印)、庄屋扇吾 (印)、同断山田元助 (印)、同断坂口作十郎 (印)、(印)	小林八右衛門殿、朝井儀八殿、加治武太夫殿	破損あり、付箋剥離あり
方県郡木田村百姓代坂口三十郎 (印)、同断坂口三郎左衛門 (印)、年寄平三郎 (印)、同断又次郎、年寄山田柳右衛門 (印)、庄屋扇吾 (印)、同断山田元助 (印)、同断坂口作十郎 (印)、同断山田秀四郎 (印)	小林八右衛門殿、朝井儀八殿、加治武太夫殿	破損あり
方県郡木田村扣		綴じ紐切れ、付箋剥離あり
山田秀四郎	松本要人殿、小林八右衛門殿	
方県郡木田村扣		
方県郡木田村百姓代坂口三十郎 (印)、同断坂口三郎左衛門 (印)、年寄平三郎 (印)、同断又次郎、同断山田柳右衛門 (印)、庄屋扇吾 (印)、同断山田元助 (印)、庄屋坂口作十郎 (印)、同断山田秀四郎 (印)	松本要人殿、小林八右衛門殿	表紙付箋「西」、裏表紙破損あり
		現在所在不明
方県郡木田村百姓代坂口三十郎 (印)、同断坂口三郎左衛門 (印)、年寄平三郎 (印)、同断又次郎、年寄山田柳右衛門 (印)、庄屋扇吾 (印)、同断山田元助 (印)、同断坂口作十郎 (印)、同断山田秀四郎 (印)	松本要人殿、小林八右衛門殿	破損あり
方県郡木田村扣		
方県郡木田村百姓代坂口三十郎、同断坂口三郎左衛門、年寄茂八、同断又次郎、同断山田清右衛門、庄屋見習勢十郎、庄屋長屋扇吾、同断山田元助、同断坂口作十郎、同断山田秀四郎	小林八右衛門殿、竹尾吉左衛門殿、佐藤助四郎殿	
方県郡木田村扣		付箋剥離あり
山田秀四郎		
		現在所在不明



番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
ほ88		宗門御改帳寄	天保十五辰年三月	1844	縦	1
ほ89		東西本願寺宗門御改人別帳	弘化三年午三月	1846	縦	1
ほ90		東西本願寺宗門御改人別帳終冊	弘化三年午三月	1846	縦	1
ほ91		宗門御改帳寄	弘化三年午三月	1846	縦	1
ほ92		東西本願寺宗門御改人別帳	安政二年卯三月	1855	縦	1
ほ93		東西本願寺宗門御改人別帳	安政二卯年三月	1855	縦	1
ほ94		東西本願寺宗門御改人別帳	安政二年卯三月	1855	縦	1
ほ95		《木田村宗門人別御改帳》	安政2年	1855		
ほ96		〔宗門御改人別帳〕	慶応四辰年	1868	縦	1
ほ97		卯年宗門取調帳	安政二年二月	1855	横長	1
ほ98		五人組御仕置帳	享和三年亥三月	1803	縦	1
ほ99		五人組御仕置帳	文政十年亥三月	1827	縦	1
ほ100		五人組御仕置帳	天保三年辰三月	1832	縦	1

作 成	受 取	備 考
方県郡木田村百姓代坂口三十郎、同断坂口三郎左衛門、年寄茂八、同断又次郎、年寄山田清右衛門、庄屋見習勢十郎、庄屋長屋扇吾、同断山田元助、同断坂口作十郎、同断山田秀四郎	小林八右衛門殿、竹尾吉左衛門殿、佐藤助四郎殿	破損あり
方県郡木田村扣		
方県郡木田村百姓代坂口三十郎（印）、年寄茂八（印）、同断又次郎（印）、同断山田清右衛門（印）、庄屋見習勢十郎（印）、庄屋長屋扇吾（印）、庄屋山田元助（印）、同断坂口作十郎（印）、同断山田秀四郎（印）	小林八右衛門殿、加茂下吉左衛門殿、福野丈左衛門殿、佐藤助四郎殿	
方県郡木田村百姓代坂口三十郎（印）、年寄茂八（印）、同断又次郎（印）、同断山田清右衛門（印）、庄屋見習勢十郎（印）、庄屋長屋扇吾（印）、庄屋山田元助（印）、同断坂口作十郎（印）、同断山田秀四郎（印）	小林八右衛門殿、加茂下吉左衛門殿、福野丈左衛門殿、佐藤助四郎殿	
方県郡木田村扣		
方県郡木田村百姓代坂口三十郎（印）、年寄茂八（印）、同断又治郎（印）、同断山田清右衛門（印）、庄屋長屋斎之進（印）、同断山田元助（印）、庄屋坂口作十郎（印）	佐藤助四郎殿、井上十郎兵衛殿	
方県郡木田村扣		
		現在所在不明
方県郡木田村百姓代友十郎（印）、年寄藤七（印）、同断九郎兵衛（印）、同断又三郎（印）、同断茂八（印）、庄屋後見斎之進（印）、同断元助（印）、庄屋後見作十郎（印）、庄屋鎌吉郎（印）、同断太八郎（印）、同断秀四郎（印）		前欠
当番西組		破損あり
		綴じ紐切れ、付箋あり、表紙「扣」、庄屋3人・年寄4人・他208人の連判あり
年寄又市（印）、同断茂助（印）、同断山田清右衛門（印）、庄屋坂口作左衛門（印）、同断頼治（印）、同断山田秀四郎（印）	佐藤助四郎殿、市原房五郎殿、本城由井蔵殿、太田要八殿、吉田貞之進殿、井上磯八郎殿	表紙「方県郡木田村扣」、200人の連判あり
百姓代坂口友十郎（印）、同断坂口三郎左衛門（印）、年寄山田柳右衛門（印）、同断茂助（印）、同断又治郎（印）、庄屋山田友左衛門（印）、同断扇吾（印）、同断坂口作左衛門（印）、同断山田秀四郎（印）	佐藤久左衛門殿、朝井儀八殿、太田要八殿、平八太夫殿、井上九十郎殿、斎藤宇八殿	破損あり、表紙「方県郡木田村扣」、203人の連判あり

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
ほ101		□□□□（五人組御）仕置帳	慶応四辰年	1868	縦	1
ほ102		《木田村明細帳》	明和8・6	1771		
ほ103		美濃国方県郡木田村差出明細帳	天明八年申三月	1788	縦	1
ほ104		《木田村明細帳》	天保9・2	1838		
ほ105		当村家数取調帳	弘化二年巳正月	1845	横長	1
ほ106		紙木目方取調帳	弘化二年巳十一月	1845	横長	1
ほ107		村高家数人別書上帳	嘉永三戌年十月	1850	縦	1
ほ108		当村明細書上帳	文久元年酉四月	1861	縦	1
ほ109		丑年家数人別増減差引帳	元治二丑年三月	1865	縦	1
へ1		地下役人足取替帳	宝暦八年寅正月日	1758	横長	1
へ2		当子之村諸取替歩高人足留帳	明和五年正月吉祥日	1768	横長	1
へ3		卯年柿ヶ瀬重内帳面人足小取替物帳	寛政七年十二月	1795	横長	1
へ4		地下人足并取替もの仕出し帳	弘化二年巳十二月	1845	横長	1
へ5		柿ヶ瀬地下人足并取替もの取調帳	嘉永四年亥十二月	1851	横長	1
へ6		柿ヶ瀬地下人足并取替もの仕出し帳	嘉永五年子十二月十三日	1852	横長	1
へ7		地下人足并取替もの仕出シ帳	嘉永五年子十二月	1852	横長	1
へ8		人足取替帳	嘉永六年丑十二月	1853	横長	1
へ9		柿ヶ瀬地下人足并取替もの仕出シ帳	嘉永七年寅十二月	1854	横長	1
へ10		地下人足并取替もの仕出シ帳	安政三年辰十二月	1856	横長	1
へ11		柿ヶ瀬地下人足并取替もの仕出し帳	安政三年辰十二月	1856	横長	1
へ12		地下人足諸色扣	安政四巳十二月	1857	横長	1
へ13		地下人足并取替物仕出シ帳	安政四年巳十二月	1857	横長	1
へ14		柿ヶ瀬地下人足并取替物仕出し帳	安政四年巳十二月	1857	横長	1
へ15		地下人足并取替物仕出し□（帳）	安政五年午年十二月日	1858	横長	1

作 成	受 取	備 考
		表紙など破損、庄屋3人・庄屋後見3人・年寄4人・百姓代1人・他210人の連判あり
		現在所在不明
木田村庄屋秀四郎、同断作十郎、同断常右衛門、年寄要蔵、同断茂八、同断佐太郎、同断又治郎、百姓代清右衛門、同断源右衛門	笠松御役所	
		現在所在不明
木田村庄屋一、一、一、長屋扇吾、山田元助、坂口作十郎	御役所	ほ105～ほ106は綴、表紙「方県郡木田村扣」
木田村庄屋長屋扇吾、同断山田元助、同断坂口作十郎	御掛り広江彦次郎様	破損あり
右村百姓代三十郎、年寄茂八、同断又次郎、同断清右衛門、庄屋扇吾、同断元助、同断作十郎	飯田文右衛門様、萩野寛一様	破損あり、綴じ紐切れ
木田村百姓代坂口三十郎、年寄九郎兵衛、同断又三郎、同断茂八、同断山田清右衛門、庄屋見習山田秀四郎、庄屋長屋斎之進、同断山田元助、同断坂口作十郎		「切通御役所え書上ニ相成事」とあり
方県郡木田村百姓代三十郎（印）、年寄藤七（印）、同断九郎兵衛（印）、同断又三郎（印）、同断茂八（印）、庄屋後見斎之進（印）、同断元助（印）、同断作十郎（印）、庄屋鎌吉郎（印）、同断太八郎（印）、同断秀四郎（印）	笠松御役所	
柿ヶ瀬重蔵		破損あり
木田村庄屋秀四郎		
山田元助		
山田元助扣		表紙「入済」
庄屋山田元助扣		
山田元助		
兵左衛門		
木田村庄屋山田元助		
山田元助		表紙の綴じ紐に結び文（人足名書付）あり
山田元助扣		
山田清右衛門		
木田□（村）庄屋山田□□（元助）		破損あり、取扱注意

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
へ16		柿ヶ瀬地下人足并取替物仕出シ帳	安政六年巳十二月	1859	横長	1
へ17		地下人足并取替もの仕出シ帳	文久元年酉十二月	1861	横長	1
へ18		柿ヶ瀬地下人足并取替もの仕出シ帳	文久元年酉十二月	1861	横長	1
へ19		地下人足并取替物仕出し帳	元治元子年十二月	1864	横長	1
へ20		柿ヶ瀬地下人足并取替物仕出シ帳	元治元子年十二月	1864	横長	1
へ21		柿ヶ瀬地下人足并取替もの仕出し帳	慶応元年丑十二月	1865	横長	1
へ22		〔地下人足并取替物仕出し帳〕	(慶応元年丑12月)	1865	横長	1
へ23		当寅諸色人足調出し帳	慶応二年十一月	1866	横長	1
へ24		地下人足并取替もの仕出シ帳	慶応二年寅十二月	1866	横長	1
へ25		西木田地下人足并諸色取替物仕出帳	慶応三年卯十二月	1867	横長	1
へ26		柿ヶ瀬地下人足并取替もの仕出シ帳	慶応三年卯十二月	1867	横長	1
へ27		柿ヶ瀬地下人足并取替もの仕出し帳	明治元年辰十二月	1868	横長	1
へ28		〔村小入用帳カ〕	(安政元年カ)	1854	横長	1
へ29		〔地下人足并取替物仕出し帳〕			横長	1
へ30		人足長(帳)	寛政七年卯十二月	1795	横長	1
へ31		未人足帳	天保六年拾二月日	1835	横長	1
へ32		午之人足帳	弘化三年拾二月	1846	横長	1
へ33		未之人足帳	弘化四年拾二月	1847	横長	1
へ34		申之人足帳	嘉永二年拾二月	1849	横長	1
へ35		戌之人足帳	嘉永三年拾二月日	1850	横長	1
へ36		子之人足帳	嘉永五年拾二月日	1852	横長	1
へ37		卯之人足帳	安政二年拾二月	1855	横長	1
へ38		辰之人足□(帳)	安政三年拾二月日	1856	横長	1
へ39		未之人足帳	安政六年拾二月日	1859	横長	1
へ40		申之人足帳	安政七年拾一月日	1860	横長	1
へ41		人足長(帳)			横長	1
へ42		諸人足帳	元治元子年十二月	1864	横長	1
へ43		木田村杵板堰書上帳	宝暦五年亥ノ七月	1755	縦	1
へ44		〔木田村内郡上川長さ・板堰・杵など書上〕	宝暦七年丑四月	1757	縦	1
へ45		尉殿堤坪人足賃銀仕分帳	明和三年戌十二月八日	1766	横長	1
へ46		方県郡木田村御普請所番附帳	寛政元年酉三月	1789	縦	1
へ47		木田村堤切所杭打所御普請帳	文化十年酉四月	1813	縦	1
へ48		柿ヶ瀬嘉兵衛支配入用覚帳	文化十一年戌十二月吉日	1814	横長	1

作 成	受 取	備 考
西組庄屋		
庄屋秀四郎扣		
木田村西組庄屋秀四郎		表紙「附り浪士追付御公役様御通行之節人馬賃共」
木田村西組庄屋秀四郎		
木田村西組庄屋扣		
		表紙・1枚目欠損
支配人嘉兵衛		
木田村庄屋秀四郎		
木田村木田西組扣		
木田村西組庄屋山田秀四郎		破損あり
木田村西組庄屋秀四郎		
		破損あり
坂口重内		
坂口嘉兵衛		
坂口嘉兵衛		破損あり
坂口嘉兵衛		
坂口嘉兵衛		破損あり
坂口嘉兵衛		破損あり
坂口嘉兵衛		
坂口嘉兵衛		
□□□□□（坂口嘉兵衛）		下半分欠損
坂口嘉兵衛		破損あり
坂口嘉兵衛		裏表紙の綴じ紐に結び文あり
柿ヶ瀬坂口重内		破損あり
支配人嘉兵衛		破損あり
庄屋八郎右衛門、同兵治郎		
木田村庄屋八郎右衛門（印）、同断吉次郎、年寄長四郎（印）、同断弁蔵、同断茂左衛門（印）、同断小三次（印）、百姓代三郎左衛門（印）、同断太郎松	笠松御役所	結び文（土橋長さなど書上）あり
当番東組		破損あり
木田村庄屋作十郎、同断常右衛門	御普請御役人様	表紙「山田」
大元取野々村佐兵衛（印）	御役所	破損あり、代官の奥印あり
支配人嘉兵衛		

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
～49		御普請一件諸入用割賦取立□（帳カ）	文化十三年子六月	1816	横長	1
～50		御普請仕様帳写	文化拾三子年	1816	縦	1
～51		木田村揚樋御普請仕様帳	文化十四年丑六月	1817	縦	1
～52		旦島村外四ヶ村新堤差障りニ付出会下用帳	文政十三年寅十二月	1830	横長	1
～53		馬場村往還道築手伝人足賃割合帳	天保二年卯十二月	1831	横長	1
～54		旦島村外四ヶ村小土手定杭見廻りニ付入用割賦帳	天保三年辰七月	1832	横長	1
～55		笠松掛廻シ堤御請書写シ（笠松村外1か村より境川通水除掛廻し堤願いの処、上郷悪水落浚方のための新江堀割などの件、境川附・上郷村々と内熟につき）	天保五年午十二月	1834	縦	1
～56		杭打人足帳	天保六年拾二月日	1835	横長	1
～57		旦川通土橋掛替御普請仕様帳	天保十年亥二月	1839	縦	1
～58		土橋掛替ニ付諸入覚帳	天保十年亥三月	1839	横長	1
～59	1	差出申内規定証文之事（境川沿領下村地内懸廻堤普請所切払いの件、高田村以下15か村より領下村土手差障りの件など訴訟の処、内熟につき）	天保十三年寅三月	1842	縦	1
～59	2	差出申規定証文之事（境川沿領下村地内懸廻堤普請所切払いの件、高田村以下15か村より領下村土手差障りの件など訴訟の処、内熟につき）	天保十三寅年（3月）	1842	縦	1



作 成	受 取	備 考
惣代安田平之丞、小林此蔵、坂口平八郎、 関谷勇助	柱本村、高屋村、馬場 村、小柿村、両(カ) 曾我屋村、寺田村、小 島村、一日市場村、木 田村、下尻毛村	破損あり、表紙「惣代」
方県郡鷺山村		表紙「鷺山村地内字針殿堤外拾三ヶ村組 合御普請所」
大元取野々村佐兵衛(印)	御役所	代官の奥印あり
下尻毛村、木田村	右御村々御庄屋衆中	
惣代山田秀四郎(印)	右村々御庄屋衆中	表紙「方県郡惣代」
取喫人秀四郎扣		表紙裏「御代官野田斧吉様、笠松御元ノ 黒野又右衛門様、同断堤方森川春右衛門 様、同断堤方赤生伝次郎様」
坂口嘉兵衛		表紙「未」「壺人つき壺匁五分」
木田村		
安藤対馬守様御領分濃州厚見郡領下村先 訴訟方百姓代文蔵(印)、年寄彦右衛門 (印)、同幸内(印)、庄屋澤田耕四郎(印)、 同遠藤重平(印)、尾州様御領分同州羽 栗郡三宅村相手方百姓代彦左衛門(印)、 同弥曾治(印)、組頭代蔵(印)、庄屋五 右衛門(印)、同断同州厚見郡中島村同 断(相手方)百姓代市郎治(印)、組頭 甚右衛門(印)、庄屋伏見勘右衛門(印)、 同断同州同郡芋島村同断(相手方)百姓 代孫左衛門(印)、与頭清左衛門(印)、 庄屋木方孫七(印)	御取喫人安藤桂蔵殿、 同山田秀四郎殿	表紙「内規定証文壺通」
安藤対馬守様領分厚見郡領下村庄屋澤田 耕四郎、尾州御領羽栗郡三宅村庄屋弥惣 治、同断厚見郡芋島村庄屋木方孫七、同 断同郡中島村組頭甚右衛門、同断薬師寺 村庄屋徳田吉□□□(右衛門)、同断同 郡徳田村庄屋円右衛門、同断厚見郡高田 村庄屋岩田専十郎、同断同郡蔵之前村庄 屋堀喜之右衛門、同断同郡切通村庄屋森 重蔵、同断同郡細畑村庄屋柳原□□(甚 七)、同郡羽栗郡下印食村庄屋利兵衛、 同断上印食村庄屋居波祐平、同断同郡川 手畑栄左衛門	御取喫人千疋村中村市郎 兵衛殿、同断東小熊村 安藤桂蔵殿、同断山田 秀四郎殿、同断下西郷 村野村佐兵衛殿	破損あり

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
～60		差上申済口証文之事（境川沿領下村地内懸廻堤普請所切払いの件、高田村以下15か村より領下村土手差障りの件など訴訟の処、内熟につき）	天保十四卯年八月	1843	縦	1
～61		字柿ヶ瀬土橋懸替ニ付諸入用覚帳	嘉永三年戌二月七日	1850	横長	1
～62		御堤急破御普請取調帳	嘉永三年戌八月	1850	縦	1
～63		〔金銀渡覚〕			縦	1
～64		板谷川通築立堤御丁張野帳			横半	1
～65		当七月十三日出水堤切所築立土持賃銀小前渡方取調帳	嘉永四年亥八月	1851	横長	1
～66		板谷川通為築登新目論見諸願書届書類・安政六年四月御領主御上屋敷より御尋之砌荒増差上候控（曾我屋村地内横土手一件の上下村々一和し、板谷川通堤築登水防願上げにつき）	（嘉永4年12月～安政6年4月）	1851	縦	1
～67		当子春小普請所組合支配所村役人立会見分帳	嘉永五年二月	1852	横長	1
～68		丑之年井水割賦帳（井水諸雑用割賦につき）	嘉永六年十二月三日	1853	横長	1
～69		当辰春役御普請所取調并賃銀渡方調印帳	安政三年三月	1856	横長	1
～70		当七月十日十一日出水ニ付急破御普請諸入用取調帳	安政三年辰八月	1856	横長	1
～71		木田村急破御普請仕様帳	安政三辰年八月	1856	縦	1
～72		当未之御普請所以樋其外杭木土持賃割渡帳	安政六年三月十日	1859	横長	1

作 成	受 取	備 考
安藤対馬守領分厚見郡領下村庄屋重平(印)、同断耕四郎(印)、年寄幸内(印)、同断彦右衛門(印)、同郡高田村庄屋専十郎(印)、同郡蔵前村庄屋喜之右衛門(印)、同断市郎右衛門(印)、同断常八(印)、同郡切通村庄屋利太郎(印)、同断重蔵(印)、同郡細畑村庄屋新七(印)、同断吉兵衛(印)、同断甚七(印)、同断類右衛門(印)、羽栗郡上印食村庄屋祐平印、同郡下印食村庄屋数右衛門(印)、同断浪右衛門(印)、同断利兵衛(印)、同断金左衛門(印)、同郡川手畑庄屋栄左衛門(印)、尾州御領厚見郡中島村庄屋伏見勘右衛門(印)、同郡芋島村庄屋木方孫七(印)、羽栗郡三宅村庄屋五右衛門(印)、同郡円城寺村庄屋茂吉(印)、同郡上徳田村庄屋宮川兵助(印)、同郡薬師寺村庄屋徳田吉右衛門(印)、当御支配所羽栗郡徳田村庄屋丹治(印)、同郡印食新田庄屋波右衛門(印)、安藤対馬守領分方県郡木田村庄屋取喫人秀四郎(印)、同郡下西郷村庄屋同断佐兵衛(印)、尾州御領羽栗郡東小熊村同断安藤桂蔵(印)、当御支配所山県郡千疋村庄屋同断市郎兵衛(印)	笠松堤方役所	破損あり、『岐阜市史 史料編近世三』所収「一七領下村地内掛廻し堤出入済口証文」(pp.163~165)と同内容
西組庄屋山田元助扣		挿入紙あり
		破損あり
		破損あり、前欠カ
拾五ヶ村組合		表紙「写取候様被仰渡候事」
庄屋山田元助		
濃州方県郡木田村扣		
		表紙下部破損
井頭山田清右衛門(印)	右村々御庄屋衆中	表紙「木田村井頭山田清右衛門」
山田元助		破損あり
庄屋山田元助		
山田元助扣		

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
へ73		板谷川通堤築申立ニ取掛り候節古市場村外四ヶ村え益金差出候節書面之写シ（堤普請にて嘉永4年中熟談の通り、普請以前に半金渡すにつき）	安政六未年十二月	1859	縦	1
へ74		御組込尉殿堤御普請ニ付人足并諸入用留帳	万延二年酉正月	1861	横長	1
へ75		当酉春堤川除御普請出来形帳（長良古川通）	万延二酉年三月	1861	縦	1
へ76		乍恐以書付奉願上候（堤切所など御普請に組込み願ひ）	万延元年六月	1860	縦	1
へ77		〔堤切所普請入用帳〕	（万延元年ヵ）	1860	縦	1
へ78		〔濃州勢州尾州川々御普請にて人足・日銀証文など控〕	万延二年酉正月	1861	縦	1
へ79		請取申金子之事（長良古川通木田村地内堤川除御普請入用諸色代・人足賃の内金59両内借につき）	万延二酉年正月	1861	縦	1
へ80		申御普請八分築再急破之分仕様帳	文久元酉年四月	1861	縦	1
へ81		板谷川通堤築立入用金小前より請取并ニ御役所え上納金之覚	文久元年酉八月	1861	横長	1
へ82		堤敷地取調帳（堤外側覚）	文久元年酉七月	1861	横長	1
へ83		堤敷地取調書上帳（堤内・堤外惣メ1町1反2畝15歩）	文久元年酉八月	1861	横長	1
へ84		去申年春役急破御普請ニ付拝借分五ヶ年賦返上納御請書	文久元酉年九月	1861	縦	1
へ85		去申年御収納之内延米之分拝借五ヶ年賦返上納御請書	文久元酉年九月	1861	縦	1
へ86		去申年水難極窮之者え急夫食并小屋懸聞当拝借七ヶ年賦通上納御請書	文久元年酉九月	1861	縦	1
へ87		板谷川堤築立入用金式百両割小前取立□（帳ヵ）	文久二年戌十二月十八日	1862	横長	1

作 成	受 取	備 考
河渡村役人惣代庄屋年寄兼忠兵衛		表紙「山田元助扣」
山田元助扣		
安藤対馬守領分濃州方県郡木田村百姓代三十郎（印）、年寄九郎兵衛（印）、同断又三郎（印）、同断茂八（印）、同断清右衛門（印）、庄屋見習秀四郎（印）、庄屋斎之進（印）、同断元助（印）、同断作十郎（印）	御普請御懸り御役人中様	表紙「美濃国方県郡木田村」
方県郡木田村百姓代坂口三十郎、年寄九郎兵衛、同断又三郎、年寄茂八、同断山田清右衛門、庄屋見習山田秀四郎、庄屋長屋斎之進、同断山田元助、同断坂口作十郎	御役所	
		へ80と内容同じか
		破損あり
安藤対馬守領分濃州方県郡木田村百姓代三十郎、年寄又三郎、庄屋作十郎、惣代上曾我屋村与九郎	岩田楯三郎様御役所	破損あり、「御普請役増田多録郎、同代り菊池宇八郎、堤方役棚橋兎五六、赤生魚（カ）治郎」の奥印あり
西組庄屋山田元助扣		表紙の綴じ紐に結び文あり
木田村		
方県郡木田村		
右村百姓代坂口三十郎、年寄藤七、同断九郎兵衛、同断又三郎、同断茂八、庄屋鎌吉、同断太八郎、同断山田秀四郎、庄屋後家見永屋斎之進、同断山田元助、同断坂口作十郎		へ84～へ86は綴、表紙「方県郡木田村」
百姓代坂口三十郎、年寄藤七、同断九郎兵衛、同断又三郎、同断茂八、庄屋鎌吉、同断太八郎、同断山田秀四郎、庄屋後見長屋斎之進、同断山田元助、同断坂口作十郎	御役所	表紙「方県郡木田村」
右村百姓代坂口三十郎、年寄藤七、同断九郎兵衛、同断又三郎、同断茂八、庄屋鎌吉、同断太八郎、同断山田秀四郎、庄屋後見長屋斎之進、同断山田元助、同断坂口作十郎	御役所	表紙「方県郡木田村」
西組庄屋 [            ]		表紙下部破損、綴じ紐切れ

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
～88		板谷川通并根尾川ノ切堤敷地土取跡掬米組合村々ヨリ可佐取分取調帳	文久貳年戌十二月	1862	横長	1
～89		板谷川新堤敷地土取跡取調三組仕訳帳	文久二戌年十二月	1862	横長	1
～90		戌年分板谷川堤築立賃銀西組取替分取調帳	文久二戌年二月	1862	横長	1
～91		板谷川通堤築立入用并去西冬柿ヶ瀬分ト一件入用当下場借入金元利割賦取立帳	文久二年戌七月	1862	横長	1
～92		御普請所自普請所取調書上帳	文久二戌年閏八月	1862	縦	1
～93		春役御普請所取調帳	文久三年亥二月	1863	縦	1
～94		加納より板谷川堤其外皆取払江戸表え御歎願申上候ニ付笠松え御尋有之御見込之趣被仰上候御趣意（板谷川通堤・根尾川塚樋に水害になる程の儀は見えずなど）	文久三年亥十一月	1863	縦	1
～95		板谷川一件笠松御役所并大垣御役所・切通御役所え御願之写（去亥7月に切れた水除堤の減下場所、裁許通りの築立て願い）	元治元年子五月	1864	縦	1
～96		当寅春並杭御普請出来形帳	慶応二年寅二月	1866	縦	1
～97		当寅春堤川除御普請出来形帳	慶応二年寅二月	1866	縦	1
～98		当寅春土橋御普請出来形帳	慶応二年寅二月	1866	縦	1
～99		板谷川堤敷地米相滞差纏一件約定書・濟口面并糸貫川伏越樋一件御請書規定証文之写	慶応二寅年七月	1866	縦	1
～100		方県郡東改田村・木田村立会御春役御普請仕様帳（用水塚樋、常井堰など）	慶応三年二月	1867	縦	1
～101		伏越入用大積割并借用取調帳	慶応三年卯三月日	1867	横長	1
～102		〔堤切所普請入用帳〕			縦	1
～103		〔用水塚樋普請入用帳〕			縦	1
～104		〔堤切所普請入用帳〕	（万延2年2月13日）	1861	縦	1
～105		乍恐以書付奉願上候（堤切所書上）			縦	1
～106		〔堤切所普請入用帳〕			縦	1

作 成	受 取	備 考
木田村庄屋秀四郎扣		
西組扣		表紙「西組分」、裏表紙綴紐部分に結び文あり
西組		表紙「此分下帳」
西組庄屋秀四郎		
方県郡木田村百姓代三十郎、年寄又三郎、庄屋鎌吉、同断太八郎、同断秀四郎	堤方御役所	表紙「方県郡木田村東組扣」
方県郡木田村		破損あり
拾五ヶ村組合覚書		
庄屋鎌吉郎扣		
岩田鋏三郎御代官所濃州方県郡木田村百姓代友十郎（印）、年寄藤七（印）、同断九郎兵衛（印）、同断又三郎（印）、同断茂八（印）、庄屋喜三郎（印）、庄屋鎌吉郎（印）、同断太八郎（印）	御普請御掛御役人中様	「御普請役田中広三郎、丹羽幸一郎（印）、石黒喜十郎、小林源之助（印）、同見習小比賀次郎、同代り白井専蔵、堤方役横井兵八郎、戸沢鯛次郎、名和源太郎」の奥印あり
岩田鋏三郎御代官所濃州方県郡木田村百姓代友十郎（印）、年寄藤七（印）、同断九郎兵衛（印）、同断又三郎（印）、同断茂八（印）、庄屋喜三郎（印）、庄屋鎌吉郎（印）、同断太八郎（印）	御普請御掛御役人中様	「御普請役田中広三郎、丹羽幸一郎（印）、石黒喜十郎、小林源之助（印）、同見習小比賀次郎（印）、御普請役代り白井専蔵、堤方役横井兵八郎、戸沢鯛次郎、名和源太郎」の奥印あり
岩田鋏三郎御代官所濃州方県郡木田村百姓代友十郎（印）、年寄藤七（印）、同断九郎兵衛（印）、同断又三郎（印）、同断茂八（印）、庄屋喜三郎（印）、庄屋鎌吉郎（印）、同断太八郎（印）	御普請御掛御役人中様	「御普請役田中広三郎、丹羽幸一郎（印）、石黒喜十郎、小林源之助（印）、同見習小比賀次郎、御普請役代り白井専蔵、堤方役横井兵八郎、戸沢鯛次郎、名和源太郎」の奥印あり
木田村西組庄屋控		
樋筒方	右村庄屋、年寄	表紙「木田村西組扣」
方県郡木田村		
		下部破損



番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
へ107		乍恐御歎願奉申上候（板谷川通堤築登の儀にて堤外の水腐所弁米の儀、組合14ヵ村引請けるようにつき）	（安政6年）未十二月	1859	縦	1
へ108		〔山口口切の儀、当月20日にて小井水普請承知につき廻文〕	四月十八日		切紙 （包紙付）	1
へ109		急破御普請所築立ニ付字森元土取場取調帳	安政三年辰十二月	1856	横長	1
と1		土橋破損ニ付修覆諸入用留帳	安永九年七月廿一日	1780	横長	1
と2		濃州方県郡木田村前々川欠引并戊池成引小前帳	天明二年寅六月	1782	横長	1
と3		濃州方県郡木田村当寅之池成川成小前帳（荒所見分につき）	天明二年八月	1782	横長	1
と4		非常金割符帳（格別の凶作にて頭分次列よりの村方非常金を家別に金1分割賦につき）	文政十一年子十二月大晦日	1828	横長	1
と5		非常金割符帳（格別の凶作にて頭分次列よりの村方非常金を217軒に金1分割賦につき）	文政十一年子十二月大晦日	1828	横長	1
と6	1	方県郡木田村去ル酉水損畑方荒所未起返分当卯より来未迄五ヶ年季損目引帳	天保二卯年	1831	横長	1
と6	2	非常金割渡帳（名開17人よりの非常金を村役人・惣代36人へは金3分2朱、小前175軒には1分3朱割渡すにつき）	天保六年未正月九日	1835	横長	
と7		畑田成損地小前取調帳（当申6月大水につき）	天保七年申十月	1836	横長	1
と8		御下ヶ金非常金割渡シ帳（前代未聞の年柄にて下げ金50両を215軒へ金1分割賦につき）	天保七年申十二月大晦日	1836	横長	1
と9		方県郡木田村当戌畑方水損池成所見分之上当戌より寅迄五ヶ年引方帳	（天保9年ヵ）戌五月	1838	横長	1
と10		非常金割渡帳（天保6年元助・扇吾預り金の内より215軒へ銀1朱割賦につき）	天保十年亥十二月廿九日	1839	横長	1

作 成	受 取	備 考
木田村庄屋長屋齋之進、同山田元助、同坂口作十郎	御役所	
井頭山田清右衛門 (印)	東改田村 (印)、上尻毛村 (印)、川部村 (印)、又丸村 (印)、上曾我屋村 (印)、下曾我屋村 (印)、寺田村 (印)、下尻毛村 (印)、木田村、右村々庄屋衆中	包紙「急廻文木田村井頭東改田村始り」
西組扣		前目録に記載なし
庄屋秀四郎		
木田村庄屋秀四郎、年寄小三次、同常右衛門、同要蔵、同茂八、百姓代作十郎	笠松御役所	
木田村庄屋秀四郎、年寄小三治、同断常右衛門、同断要蔵、同断茂八、百姓代作十郎	笠松御役所諏訪官兵衛様、森伴蔵様	
庄屋山田秀四郎印、同断坂口作左衛門印、同断扇吾印		西組庄屋山田秀四郎の奥印あり
庄屋山田秀四郎 (印)、同断坂口作左衛門、同断扇吾		
佐藤久左衛門 (印)、朝井儀八 (印)、太田要八 (印)、平八太夫 (印)、井上九十郎、齋藤宇八 (印)、堀江岡右衛門 (印)		
庄屋坂口作十郎、同断山田元助、同断扇吾 (印)		
木田村百姓代坂口三十郎 (印)、同断坂口三郎左衛門 (印)、年寄平三郎 (印)、同断又次郎 (印)、同断山田柳右衛門 (印)、庄屋扇吾 (印)、同断山田元助 (印)、同断坂口作十郎 (印)	御役所	表紙「方県郡木田村」
庄屋坂口作左衛門、同断山田元助、同断扇吾		
松本要人 (印)、小林八右衛門 (印)、金古甚五右衛門 (印)、平八太夫 (印)、井上九十郎 (印)、和田万弥 (印)、堀江岡右衛門 (印)		
庄屋坂口作十郎、同断山田元助、同断扇吾		

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
と11		去ル戌亥丑之水損荒地去寅迄御引方被仰付候処未夕起返候ニ付取調書上帳	天保十四年卯九月	1843	横長	1
と12		水難御手当米被下置候小前御取調写帳（床上5尺以上に2斗・床上3尺以上に1斗・床上3尺以下に5升宛、ほか人別1人につき3升宛）	天保十四年卯九月	1843	横長	1
と13		当卯田畑荒所小前取調帳（当9月大洪水につき）	天保十四年閏九月	1843	横長	1
と14		御陣屋御蔵御田米書記帳	弘化三年午四月六日	1846	横長	1
と15		当戌畑方損地小前取調帳（当8月大洪水につき）	嘉永三年九月	1850	横長	1
と16		当亥水損荒所内見帳	嘉永四年九月	1851	横長	1
と17		当亥損目小前取調帳（当亥7月大水につき）	嘉永四亥年九月	1851	横長	1
と18		当子損目小□□（前取カ）調帳（当子7月より数度洪水につき）	嘉永五子年九月	1852	横長	1
と19		当巳損目之内取下ケ段免小前□（取）調帳	安政四年閏五月	1857	横長	1
と20		本村・戌新畑・古新畑当巳損目三組引取調帳	安政四年巳十二月	1857	横長	1
と21		戌新畑・古新畑三組取調帳			横長	1
と22		当午損目小前取調帳	安政五年九月	1858	横長	1
と23		去ル丑卯式ヶ年損目起返不申候ニ付御預継分小前取調帳	安政五年九月	1858	横長	1
と24		当三月高掛り調達小前より請取候分取調帳	安政六未年十二月	1859	横長	1
と25		極難小前取調書上帳（家数85軒・人数374人、大洪水や度々の出水により難渋にて夫食手当願ひにつき）	万延元年申十一月	1860	横長	1

作 成	受 取	備 考
木田村百姓代坂口三十郎、同断坂口三郎左衛門、年寄茂八、同断又次郎、同断山田柳右衛門、庄屋見勢十郎、庄屋扇吾、同断山田元助、同断坂口作十郎	御役所	表紙「木田村扣」
木田村百姓代坂口三十郎、同断坂口三郎左衛門、年寄茂八、同断又次郎、同断山田柳右衛門、庄屋扇吾、庄屋見習勢十郎、庄屋山田元助、同断坂口作十郎	御役所	表紙「方県郡木田村」
方県郡惣代		
百姓代坂口三十郎、年寄茂八、同断又次郎、同断山田清右衛門、庄屋見習堅次郎、同断坂口勢十郎、庄屋長屋扇吾、同断山田元助、同断坂口作十郎	御役所	表紙「木田村」
山田元助		
木田村百姓代坂口三十郎、年寄茂八、年寄又次郎、同断山田清右衛門、庄屋山田元助、同断坂口作十郎	御役所	「十月朔日堤御清見・荒所御見分兼御奉行平八太夫様、御代官和田万弥様、御勘定平直太郎様、御目附三村忠太郎様、御同心井上大治郎様、郷附田口勢左衛門様、御□内添附広江彦次郎様木田村御昼支度友十郎方」とあり
木田村百姓代坂口三十郎、年寄茂八、年寄又次郎、同断山田清右衛門、庄屋長屋齋之進、同断山田元助、同断坂口作十郎	御役所	表紙破損あり、表紙「木田村」、「九月十五日御見分御奉行井上十郎兵衛様、御代官齋藤岡之丞様、御勘定金古亮之助様、御目附井上大次郎様、御同心家近岩五郎様、御組林龍平様、御□徒阿部立吉様右御昼支度山田元助方」とあり
西組庄屋扣		
		資料には「と二二」と番号記載
木田村		
木田村百姓代坂口三十郎、年寄文三郎、年寄茂八、同断山田治右衛門、庄屋見習山田秀四郎、庄屋長屋齋之進、同断山田元助、同断坂口作十郎	御役所	表紙「木田村扣」
庄屋山田元助		資料には「と二七」と番号記載
木田村百姓代坂口三十郎（印）、年寄九郎兵衛（印）、同断又三郎（印）、同断茂八（印）、同断山田清右衛門（印）、庄屋見習山田秀四郎（印）、庄屋長屋齋之進、同断山田元助（印）、同断坂口作十郎（印）	御役所	表紙「方県郡木田村」

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
と26		当五月十一日洪水ニ付追蒔初代被下置候ニ付小前割渡帳	万延元年申七月十三日	1860	横長	1
と27		当五月十一日洪水ニ付苗代金被下置候ニ付割渡帳	万延元年申七月十三日	1860	横長	1
と28		極難者え御手当御差下ケ割渡帳	万延元申年七月	1860	横長	1
と29		極難者小前取調帳（家数67軒、人数313人）	文久元酉年三月	1861	横長	1
と30		極難者え夫食御手当割渡帳	文久元年酉四月二日	1861	横長	1
と31		去申年損目御引高御年限取調帳	文久元年酉九月	1861	横長	1
と32		戌年籾米一村限り取調（美江寺村以下20か村で米7228石余り、籾297石）	文久二年	1862	縦	1
と33		出水之節堤囲入用空俵・縄巻わ・明松請取覚帳	慶応元年丑六月廿五日	1865	横長	1
と34		荒地一件明細帳（板谷川組合土取跡の分など）	慶応元丑年ヨリ（慶応元丑年7月～慶応2寅年6月）	1865	横長	1
と35		乍恐以書付御吟味奉願上候（天保5年ごろ頭分次列差加の節、頭分より非常金借用の処、返済滞りにつき）	慶応二寅年六月	1866	縦	1
と36		〔砂入・押堀など水損地取調帳〕			横長	1
と37		堤切所取調覚	嘉永四亥年七月十三日	1851	横長	1
と38		〔去申荒所当戌再見分の上、戌より寅まで5か年取下段免など取調帳〕	（戌年）		横長	1
と39		新古荒所并取下ケ段免物成仕出シ帳	弘化四年未十二月	1847	横長	1
と40		新古荒所并取下段免物成仕出し帳	嘉永元年申十二月	1848	横長	1
と41		新古荒所并取下段免物成仕出シ帳	嘉永三年戌十二月	1850	横長	1
と42		古荒所并取下段免物成仕出し帳	嘉永七年寅十二月	1854	横長	1
と43		新古荒所并取下段免物成仕出シ帳	安政六未年十二月	1859	横長	1
と44	①	古荒所并取下段免物成仕出シ帳	文久二戌年十二月廿三日	1862	横長	1
と44	②	戌之御改荒所御引高取調帳	文久二年十二月	1862	横長	1
と44	③	去ル申荒所当戌御見分之上猶又荒所引（取調帳）	（文久2年12月）	1862	横長	1
と44	④	去ル申荒所当戌御見分之上起返り取下ケ小前取調帳	文久二戌年十二月	1862	横長	1
と44	⑤	申荒所当戌年起返り取下仕出帳	文久二年十二月日	1862	横長	1
と45		古荒所・新荒所并取下段免物成仕出帳	文久三年亥十一月	1863	横長	1
と46		古荒所・新荒所并取下段免物成仕出シ帳	元治元年子十二月	1864	横長	1
と47		古荒所・新荒所并取下段免物成仕出シ帳	慶応元年丑十二月	1865	横長	1

作 成	受 取	備 考
木田村西組庄屋山田元助扣		
木田村		
百姓代坂口三十郎、年寄九郎兵衛、同断又三郎、同断茂八、同断山田清右衛門、同断山田秀四郎、庄屋長屋斎之進、同断山田元助、同断坂口作十郎	御役所	表紙「木田村扣」
木田村		裏表紙の綴じ紐に、4点の覚が添付されている
巻（カ）西惣代		
木田村西組		
方県郡木田村		
方県郡木田村百姓代友十郎、年寄藤七、同断九郎兵衛、同断又三郎、同断茂八、庄屋後見斎之進、同断元助、同断作十郎、庄屋喜三郎、同断鎌吉郎、同断太八郎	笠松御役所	
		水損地の略図あり
庄屋山田元助		
庄屋山田元助		
木田村庄屋山田元助		
山田元助		
西組庄屋山田元助		
庄屋秀四郎扣		と44①～⑤は綴
西組		
本村西組分		
西組庄屋秀四郎		
木田村西組庄屋秀四郎		
木田村西組庄屋喜三郎		破損あり

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
と48		古荒所・新荒所并取下段免物成仕出帳	慶応二年寅十二月	1866	横長	1
と49		方県郡木田村当戊戌新畑水損池成所見分之上当戊より寅迄五ヶ年引方帳			横長	1
ち1		辰巳亥子丑寅迄三組分五ヶ年人馬取調帳 (天保3・4・11・12・13年の5か年分)	(天保14年2月)	1843	縦	1
ち2		安藤対馬守領分助郷人馬其外足賄入用書上帳(天保3・4・11・12・13年の5か年分の定助郷)	天保十四卯年二月	1843	縦	1
ち3		助郷人馬其外足賄入用書上帳(天保3・4・11・12・13年の5か年分の定助郷)	天保十四卯年二月	1843	縦	1
ち4		去ル文政三年辰十一月相對熟談宿助郷連印帳□(写、助郷人馬遣方などの取決書並びに願書)	天保十四年卯二月	1843	縦	1
ち5		和宮様御下向加助郷御証文写(助郷村高・村名・家数・人数など書上)	文久元酉年十月	1861	縦	1
ち6		乍恐以書付御歎願奉申上候(中山道河渡宿定助郷の村々極難にて当年より15年間休役・代助郷願いにつき)	慶応二寅年五月	1866	縦	1
ち7		差村帳(則松村以下11か村の村名・石高書上)	□(慶) 応二寅年五月	1866	縦	1
ち8		御道筋取締心得(和宮様御下向につき)	(文久元年) 酉十月	1861	縦	1
り1		本願寺御改革ニ付被仰渡并御門跡様御直命写(勝手向不如意にて石田小右衛門へ改革仕法任せるにつき)	天保二年卯二月、天保四年巳十二月	1831	縦	1
り2		濃州加納天満宮九百五十年回神事勸進之記(嘉永5年2月21日より25日まで神事執行にて志の品々助力願い)	嘉永四辛亥年八月	1851	縦	1
り3		[大津三井寺別院近松寺支配説教者名前書上]	(享和3年カ) 亥閏正月	1803	縦	1
り4		貴船宮社木一件再返答書写(社木売払代金の明細不分明につき)	(弘化3年カ)	1846	縦	1



作 成	受 取	備 考
西組庄屋秀四郎扣		
		破損あり、資料には「と四七」と番号記載、前目録に記載なし
右村百姓代三十郎、年寄清右衛門、庄屋扇吾、同断元助、同断作十郎	町田孫四郎様御勘定留役、萩野寛一様	下書カ
右村百姓代三十郎、年寄清右衛門、庄屋扇吾、同断元助、同断作十郎	町田孫四郎様御勘定所御留役、萩野寛一様御勘定	下書カ、表紙「中山道河渡宿助郷安藤対馬守領分濃州方県郡木田村」
山田基助扣		破損あり
山田扣		
中山道河渡宿定助郷拾八ヶ村之内方県郡木田村百姓代友十郎、年寄藤七、同断九郎兵衛、同断又三郎、同断茂八、庄屋喜三郎、同断鎌吉郎、同断太八郎、寺田村百姓代文左衛門、同断久兵衛、年寄平五郎、同断文之丞、庄屋此蔵、一日市場村百姓代勇蔵、年寄重兵衛、同断久右衛門、同断幾次郎、庄屋為右衛門、小島村百姓代清兵衛、庄屋後見領左衛門、庄屋勝太郎	□（笠）松□（御）役所	ち6～ち7は綴、破損あり、綴じ紐に付箋あり、付箋「此願書江戸表江笠松御役所より御達ニ相成候ニ付出府致し不申候、其御他領も別段出府者無之事」、河渡宿問屋の奥印あり
岩田楯三郎御代官所中山道河渡宿定助郷組合之内方県郡木田村百姓代友十郎、年寄藤七、同断九郎兵衛、同断又三郎、同断茂八、庄屋喜三郎、同断鎌吉郎、同断太八郎、寺田村百姓代文左衛門、同断久兵衛、年寄平五郎、同断文之丞、庄屋此蔵、一日市場村百姓代勇蔵、年寄重兵衛、同断久右衛門、同断幾次郎、庄屋為右衛門、小島村百姓代清兵衛、庄屋後見領左衛門、庄屋勝太郎	□□□（笠松御）役所	表紙「庄屋喜三郎扣」、河渡宿問屋の奥印あり
神主従五位下藤原朝臣宮邊讚岐守記良		破損あり、印刷物、「彫工岐南巖々舎」とあり
庄屋、年寄、百姓代、柿ヶ瀬村人定八	笠松御郡代所	「方県郡村々式拾三人組合之内」とあり
元助扣		

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
り5		乍恐一(中組貴船大明神社内の社木売払代 金返金願いにつき)	(弘化3年カ)	1846	縦	1
り6		九条殿兼実公六百五十回忌二付御施経御冥 加帳	(安政年間カ)		横長	1
ぬ1		巳年諸事覚留帳	寛政九年正月吉日	1797	横長	1
ぬ2		子年諸事覚帳	享和四年正月吉日	1804	横長	1
ぬ3		巳年諸事覚留帳	文化六年正月吉日	1809	横長	1
ぬ4		未年諸事覚帳	文化八年正月	1811	横長	1
ぬ5		申年諸事覚帳	文化九年正月吉日	1812	横長	1
ぬ6		戌年諸事日記帳	文化十一年正月吉日	1814	横長	1
ぬ7		亥年諸事日記帳	文化十二年正月吉日	1815	横長	1
ぬ8		寅年諸事覚帳	文化十五年正月吉日	1818	横長	1
ぬ9		諸事覚帳	文政二年卯正月吉日	1819	横長	1
ぬ10		万日記覚帳	文政三年庚辰正月吉日	1820	横長	1
ぬ11		諸事日記帳	文政七年申正月吉日	1824	横長	1
ぬ12		諸事日記帳	天保二年卯正月吉日	1831	横長	1
ぬ13		諸事書留帳	天保八年酉正月吉日	1837	横長	1
ぬ14		諸事書留帳	天保九年戌正月吉日	1838	横長	1
ぬ15		諸事書留帳	天保十年亥正月吉日	1839	横長	1
ぬ16		諸事日記帳	天保十一年子正月	1840	横長	1
ぬ17		諸事書留帳	天保十二年丑正月吉辰	1841	横長	1
ぬ18		諸事書留帳	天保十三年寅正月吉日	1842	横長	1
ぬ19		諸事書留帳	天保十五年辰正月吉日	1844	横長	1
ぬ20		諸事書留帳	弘化三年午正月吉日	1846	横長	1
ぬ21		諸事書留帳	嘉永三年戌正月吉日	1850	横長	1
ぬ22		諸事書留帳	嘉永五年子正月	1852	横長	1
ぬ23		諸事書留帳	嘉永六年丑正月吉日	1853	横長	1
ぬ24		当寅冬諸事覚帳	嘉永七年十二月	1854	横長	1
ぬ25		当辰冬諸事覚帳	安政三年十二月	1856	横長	1
ぬ26		諸事書留帳	安政四巳年正月吉日	1857	横長	1
ぬ27		諸事書留帳	安政五年午正月吉日	1858	横長	1
ぬ28		諸事書留帳	安政六年未正月吉祥日	1859	横長	1
ぬ29		当戌盆後ヨリ諸事書留帳	文久二年七月	1862	横長	1
ぬ30		諸事日□(録カ)	文久三年亥八月	1863	縦	1
ぬ31		亥年小作勘定帳	寛政三年十一月吉日	1791	横長	1

作 成	受 取	備 考
		反古紙使用
西木田村門徒中		表紙のみ記載、中に記載無し
木田村山田秀四郎		
山田秀四郎		破損あり
木田村山田氏		
山田吉迢		
木田村山田俊吾		
木田郷山田吉迢		破損あり
木田村山田吉迢		破損あり
木田村山田俊吾		表紙「五月四日文政与改元」
木田□（村）山田俊吾		破損あり、綴じ紐切れ
山田俊吾		
山田氏		綴じ紐切れ
[ ]		綴じ紐切れ、表紙一部破損
山田氏		ぬ13の下に覚(間数・幅など書付)あり、 諸事書留帳などの綴じ紐の間に挟まれて いたカ
山田		綴じ紐切れ
山田氏		綴じ紐切れ
山田氏		綴じ紐切れ
山田氏		
山田氏		綴じ紐切れ、破損あり
山田氏		
山田氏		綴じ紐切れ
山田基助		
山田元助		
山田元助		
		表紙の綴じ紐部分に結び文2点あり
山田元助扣		
木田村山田氏		
木田村山田元助		
木田村山田元助		
庄屋秀四郎		
		表紙一部破損
木田村山田秀四郎		破損あり

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
ぬ32		巳年小作勘定帳	寛政九年十二月	1797	横長	1
ぬ33		亥年掟米勘定帳	享和三年	1803	横長	1
ぬ34		午年掟方小作勘定帳	文化七年十一月	1810	横長	1
ぬ35		田畑掟方小作勘定帳	文政四年巳九月吉祥日	1821	横長	1
ぬ36		当申之掟方小作勘定帳	文政七年九月吉日	1824	横長	1
ぬ37		当酉之掟方小作勘定帳	文政八年九月	1825	横長	1
ぬ38		当戌之掟方小作勘定帳	文政九年十月	1826	横長	1
ぬ39		当亥之掟方小作勘定帳	文政十年十月	1827	横長	1
ぬ40		当丑掟方小作勘定帳	文政十二年十二月	1829	横長	1
ぬ41		当卯掟方小作勘定帳	天保二年十月廿一日	1831	横長	1
ぬ42		午之掟方小作勘定帳	天保五年十月吉日	1834	横長	1
ぬ43		当未之掟方小作勘定帳	天保六年九月吉日	1835	横長	1
ぬ44		当申掟方小作勘定帳	天保七年九月	1836	横長	1
ぬ45		当酉掟方小作勘定帳	天保八年十月十七日	1837	横長	1
ぬ46		当戌掟方小作勘定帳	天保九年十二月	1838	横長	1
ぬ47		当子掟方小作勘定帳	天保十一年十月	1840	横長	1
ぬ48		当卯掟方小作勘定帳	天保十四年十月吉日	1843	横長	1
ぬ49		当辰掟方小作勘定帳	天保十五年十月吉日	1844	横長	1
ぬ50	1	当申掟方小作勘定帳	嘉永元年九月吉日	1848	横長	1
ぬ50	2	当戌掟方小作勘定帳	嘉永三年十月吉日	1850	横長	1
ぬ51		当丑掟方小作勘定□（帳）	嘉永六年十月	1853	横長	1
ぬ52		当卯掟方小作勘定帳	安政二年十月	1855	横長	1
ぬ53		当巳掟方小作勘定帳	安政四年十月日	1857	横長	1
ぬ54		当午掟方小作勘定帳	安政五年十月日	1858	横長	1
ぬ55		当未掟方小作勘□□（定帳）	安政六年十月日	1859	横長	1
ぬ56		当申掟方小作勘定帳	万延元年十月吉日	1860	横長	1
ぬ57		当酉掟方小作勘定帳	文久元年十月吉日	1861	横長	1
ぬ58		当亥之掟方小作勘定帳	文久三年亥九月	1863	横長	1
ぬ59		当寅□□□□□□（掟方小作勘定帳）	[ ]（嘉永7年カ）	1854	横長	1
ぬ60		金七諸色書付（金七所払い仰付けにて諸色・高など書上げ）	（安永2年）巳正月	1773	横長	1
ぬ61		いろいろ売物書留帳	文政三年辰二月吉日	1820	横長	1
ぬ62		万日記帳	文政十年亥正月吉日	1827	横長	1
ぬ63		金銀出入覚帳	天保四年巳三月	1833	横長	1
ぬ64		おかく死去ニ付諸事書留覚帳	天保四年巳四月晦日	1833	横長	1

作 成	受 取	備 考
木田村山田秀四郎		
木田村山田秀四郎		
山田吉迢		
木田郷山田秀四郎扣		裏表紙の綴じ紐に結び文あり
木田村山田秀四郎扣		
山田秀四郎扣		表紙「外ニ当引記有」
山田秀四郎扣		
山田秀四郎		
錦田村山田秀四郎扣		
錦田山田秀四郎扣		
木田村山田秀四郎		
木田村山田秀四郎		
山田氏		表紙「但シ新家十三郎扣分勘定共ニ」
山田元助		
山田元助		
山田氏		
山田基助		
山田基助扣		
木田村山田元輔		
木田村山田元助		
[ ] 山田 [ ]		表紙破損
木田村庄屋山田元助		
木田村山田元助扣		
木田村山田元助扣		
木□□(田村) 山田元□(助)		表紙破損あり
木田村山田元助		破損あり
木田村山田秀四郎		
山田秀四郎		
[ ] (木田村山田元助カ)		表紙破損あり
庄や八郎右衛門、秀四郎、弁蔵、小三治、 丈八、常右衛門、同村親類万四郎、嘉兵衛、龍介		ぬ75・78・82は関連史料
山田秀四郎扣		
山田氏		

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
ぬ65		金銀出入書留帳	天保五年午正月吉日	1834	横長	1
ぬ66		肴代御下用書出シ	天保十年亥十二月	1839	横長	1
ぬ67		田畑掟帳	天保十四年癸卯正月吉日	1843	横半	1
ぬ68		田畑掟帳	弘化三年丙午正月吉日	1846	横半	1
ぬ69		現金通	嘉永四亥年五月ヨリ（～文久2年）	1851	横半	1
ぬ70		切通藤屋新助方銘々払之分書抜帳	嘉永四年亥十二月	1851	横長	1
ぬ71		御肴通	文久元年辛酉十月吉日	1861	横半	1
ぬ72		御肴御入用	文久元酉極月	1861	横長	1
ぬ73		亥のとし手帳（下尻毛村より障り申来る小 小塚伏込の件など書付）	文久三年三月	1863	横半	1
ぬ74		金銀出入帳	慶応三年卯十二月十八日ヨリ	1867	横長	1
ぬ75		金七女房諸色付留帳扣（金七儀、所払い仰 付けにて諸色書上げ）	（安永2年）巳正月廿一日	1773	横長	1
ぬ76		御通（酒肴入用など）			横長	1
ぬ77		雑用帳（酒肴入用など）	卯七月		横長	1
ぬ78		〔木田村百姓金七、五人組頭の儀にて筋無 き儀申上げなど、聊かの儀も相手取り公事 出入を仕掛け村方を騒がせる者につき願 書〕	（安永元年）辰二月	1772	縦	1
ぬ79	①	仕切状之事（50俵大垣中印米）	（享保20年カ）卯ノ三月二日	1735	一紙	1
ぬ79	②	仕切状之事（50俵中印米）	（享保20年カ）卯ノ閏三月七日	1735	一紙	1
ぬ79	③	覚（米480俵仕切残金渡しにつき）	（享保20年カ）卯ノ閏三月廿二 日	1735	一紙	1
ぬ79	④	仕切状之事	（享保20年カ）卯ノ閏三月廿二 日	1735	一紙	1
ぬ80	①	御目録之事（米代銀差引勘定）	享保拾七年子ノ四月七日	1732	一紙	1
ぬ80	②	仕切状之事（50俵大垣米）	（享保18年）丑ノ四月八日	1733	一紙	1
ぬ80	③	仕切状之事（55俵無判米）	（享保20年）卯ノ二月廿七日	1735	一紙	1
ぬ80	④	仕切状之事（50俵小豆）	（享保20年）卯閏	1735	一紙	1
ぬ80	⑤	仕切状之事（100俵無判米）	（享保20年）卯三月十七日	1735	一紙	1

作 成	受 取	備 考
山田氏		
満津屋半次郎	山田秀四郎様	
		裏表紙「柿ヶ瀬 坂口三十郎 幅豊」
		裏表紙「柿ヶ瀬 坂口友十郎 国和□」
山田氏		
京屋清八	六ヶ村亀屋御客御庄屋 中様	「美濃笠松 京清」の印あり
松屋半次郎	坂口作重郎様	
山田秀四郎		破損あり
木田村庄屋八郎右衛門（印）、同断秀四郎（印）、年寄弁蔵（印）、同断小三治（印）、同断丈八（印）、同断常右衛門（印）、金七弟龍助（印）、同人従弟万四郎（印）、同人家筋親類喜兵衛（印）		ぬ60・78・82は関連史料
万屋源竹	山田様	
笠松近江屋太郎七	右村々御庄屋中様	
方県郡河渡村庄屋忠兵衛、同郡下鶴飼村庄屋市郎兵衛、同郡正木村庄屋与三右衛門、同郡則武村庄屋忠十郎、同郡黒野村庄屋与左衛門、同郡古市場村庄屋継右衛門、同郡交人村庄屋源左衛門、同郡下土居村庄屋藤三郎、同郡下曾我屋村庄屋利兵衛、同郡寺田村円之丞	笠松御役所	破損あり、ぬ60・75・82は関連史料
和田三郎兵衛（印）	美濃神戸高橋惣右衛門殿	ぬ79①～④は貼り継がれていた、端裏「伊勢川崎和田三郎兵衛仕切合」
小山弥十郎（印）	美濃神戸高橋宗右衛門殿	端裏「当閏三月七日小山弥十郎仕切合」
川崎田川九郎治（印）	美濃神戸高橋宗右衛門殿	
イセ川崎田川九郎治（印）	濃州神戸高橋惣右衛門殿	
鐘屋五兵衛（印）	山内四郎右衛門殿	ぬ80①～⑨は貼り継がれていた、端裏「山内四郎右衛門扣」
新（カ）水太三郎（印）	八木助市殿	
加藤藤太夫（印）	寺本清三郎殿	
田川九郎作（印）	寺本清三郎殿	印「伊勢川崎」
川崎田川九郎治（印）	天下須賀寺本利平次殿	端裏「利平次□仕切合」、印「伊勢川崎」



番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
ぬ80	⑥	仕切状之事 (114俵大垣米)	(享保20年) 卯三月十七日	1735	一紙	1
ぬ80	⑦	仕切 (亀山米162俵)	(享保20年) 卯閏三月二日	1735	一紙	1
ぬ80	⑧	仕切状之事 (100俵大垣米)	(享保20年) 卯ノ閏三月廿三日	1735	一紙	1
ぬ80	⑨	仕切状之事 (24俵亀山米)	(享保20年) 卯ノ閏三月廿三日	1735	一紙	1
ぬ81		〔諸事書留帳カ〕			横長	1
ぬ82		金七諸色付留帳扣 (金七儀、所払い仰付けにて諸事高・諸色書上げ)	(安永2年) 巳正月廿一日	1773	横長	1
ぬ83		柿ヶ瀬重内友十郎取替帳	寛政四年子十二月	1792	横長	1
ぬ84		紋右衛門仲蔵倅円助縁談之儀ニ付孫兵衛一類のもの共より村役人相手取出入一件ニ付返答書被仰付候ニ付書上写シ帳 (脇百姓紋右衛門ら葬礼の節に上下着用などにつき)	嘉永三年戌二月廿三日	1850	縦	1
ぬ85		《三角形計算例》				
ぬ86	①	覚 (亀山米仕切金につき)	四月一日取		切紙	1
ぬ86	②	覚 (亀山米仕切金につき)	四月一日		切紙	1
ぬ86	③	覚 (亀山米仕切金につき)	四月一日		切紙	1
る 1		六拾人講帳 (先年より村借金高難渋の処、近年江戸沙汰出入の入用など多く懸かり、借金減のため六拾人講取結びにつき)	明和元甲申年十二月吉日	1764	縦	1
る 2		頼母子講手形之事 (年貢差詰まり金子質地書入れ借用の処、備講まで利銀勤めにつき)	(文化元年～7年)	1804	縦	1
る 3		金銀融通覚帳	文政十三年寅正月吉日 (～天保7年)	1830	横長	1
る 4		金銀融通帳	天保三年辰十二月吉日 (～天保9年)	1832	横長	1
る 5		金銀融通覚	(天保11年～嘉永2年)	1840	横長	1
る 6		金銀融通覚	文久元年酉十月 (～慶応元年)	1861	横長	1
る 7		金銀融通帳	文久元年酉十二月吉日	1861	横長	1
る 8		講加入帳 (拾三年元切牧田講・頼母子講など)	文政八年酉正月吉日	1825	縦	1
る 9		〔積金講満講の節鬮金110両并に頂戴金200両村々割賦帳・御満講につき頂戴金200両并110両鬮金割賦御酒料共割賦帳〕	文政十三年寅十一月	1830	横長	1
る10		御酒御吸物料割賦帳	文政十三年寅十一月十五日	1830	横長	1

作 成	受 取	備 考
田川九郎作 (印)	寺本利右衛門殿	端裏「卯三月十七日九郎作仕合」、印「伊勢川崎」
前野山田善左衛門 (印)	富田寺本清三郎殿	
川崎田川九郎作 (印)	寺本清三郎殿	印「伊勢川崎」
田川九郎作 (印)	寺本清三郎殿	印「伊勢川崎」
木田村庄屋八郎右衛門 (印)、同断秀四郎 (印)、年寄弁蔵 (印)、同断小三治 (印)、同断丈八 (印)、同断常右衛門 (印)、金七従弟万四郎 (印)、同人家筋親類喜兵衛 (印)、同人弟龍助 (印)		表紙朱書「扣」、ぬ60・75・78は関連史料
木田村当人紋左衛門 (印)、同断円助 (印)、親類惣代嘉兵衛 (印)、世話人坂口三郎右衛門、百姓代坂口三十郎 (印)、年寄茂八、年寄又次郎 (印)、同断山田清右衛門 (印)、庄屋見習堅次郎、同断坂口勢十郎、庄屋長屋扇吾、同断山田元助、庄屋坂口作十郎	御役所	表紙「庄屋山田元助扣」
		現在所在不明
		ぬ86①～③は貼り継がれていた、前目録に記載なし
		端裏「亀山米仕切合」
木田村西組頭分連中		
山田吉迢		
山田氏		挿入紙あり
山田扣		表紙「壺番」
山田氏		表紙「三番」
山田吉房		
山田秀四郎扣		表紙「一番」、裏表紙「濃陽方県郡錦田邨山田氏」
惣代山田秀四郎		る9・る10はもとは一綴カ、綴じ穴跡あり
方県郡惣代		切れた綴じ紐あり

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
る11		御裏印抜講懸金請取帳	天保二年卯十二月	1831	横長	1
る12		乍恐奉願上候口上之覚（他の頼母子講利懸金不足にて、秀四郎ら講元の頼母子講利懸金より出金申立など差入組につき）	天保十亥年五月	1839	縦	1
る13		乍恐口上之覚（秀四郎ら講元の頼母子講と作十郎取結びの頼母子講、差入組の儀につき）	天保十亥年七月	1839	縦	1
る14		式百拾人講割戻シ書記帳	天保十三年寅五月	1842	縦	1
る15		相統融通講仕法帳	嘉永四亥年十月	1851	縦	1
る16		質物流相渡し申田地之事（年貢差詰り、質流れの田地代金81両請取につき）	嘉永五子年四月	1852	縦	1
る17		十会十一会兩年掛金之覚			横長	1
る18		〔銭不融通にて買廻り他所へ売出す者の吟味の件、改鑄まで金銀取替・両替滞りなく通用の件など触〕	二月		切紙	1
お1		覚（下用書付帳）	戌十二月		横長	1
お2		覚（下用書付帳）	子七月		横長	1
お3		〔諸事書留帳〕	（未年）		横長	1
お4		覚（夫食手当てにつき連印帳）	酉十月		横長	1
お5		〔諸事書留帳〕	（亥年）		横長	1
お6		〔柿ヶ瀬・戌新畑の池成など反別書上帳〕			横長	1
お7		〔立毛内見合附帳〕			横長	1
お8		〔下用帳〕			横長	1
お9		〔高・反別書上帳〕			横長	1
お10		覚（人数書付）			横長	1
お11		覚（助郷人馬賃銭書上帳）	文政五年二月	1822	横長	1
お12		いたや井ぬりとめ人足（覚帳）			横長	1
お13		〔御裏印講掛金受取・先納金利足など書上帳〕			横長	1
お14		〔郡中割賦帳カ〕	（天保2年）	1831	横長	1
お15		〔年貢勘定帳〕			横長	1
お16		〔三千両割丑年小前利盛覚・古荒所引・子年献金西組小前覚など諸事覚書〕	（嘉永5～6年）	1852	横長	1
お17		〔荒所反別・高など書上帳〕	（巳年）		横長	1
お18		覚（皆濡・半濡米など書付）			横長	1
お19		〔土地面積など書付〕			横長	1
お20		〔月割金利足など取調帳〕	（巳～午年）		横長	1

作 成	受 取	備 考
方県郡惣代		
山田秀四郎（印）		表紙「上」
坂口作十郎		
方県郡惣代		
木田村質地主坂口作十郎、請人一		「庄屋山田元助」の奥書あり
		前目録に記載なし
亀屋源四郎	木田村御庄屋中様	
角山内蔵助	木田村御庄屋中様	
		破損あり、綴じ紐切れ、前後欠
	庄屋・年寄中	破損あり
		前後欠
松下内匠支配所中山道河渡宿問屋八兵衛、同断久右衛門、年寄忠兵衛、同断清兵衛	道中御奉行所様	
		破損あり、綴じ紐切れ
		破損あり、綴じ紐切れ
		帳はずれ、2枚
		破損あり

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
お21	①	三ツ又まへ覚（人足など書付）	（2月～3月）		横長	1
お21	②	覚（三つ又人足など書付）	（2月）		一紙	1
お21	③	覚（人足賃など書付）	（2月）		切紙	1
お22		〔高・諸引き書付〕			横長	1
お23		覚（払下げ米・払下げ先など書付）			横長	1
お24		〔納米など書付〕			横長	1
お25		〔子丑二ヶ年引高書付〕	（子・丑年）		横長	1
お26		戌勘定写シ（帳）	（戌年）		横長	1
お27		覚（払下げ米の数量・種類など書付）			横長	1
お28	①	覚（下用金書付）	亥七月		一紙	1
お28	②	覚（下用金書付）	亥七月		一紙	1
お28	③	覚（下用金書付）	亥十二月		横長	1
お29		覚（下用金書付）	亥七月		横長	1
お30		〔下用金書付帳〕			横長	1
お31		〔千石免割帳〕	天保十一子年十二月十六日	1840	横長	1
お32		〔立毛内見合附帳〕			横長	1
お33		〔池成・押堀など水損地書上帳〕	嘉永七寅年八月	1854	横長	1
お34		柿ヶ瀬分取調（反別・高など）			横長	1
お35		〔諸事書留帳〕	（嘉永4年）	1851	横長	1
お36		〔千石免割帳〕	弘化四未年十二月十五日	1847	横長	1
お37		〔人足并取替物仕出帳・諸引高書付帳〕	（卯年）		横長	1
お38	①	〔友十郎算用覚〕	（寅年）		横長	1
お38	②	〔諸事書留帳〕	（巳年）		横長	1
お38	③	〔年貢勘定帳〕	（申年）		横長	1
お38	④	〔人足帳〕			横長	1
お38	⑤	〔人足賃書付〕			一紙	1
お39	①	〔立毛内見合附帳〕			横長	1
お39	②	〔免割帳〕	（午年）		一紙	1
お39	③	〔村小入用帳〕	（天保2年）	1831	横長	1
お40		〔村小入用帳〕	（卯年）		横長	1

作 成	受 取	備 考
		お21①～③は綴
		前後欠
		「此帳面不用」とあり、前欠カ
角屋内蔵助	木田村御役人中様	お28①～③は綴
角屋内蔵助（印）	川部村外十式ヶ村御役人中様	印に「濃州笠松」とあり
角屋内蔵助	木田村御役人中様	綴じ紐に結び文あり
角屋内蔵助	木田村御役人中様	
		前欠
		表紙欠、庄屋坂口作十郎・同断扇吾・年寄3人・百姓代2人・惣代28人の連印あり
		お32～お59は前目録に記載なし
		前後欠カ、「新米売払覚」「払金覚」などあり
		前欠、最初の2帖は別の免割帳カ、庄屋坂口作十郎・同断長屋扇吾・庄屋見習2人・年寄3人・百姓代1人・惣代27人の連印あり
		破損あり
		お38①～⑤は綴、以前の整理時に綴られたカ、破損あり、4枚
		17枚
		5枚
		7枚
		1枚
		お39①～③は綴、以前の整理時に綴られたカ、13枚
		1枚
		12枚

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
お41		〔調達金利足書付・入組一件につき取替覚 など諸事覚書〕	(寅年)		横長	1
お42		〔諸事書留帳〕	(文政8年)	1825	横長	1
お43		〔木田村三組の高・取米など書付〕			横長	1
お44		〔献金覚など諸事覚書〕			横長	1
お45		〔村方取替物覚カ〕	戌十二月		横長	1
お46		〔諸事書留帳〕			横長	1
お47		〔諸事書留帳〕			横長	1
お48		〔納米書付・駄賃日記帳〕			横長	1
お49		〔勘定覚〕			横長	1
お50		〔諸事書留帳〕			横長	1
お51		〔人足帳〕	(明治4年)	1871	横長	1
お52		〔借入金覚帳〕			横長	1
お53		〔村小入用帳〕			横長	1
お54		〔検見・堤切所見分など役人出張時の諸入 用取替覚〕			横長	1
お55		〔小作勘定帳〕			横長	1
お56		〔押堀・砂入など水損地書上帳〕			横長	1
お57		〔高・反別書上帳〕			横長	1
お58		〔払米覚〕	未ノ六月		縦	1
お59		〔金銀出入・古米売払覚など諸事覚書〕	(嘉永5年)	1852	横長	1
明治1	①	地主銘々買苗手当三組引取調帳	明治元年辰十二月	1868	横長	1
明治1	②	河渡宿行助船蒲団手当	明治元年辰十二月	1868	横長	1
明治2		〔地所売買譲渡ニ付地券渡方規則・雛形綴〕	(明治5年2月～9月)	1872	縦	1
明治3		生徒人員取調記(6歳以上男子、6歳以上 13歳以下女子)	明治六年第八月	1873	横長	1
明治4		おぼへちよう	(明治13年)	1880	小横	1
明治5		壬申貢租取立御高米懸帳(脛永村)	明治五年十二月十日	1872	横長	1
明治6		貢租取立御高米掛帳(脛永村)	明治七年亥(戌)十二月	1874	横長	1
明治7		貢租取立御高米掛帳(脛永村)	明治七年戌十二月	1874	横長	1
未1		〔小作勘定帳〕			横長	1
未2		〔一高壺石八斗壺升九合五夕 清蔵…〕〔高 など書付〕			切紙	1
未3		〔諸事書留帳〕	(文政5年カ)	1822	横長	1



作 成	受 取	備 考
		前後欠カ
友十郎（印：美濃柿ヶ瀬坂口 [ ]）	木田村庄屋中様	
		破損あり
		破損あり、挿入紙あり、前後欠カ
		前欠
		前欠
木田村庄屋長屋齋之進、同断山田元助、 同断坂口作十郎	御役所	
西組扣		明治1①～②は綴、裏表紙の綴じ紐に結 び文あり
西組		
		2月のものは印刷物、9月のものは写
木田村		
		表紙「戸長、副戸長」「中村、中瀬古」
		表紙「戸長、副戸長」「中村、中瀬古」
		表紙「戸長、副戸長」「北瀬古、出屋敷、 下瀬古、溝口、出作」
		未1～未102は前目録に記載なし 帳くずれ、14枚
		剥離紙カ
		帳くずれ、7枚、破損あり

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
未4		〔小作勘定帳カ〕			横長	1
未5		〔年貢勘定帳〕			横長	1
未6		〔村小入用帳〕	(天保12年カ)	1841	横長	1
未7		〔諸事書留帳〕	(享和3年カ)	1803	横長	1
未8		〔免割帳〕			横長	1
未9		〔人足帳〕			横長	1
未10		〔人足帳〕			横長	1
未11		〔村小入用帳〕			横長	1
未12		〔年貢勘定帳〕			横長	1
未13		〔下用帳〕			横長	1
未14		〔支払金など覚〕			横長	1
未15		〔人足帳〕			横長	1
未16		〔五百石人足・入用帳〕			横長	1
未17		〔人足并取替物仕出帳〕			横長	1
未18		〔人足帳〕			横長	1
未19		〔村小入用帳カ〕			横長	1
未20		〔郷蔵有米書付〕	(亥正月22日改)		横長	1
未21		〔白紙〕			横長	1
未22		〔立毛など書付〕			横長	1
未23		〔柿ヶ瀬分畑反別・高など書付〕			横長	1
未24		〔講金預り一札など書留帳〕	(文政13年)	1830	横長	1
未25		〔人足并取替物仕出帳〕			横長	1
未26		〔盆前・盆後支払金覚〕	(亥・子年)		横長	1
未27		〔年貢米庭帳〕			横長	1
未28		〔古新畑長・敷など書付〕			横長	1
未29		〔調達金など書付〕			横長	1
未30		〔村小入用帳〕	(文政10年)	1827	横長	1
未31		〔諸事書留帳〕			横長	1
未32		〔人足并取替物仕出帳〕			横長	1
未33		〔小作勘定帳〕			横長	1
未34		〔人足并取替物仕出帳〕			横長	1
未35		〔押堀など水損地書上帳〕			横長	1
未36		〔村小入用帳〕			横長	1
未37		〔諸事書留帳〕			横長	1
未38		〔当夏掟方入米覚〕			横長	1

作 成	受 取	備 考
		帳くずれ、1枚
		帳くずれ、4枚
		帳くずれ、18枚、切れた綴じ紐あり
		帳くずれ、19枚、切れた綴じ紐あり
		帳くずれ、6枚
		前欠、綴じ紐切れ、8枚
		帳くずれ、5枚
		帳くずれ、22枚
		帳くずれ、1枚
		帳くずれ、4枚
		帳くずれ、2枚
		帳くずれ、2枚
		帳くずれ、13枚
		帳くずれ、3枚
		帳くずれ、10枚
		帳くずれ、1枚
		帳くずれ、2枚
		帳くずれ、1枚
(庄屋見習山田秀四郎、庄屋長屋齋之進、 同断山田元助、同断坂口作十郎)	(御役所)	帳くずれ、1枚
		剥離紙カ
		帳くずれ、2枚
		帳くずれ、3枚
		帳くずれ、1枚
		帳くずれ、16枚、破損あり
		帳くずれ、1枚、未42と同じ冊子カ
		帳くずれ、1枚
		帳くずれ、9枚
		帳くずれ、5枚
		帳くずれ、1枚
		帳くずれ、9枚
		帳くずれ、11枚
		帳くずれ、11枚
		帳くずれ、1枚
		帳くずれ、6枚、破損あり
		帳くずれ、2枚

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
未39		〔廻状写帳・河渡宿助郷人馬日記帳〕			横長	1
未40		〔廻米内訳など書付〕			横長	1
未41		〔普請材料・代金など書付〕			横長	1
未42		〔古新畑長・敷など書付帳〕			横長	1
未43		〔人足帳〕			横長	1
未44		〔廻状写帳〕			横長	1
未45		覚（金銀など書付）			切紙	1
未46		覚（濡米勘定につき）			切紙	1
未47		〔村小入用帳〕			横長	1
未48		〔免割帳〕			横長	1
未49		〔廻状写帳〕	（天明4年カ）	1784	横長	1
未50		〔村小入用帳〕			横長	1
未51	①	〔免割帳カ〕			横長	1
未51	②	〔講金勘定覚〕			横長	1
未51	③	辰之千石免割帳	明治元年十二月	1868	横長	1
未51	④	〔金銭・代米など書付〕			横長	1
未51	⑤	〔免割帳カ〕			横長	1
未51	⑥	〔村小入用帳〕	（辰年）		横長	1
未52		〔人足帳〕			横長	1
未53		〔小作勘定帳〕			横長	1
未54		覚（皆濡・半濡米など俵数書付）			切紙	1
未55		〔村調達の借用金・預り金など覚〕	（子年）		横長	1
未56		〔年貢勘定帳〕			横長	1
未57		〔算用書〕			横長	1
未58		〔廻状写帳〕	（辰年）		横長	1
未59		〔人足帳〕			横長	1
未60		〔千石免割帳〕	（午年）		横長	1
未61		〔小作勘定帳〕			横長	1
未62		〔千石免割帳〕	弘化三年十二月十五日	1846	横長	1
未63	①	〔立毛内見合附帳〕			横長	1
未63	②	〔人足并取替物仕出帳〕			横長	1

作 成	受 取	備 考
		帳くずれ、3枚
		帳くずれ、1枚
		帳くずれ、1枚
		帳くずれ、2枚、未28と同じ冊子カ
		帳くずれ、3枚
		帳くずれ、3枚、破損あり
		帳くずれ、2枚
		帳くずれ、1枚
		帳くずれ、4枚、破損あり
		帳くずれ、1枚
		未51①～⑥は綴、綴り紐切れ、1枚
		3枚
木田村西組庄屋秀四郎		7枚、このうち1枚は剥離紙カ、庄屋太八郎・同断鎌吉郎・庄屋後見2人・年寄4人の連名あり
		1枚
		1枚
		11枚
		帳くずれ、11枚
		帳くずれ、7枚
		帳くずれ、1枚
		帳くずれ、1枚
		帳くずれ、2枚
		帳くずれ、1枚、未67・69と同じ冊子カ
		帳くずれ、1枚
		帳くずれ、12枚、未62と同じ冊子カ
		綴じ紐切れ、前欠
		綴じ紐切れ、前欠、庄屋坂口作十郎・同断長屋扇吾・庄屋見習1人・年寄3人・百姓代1人・惣代27人の連印あり、未60と同じ冊子カ
		未63①～②は綴、4枚
		1枚

番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
未64		〔千石免割帳〕	天保二卯年十二月十六日	1831	横長	1
未65		〔俳句書付〕			縦	1
未66		〔土地図面〕			切紙	1
未67		〔廻状写帳〕	(辰年)		横長	1
未68		〔村小入用帳〕			横長	1
未69		〔廻状写帳〕	(辰年)		横長	1
未70		〔諸事書留帳〕			横長	1
未71		〔年貢勘定帳〕			横長	1
未72		地下人足長 (帳)	酉年		横長	1
未73		〔白紙〕			横長	1
未74		〔金銭勘定渡帳〕			横長	1
未75		〔調達金之覚〕			横長	1
未76		〔諸事書留帳カ〕			横長	1
未77		〔普請役役人名書付〕			横半	1
未78		〔小作勘定帳〕			横長	1
未79		〔年貢勘定帳〕			横長	1
未80		月用金請取通 (収納米の内、25俵替の相場の金子にて納めにつき)	天保九戌年正月	1838	一紙	1
未81		〔数量・人名など書付〕			横長	1
未82		〔鷺山村から、堤一件相談に預りたく会合願いにつき書状写〕	(卯正月)		切紙	1
未83		〔不足数量など書付〕			切紙	1
未84		覚 (納米渡しにつき)	三月十七日		切紙	1
未85		〔銀銭など書付〕			切紙	1
未86		〔上納竹の義につき書状〕	十月九日		切紙	1
未87		〔割金上納の件につき書状〕	廿二日		切紙	1
未88		〔一利喰銀壺匁ニ付 同壺升九合式夕…〕 〔利銀銭の取替高書付〕	十二月二日		切紙	1
未89		乍恐以書付奉申上候 (わらんじ・そうり・菓子・青物類・たばこ・蠟燭などの作間商売願い下書カ)	天保十三寅年七月	1842	切紙	1
未90		口演 (割符金持参にて算用願いにつき)	七月八日		切紙	1
未91		御用向諸事覚帳	天保十一年子二月	1840	横長	1
未92		〔白紙〕			横長	1

作 成	受 取	備 考
		帳くずれ、28枚、破損あり、庄屋坂口作十郎・同断扇吾・年寄3人・惣代22人の連印あり
		帳くずれ、5枚、「冬題小春霜茶の花麦蒔巨(炬)燧」「卷元榎月」とあり
		帳くずれ、2枚、未58・69と同じ冊子カ
		帳くずれ、1枚
		帳くずれ、1枚、未58・67と同じ冊子カ
		帳くずれ、2枚
		帳くずれ、2枚
柿ヶ瀬坂口重内		帳くずれ、1枚、表紙のみ
		帳くずれ、1枚
		帳くずれ、1枚
		帳くずれ、1枚
		帳くずれ、2枚
		帳くずれ、1枚
		帳くずれ、1枚
		帳くずれ、1枚
和田万弥(印)、井上九十郎(印)、平八太夫(印)、金古甚五右衛門(印)、小林八右衛門(印)、松本要人(印)	方県郡木田村庄屋、年寄、百姓代	「当戌月用金三千両也、月々ニ割合…」とあり
		帳くずれ、1枚
東組	西・中御両組様	
万や長左衛門	山田秀四郎様、仙太郎様、久二郎様	
与市	秀四郎様	
		前欠
木田村庄屋山田元助	御役所	反古紙使用
御望村郷市左衛門	木田村山田秀四郎様	
惣代山田秀四郎		帳くずれ、1枚、表紙のみ
		帳くずれ、2枚



番号	枝番	表 題	年 代	西暦	形態	数
未93		〔白紙〕			横長	1
未94		〔白紙〕			横長	1
未95		〔くり板数など書付〕			横長	1
未96		〔書状下書〕			切紙	1
未97		〔俵数など書付〕			横長	1
未98		〔村小入用帳〕			横長	1
未99		〔人足賃・取替高など書付〕			横長	1
未100		下用帳	万延元年申十二月	1860	横長	1
未101		〔祭礼入用など書付〕			横長	1
未102		〔小作勘定帳〕			横長	1

作 成	受 取	備 考
		帳くずれ、1枚
		帳くずれ、5枚
		帳くずれ、1枚
		帳くずれ、1枚、破損あり
		帳くずれ、1枚
		帳くずれ、1枚
藤屋新助	木田村御村役人衆中様	帳くずれ、1枚、表紙のみ
		帳くずれ、1枚
		帳くずれ、31枚



## 編 集 後 記

本目録を作成するにあたって、多くの方々のご協力をいただきました。ここに謝意を表します。また、いつも貴重なご意見・ご感想をくださる「火曜喫茶室」（歴史関係の勉強会）の参加者の方々に感謝申し上げます。

（中尾）

### ご協力・ご教示いただいた方々 （敬称略）

岐阜県歴史資料館 岐阜県図書館

岐阜市歴史博物館

伊東久之 笥真理子 松田之利

### 本目録の担当

監修 朴澤直秀

編集・執筆 中尾喜代美

岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵史料目録(2)

### 美濃国方県郡木田村 山田家文書目録

---

発行日 2010年3月8日

編集・発行 〒501-1193 岐阜市柳戸1-1

岐阜大学 地域科学部 地域資料・情報センター

<http://rilc.forest.gifu-u.ac.jp/>

印刷 西濃印刷株式会社

